

2024

ALPHA



兵庫県立淡路景観園芸学校

Awaji Landscape Planning & Horticulture Academy

はじめに



学長兼校長 柴田 昌三

淡路景観園芸学校は、阪神・淡路大震災を経験し復興を成し遂げた淡路島において、我が国で初めて「景観園芸」という学際的学問分野を掲げて平成11年に開学した教育研究機関です。

これまでに、兵庫県立大学大学院でもある「景観園芸専門課程」を454名が修了し、兵庫県はもとより全国でまちづくりや環境のエキスパートとして、活躍しています。また、平成14年に開講し、公的機関において初めて設置された園芸療法の指導者を養成する「園芸療法課程」からは297名が兵庫県園芸療法士として巣立ち、各地の医療、福祉現場などで日々、活動しています。さらに、広く県民を対象とした「生涯学習課程」では、これまで8,000名を超える修了者を出し、彼らは地域活動のリーダーとして活躍しています。

一部の課程では、近年、経済上の理由や働き方の変化などから受験者・受講者が減少傾向にありますが、一方で、今後の人口減少、少子化社会の長期化の中で、個人の健康活動維持にかかる「園芸療法」のニーズは増していくと考えられます。これを受けて、令和6年度には「園芸療法課程」のカリキュラムの見直しを開始し、令和8年度から新たなカリキュラムのもとで通学制による新体制を構築するための計画を進めました。

本校での学びの経験は、人々の身近な生活の片隅からグローバル化を進める原動力となると自負しています。これからも、より魅力的な学校として発展していくために、世界レベルで活躍できる緑・景観への高度な知見を持つ地域経営のプロフェッショナルの育成を続けていく所存です。

今日では、地震や山火事などの災害が毎年のように発生しており、それらの被害地の再生のためにも本校が持つ知見は不可欠です。また、社会において、自然と共生し、自然を慈しみながら生き生きと生活していくことができる「まちづくり」、「環境づくり」が必要なことは明らかで、本校の変わることのないテーマとして取り組んでまいります。今後とも、ご支援ご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

※この学校報の内容は、令和6年度に行った教育・研究活動等について記載したものであり、教員の役職名等は当時のものである。

目次

はじめに

I 学校の概要

- 1 兵庫県立淡路景観園芸学校について 1
- 2 教育・研究部門の紹介 5

II 特集・記事

- 1 特集:ランドスケープの新潮流セミナー「地域経営とランドスケープ」 9
 - (1) 自然環境も人も健全に –
ガーデニングと先住民の土地とのつながりを活かしたエコヘルスの研究 10
 - (2) 都市近郊農村の可能性を探る 11
 - (3) One Healthと園芸療法 植物との関わりによる健康づくりの今後 12
- 2 淡路景観園芸学校 SDGsの取り組みについて 13
- 3 淡路景観園芸学校図書館(2024年度) 14
- 4 修了生だより 学校で学んだことを活かして 15
- 5 修了生だより 園芸療法に支えられる日々 16
- 6 2024年度 NPO法人 園芸療法と歩む会 活動報告 17
- 7 受賞
 - (1) 2024年度日本造園学会関西支部大会での学生の受賞 18
 - (2) 2024 Global Landscape Architecture Conference,
Student Charretteでの学生の受賞 19
 - (3) 令和6年度兵庫県農業賞の学生の受賞 20
 - (4) 人間・植物関係学会、日本園芸療法学会
2024年度合同大会での修了生の優秀発表賞の受賞 21
 - (5) 2023年度日本造園学会奨励賞(著作部門)の受賞 22
- 8 出展報告
 - 2024ひょうごまちなみガーデンショーin明石
 - 淡路花祭2024秋・高校生花とみどりのガーデン 23

III 教育・研究活動

- 1 教育活動
 - (1) 景観園芸演習(修了演習)の概要 25
 - (2) まちづくりガーデナー・本科コース 33
 - (3) まちづくりガーデナー・マスターコース 35
 - (4) まちづくりガーデナー・テーマコース 37
 - (5) まちづくりガーデナー・本科コースを修了して 38
 - (6) まちづくりガーデナー・マスターコースを修了して 39

(7) AGNとの協働によるキャラバン事業の推進	40
(8) 園芸療法課程	41
2 研究活動	
受託研究／共同研究	
①食品リサイクル堆肥高付加価値化に関する実験的研究	42
②万博記念公園自然文化園における生物多様性に配慮した森づくり	43
③学習塾等における鉢物類効用調査	44
④令和6年度多井畑西地区交流広場整備等に係る支援業務	45
⑤湊地区活性化構想の策定および地域づくりチャレンジ事業のあり方について	46
⑥体験農園のユニバーサル化に関する研究	47

IV 一年のあゆみ

1 淡路景観園芸学校入講式	49
2 淡路景観園芸学校修了式	50
3 淡路景観園芸学校祭(ALPHA祭2024)	51
4 NPO法人アルファグリーンネットの一年(2024年度)	52
5 客員教員の招聘	
白川勝信先生	54
6 客員研究員の受け入れ	55
(1) 坂本 真理子 氏	
(2) 橘 俊光 氏	
(3) 横田 優子 氏	

V 教員個人活動記録

活動報告	57
------	----

VI 資料

1 マスコミ等掲載(取材)状況	85
2 情報発信	86
3 淡路景観園芸学校の来訪者概要	87

I 学校の概要



1 兵庫県立淡路景観園芸学校について

1. 景観園芸と建学の理念

1) 景観園芸とは

学問的な歴史を俯瞰すると、「造園学」が使用されはじめた1961年の前までは、造庭学、風致園芸学、築庭学、景園学などと称されていたが、その後、経済社会発展に伴う自然環境の保全・創出や都市化に伴う住環境の質的向上などの要求に対し、造園学の対象領域が拡大され、造園という言葉での概念化が困難になってきたこともあり、今では、環境緑地や環境デザイン、環境造園、ランドスケープという呼称を使用する高等教育機関が一般的になってきた。

一方、「園芸」は、時代潮流の変化により、様々な変遷があるものの、現在、国際的にも

「果樹園芸」、「蔬菜（野菜）園芸」、「花卉園芸」と3つに分類されている。なお、花卉園芸では、環境園芸、社会園芸、都市園芸など園芸の社会的位置づけの視点から多様な分類が生まれている。

「造園」と「園芸」、大学教育では、共に農学の分野にありながら、教育プログラムや教員・学生の相互交流、共同の調査研究も少なく、また、産業界においても、業態の違いもあり、明確に区分されており顧客の目から極めてわかりにくい状態である。

淡路景観園芸学校は、造園と園芸を融合させ、さらに、建築、土木、環境生態など本来一体となって生活空間を形成するための営為にお互いの関連性を取り戻し、まちづくりを経済性優先、効率性重視でない、自然と風土を見つめ直し、新しい社会における人々の豊かな暮らしのあり方を創造する文化的行為として位置づける新しい学問分野として「景観園芸」を目指すことになった。

2) 建学の理念について

淡路景観園芸学校は、「いきもの」に対する人類共通にもつ畏敬の念と愛情をもとに、常に人と自然の密接な関係の媒体になってきた花と緑を中心にして、地域独自の風土や

文化の創造、自然環境の保全に資する「景観園芸」を実践する教育研究機関である。

ここでは、先達から受け継がれた知恵を学びながら、新しい知恵を生み出し実践する教育研究の場として、またそれらが人々に広まっていく出発点になることを目標として、社会に役立つ専門技術者や指導者を育て、さらに、地域に有用な情報を育み、発信することとしている。

この学校の教員スタッフや修了生には、大きな使命がある。それは、我々の子供たちに受け継がれていくこの社会に、花と緑を通して本来の自然と共生する生活環境や文化をはぐくむ景観を保全、創造、再生すること。そこに、我々の教育が実学であり、学習歴を重視する由縁がある。

開設計画における建学の理念は次の通りである。

(建学の理念)

こころの豊かさは、自然との関わりのなかで育まれる。

「人と自然の共生」の思想のもと、花と緑に象徴される自然に学び、大地の恵みを知り、安全で、生命に満ちた地域社会を実現することが求められている。

花と緑をすこやかに生かし、あらゆる環境を快いものに創り守っていく、至高のこころと最良の技術を学ぶ景観園芸の実践的学術の府を、ここ「くにうみの地」淡路島にうち建てる。この学府を卒業したるものには、県土に、国土に、そして世界にあって、景観形成のパイオニアとして、こころ豊かな生活環境の創造、ひいては人類全体の共通の課題である地球環境の保全に資することをその使命とする。

2. 学校の5つの機能と目標

淡路景観園芸学校は、学校教育法に基づかない全国初の「景観園芸に関する」教育研究機関として位置づけられており、平成11年4月に開講した。人材養成機能、生涯学習機能、調査研究機能、情報発信機能、産業振興

機能の5つの機能を有し、その多様な機能を果たすため充実した施設、教員、教育プログラムを備えるとともに、柔軟で先見性、独自性に富んだ運営を行っている。

組織上、兵庫県まちづくり部の地方機関として位置づけられており、学校運営に関する予算などはまちづくり部を通じて措置している。なお、教員については、2009（平成21）年4月から併設している、兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科（景観園芸専門課程が兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科に改組）の教授、准教授らが兼務として景観園芸学校の講義、演習を担当しており、現在15名の教員が配置されている。

景観園芸教育の構成としては、「景観デザイン」、「景観植物資源」、「園芸文化・生活」、「景観マネジメント」の4つの部門で構成し、さらに部門ごとに2つの専門分野を設け、計8つの専門分野が相互に連携している。

さらに、植物の栽培、庭園や公園などの空間の設計・施工などの実技や生涯学習を担当するインストラクターや、社会で活躍中の一流の実務者を招請した兼任教員、海外からの客員教員からなっている。

1) 人材養成機能

大学卒業対象の景観園芸専門課程をはじめ兵庫県内に在住、在勤、在学している方を対象とした生涯学習教育、園芸療法課程など、花と緑への精通、人とこころを豊かにする空間のデザインや快適な環境の創造を担う人材育成、さらに園芸活動を通し人の心と身体をケアする人材育成など地域の課題を解決するため地域性に根ざした実践的で多様な教育プログラムを実践することにより社会が求める有用な人材、何事にも果敢に挑戦し新しい分野を切り開く人材を育てることを目標としている。

〔景観園芸専門課程〕

この課程は、21世紀の景観園芸のプロを育てることを目標としており、大学卒業者を対象に、2年間のカリキュラムで1学年約20名という少数で高密度かつ実践的な専門教育を行う。さらに、2年間全寮制というのも

大きな特徴である。1999（平成11）年4月開校以来、454名が修了し、兵庫県景観園芸士として、国家公務員、地方公務員、造園・園芸関連企業等全国各地の多方面で活躍している。

〔園芸療法課程〕

農業や園芸が人の精神や身体へ与える効果に注目して、高齢・障害などの理由で支援を必要とする人に対して、健康の増進や生活の質の向上などを目的として行う「園芸療法」を学ぶコースである。

従来の1年間全寮制コースに加え2012年度より2年間の通学制コースを新設した。

本課程は、公共機関では、全国で唯一の本格的な園芸療法の指導者養成コースで、医療・福祉あるいは園芸・造園分野に関心がある人を対象とした、少数精鋭教育である（定員全寮制15名、通学制10名）。

学校内での講義および演習のほか、全国各地の病院や社会福祉施設で通算500時間の園芸療法実習が特徴的である。2002（平成14）年9月開講以来、297名が修了し、兵庫県園芸療法士として全国各地の医療施設、福祉施設で活躍している。

また、園芸療法への社会的ニーズの変化に対応し令和8年度入学生から新カリキュラムでの開講を予定している。

〔景観園芸専門研修〕

課題解決型

恵まれた演習環境を園芸・造園界の社会人や大学生にも開放し、学校の人材や情報との交流を通じて、研修生の課題解決を支える。

修了に際しては、課題解決の報告書作成を課することとしている。

2) 生涯学習機能

全ての県民に開かれた教育を行う一環として、花や緑のまちづくりに関する地域社会のニーズにこたえる多彩なプログラムを開設し、花や緑に関する講義や実技体験を通じて、積極的に地域づくりに参画していくこころを育むことを目標としている。様々な講座を開設しているが、これまでに延べ8,23

5名の方が修了した。そのうち、まちづくりガーデナー本科コースは、開校以来修了生のうち、1,382名が「まちづくりガーデナー」として県知事認定を受け、兵庫県内各地で活動する花と緑のまちづくりグループのリーダーとして活躍している。また、平成28年度からは、みどりのまちづくりに貢献できる様々な技術や知識を体系的に学べるまちづくりガーデナーマスターコースを開設し、170名が「まちづくりガーデナーマスター」として県知事認定を受け、兵庫県内各地で花と緑の指導者として活躍している。

また、2010（平成22）年4月から行政とボランティア団体などとの間に立ち、花と緑のまちづくりや地域づくりを参画と協働で進める、地域に根ざした専門家を育成する「緑のまちづくりアドバイザー」コースを開設して、18名が「緑のまちづくりアドバイザー」として県知事認定を受けた。

なお、本科コース修了生を中心にNPO法人「アルファグリーンネット」を設立し、兵庫県各地のまちづくり活動を支援している。

3)調査研究機能

「調査研究」は、新分野としての景観園芸を確立していくための独創的、先駆的な調査研究の展開を図るとともに、地域の課題を的確に把握し、解決していく地域研究を行っている。

本校教員の景観園芸に関する調査研究が、村尾育英会学術賞や日本造園学会賞などを受賞してきたことからその成果がうかがえる。

4)情報発信機能

情報発信機能には、情報発信や社会貢献、さらに国際交流が含まれている。

情報発信では、毎年、本校を来訪する多くの人々を対象に、直接、学校を見て頂くと共に景観園芸の重要性を理解して頂くこととしている。学校のキャンパスは、庭園として全面公開しており、観光地としても位置づけられ、来訪者は、令和6年度は年間約11,500名にのぼる。また、学校報、紀要、ニュースレター、パンフレット、ホームページ、新聞など様々な媒体やメディアを通じて情

報を公開し、学校で生まれた成果の還元を多くの県民に図っている。

社会貢献では、県民主体による自然共生地域づくりを「参画と協働」により推進するため、人材養成のプログラムにおいて、地域課題を取り上げるほか、兵庫県をはじめ県内の自治体が開催する各種委員会・審議会に教員が参加するなど、積極的な活動を行っている。また、地元自治体の淡路市と地域連携協定を締結し、地域社会への貢献を積極的に行っている。さらに、県内の花と緑のまちづくり団体への様々な支援、さらに、社会福祉施設などへの園芸療法を活用した協力等を行っている。

国際交流では、ナイアガラ園芸学校（カナダ）との姉妹提携やボゴール農科大学農学部（インドネシア）、ワシントン大学森林資源学部（アメリカ）、北京林業大学（中国）、華東師範大学（中国）、とすでに協定を結んでおり、2013（平成25）年度には、8月にナイアガラ園芸学校と短期研修制の相互派遣制度を追加する調印を実施。また、11月には新たにロングウッドガーデンズ（アメリカ）やナショナルトラスト（イギリス）とも学術協定を結び、2014年度から相互に研修生を交換する制度を実施した。さらに2017（平成28）年1月に（財）ソウルグリーントラスト、2025（令和7）年3月に建国大学（韓国）と相互協定の調印を行った。

5)産業振興機能

産業振興機能は、異業種交流会の一つである「ひょうご環境緑化研究会」との連携を通じて最新緑化技術の開発や普及啓発を行ってきた。

また、兵庫粘土瓦共同組合連合会と協働して瓦素材を活用した新製品の開発をするなど地域資源を生かした地場産業の活性化に取り組んでいる。

3. 自己点検・自己評価および外部評価

1999（平成11）年4月の開校以来、学校運営は順調に推移してきたが、少子高齢化、地球環境問題の深刻化など当校を取り巻く社会環境の激変を踏まえるとともに、学校の将来展望を明確にするため、2004（平

成16)年度に自己点検・自己評価を行い、2005(平成17)年度に外部評価を行った。

また、2018(平成30)年度及び2023(令和5)年度には公益財団法人日本造園学会による認証評価を受審し、「大学評価基準を満たしている」との評価を得た。

4. 新たな取組

淡路景観園芸学校は、「景観園芸」という専門分野を活かし、学際的な分野をつなぎ持続可能な社会の構築に向けて教育や研究を行っている。具体的にはさらに学校の存在価値をアピールするため、「世界と交流」「地域と協働」「緑・景観・地域経営」のプロとなる人材育成を目標に掲げた「新展開戦略」をまとめ、新たなカリキュラム実践等の新しいステージに進んでいる。新展開戦略では、プロジェクトの大半が里山や里海保全につながるもので、SDGs 達成に向けた取組となっている。

また、「淡路花博25周年記念花みどりフェア」や「大阪・関西万博EXPO2025」に連動し「One Health」をテーマとした国際セミナーをwebに加え対面で開催した。

2 教育・研究部門の紹介

園芸文化・生活部門

園芸とは、人間が植物を多方面から理解しようとする行為である。人間が生活を営む身近な場所に植物を植えて育てることは、食用としての利用だけではなく、教育・文化の発展、快適な環境の形成、健康の改善、生活の質の向上を可能にする。

本部門では、このような植物と人間のかかわりに注目し、植物の栽培や暮らしの中での活用、療法としての利用についての幅広い知識と技術を深めることによって、人間における園芸の意味を明らかにし、生活のなかでの効果的な利用を目指す。

◆観賞園芸研究室

地球上の生物の一員であるヒトが同じ生物である植物に親しみを持つのは当然であろう。植物はヒトの生存や文化に大きな影響を与えている。とりわけ、わが国は植物との共存の歴史が長く、種々の行事に植物を敬う気持ちが表れている。科学や技術の進歩が必ずしもヒトに幸せをもたらすものではないことが明らかになった今日、植物に学ぶことはますます多いのではなかろうか。

園芸は植物を多方面から理解しようとする行為である。観賞園芸では、植物を食用だけではなく、やさしさ、美しさで評価する。美しい植物が織り成す優れた景観は、ヒトの文化がつくりだした最高の産物となる。美しい環境での安定した生活こそ、ヒトが求め続ける理想であろう。本研究室では、美しい景観を生み出す材料となる植物の生産と利用を使命としている。

スタッフ

札幌 高志 主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科准教授)

樋上 啓子 景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科講師)

◆園芸療法研究室

現代の日本では、国民の健康に関して、ストレス、介護予防、障害者の自立促進などがキーワードとなっている。

園芸療法は、心地よい緑のある環境、五感を刺激する植物、栽培活動、植物を用いた創造活動、園芸活動に参加する人がもたらす相互作用を活用して、人の健康回復や生活の質の向上をめざす療法である。

本研究室では、兵庫県知事認定園芸療法士の養成教育を行うとともに、園芸療法に関する国内外のエビデンス蓄積を行い、園芸がもたらすストレス軽減効果、認知症予防効果などの研究や、障害者農業就労支援の研究に取り組んでいる。

そして、エビデンスや研究結果をもとに、兵庫県園芸療法士と連携して、園芸療法を活用した認知症予防プログラム、公園での市民向けセルフ・ヒーリングプログラムなどを行い、園芸療法の普及拡大に努めている。

スタッフ

豊田 正博 主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授)

剣持 卓也 景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科講師)

森 晴美 土木業務技術員

景観植物資源部門

景観とは、我われの周辺に存在する自然物や人工物の総和であり、ある一定の空間をもったものとして認知される。視認可能なみどりや建築物のほか、草花のかおり、川のせせらぎなど視覚以外のさまざまな要素が絡み合って捉えられる。みどりは、自然度の高い場所では自立した系として植物群落が成立し、土地利用の進んだ場所では人為的影響によって植生が変化する。本部門では、植物に関する知識と技術を深めることによって、地域の個性を表現する良好な景観を保全・創造し、生活に潤いや愛着を与え、誇りをもてる地域づくりを目指す。

◆造園樹木研究室

景観を形成するさまざまな要素の中に樹木がある。造園樹木における「景観園芸」とは、生態的・造園的手法のもとで樹木の取り扱いに関する知識と技術を駆使して、快適空間を創造することであると考えている。樹木の中には、新緑のみずみずしさ、開花期の可憐さ、そして紅葉の美しさと常に視覚的な楽しみを我々に与えてくれる。この点で生物季節（フェノロジー）を知ることが重要である。また、公園における緑陰効果や森林浴におけるヒーリング（癒しの効果）などの効果をもたらしてくれる。このように樹木は、景観に貢献するばかりではなく、人にとってもかけがえのない生活環境をもたらしてくれる。本研究室では、公園や庭園に植栽される樹木から、都市近郊林の景観を形成するような樹木を対象とし、景観要素としての樹木やその集団の役割や効果を多面的な視点から調査・研究をする。

スタッフ

藤原 道郎 主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授)

大藪 崇司 主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科准教授)

金原 淳一 課長補佐

◆プランティングデザイン研究室

自然と人と社会が共生できる豊かな社会を形づくるのが切に望まれている。自然域では自然生態系システムをいかに保全するかが、都市域の公園や庭園、街路などにおいては植栽された樹木や草本の特性解明を通じた適切な植栽計画や維持管理計画をどう作成するかが重要である。都市近郊域や農村域では自然の仕組みを手本としつつ、いかに人為的インパクトを調整しその機能や構造を良好に保つかが重要となってくる。このように都市域から自然域といった広範囲での景観要素としての植物の機能や人間の関与は異なっており、多様である。

本研究室は新たな教育・研究分野としての景観園芸の一分野として、空間を形づくるさまざまな要素、中でも植物を中心として個体から集団までその特性を探求するとともに、それら特性のデザインへの応用・展開手法について研究をしている。

スタッフ

山本 聡 主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授)

澤田 佳宏 主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科准教授)

尾田 顕子 景観園芸専門員

景観マネジメント部門

当部門は景観を研究対象とし、「みどり」をキーワードに、それをツールとして人と自然の両者の関係性を明らかにし、その望ましい姿をその地域において実現していく方策を具体的・実践的に検証し、提案していくことを目標としている。

そのため、広域レベルで地域景観の現況を正しく把握することから始め、現代社会における環境の状況や役割、それへの期待なども含めた広い視野をもって、目標の設定、目標を実現するための計画、計画を実行するためのシステム、さらに実現されたものをより一層良好な状態に誘導していく運営手法などを明らかにしていく、という手順をとっている。

◆ランドスケーププランニング研究室

ランドスケーププランニング研究室では、都市の緑地（公園、庭園、街路樹など）や農村の緑地（水田、畑、草地、里山など）を対象とし、人々の暮らしを安全で快適なものにすることはもとより、気候緩和、防災、生物多様性保全など幅広い機能を十分に発揮させるべく、いかに緑地を配置し、その管理運営をしていくかについて調査研究している。近年では、それらの緑地は高度経済成長や都市の一方的拡大が終焉し、成熟社会を迎えるなかで、人口減少や高齢化など社会構造の大転換に対応した新たな計画手法を求められており、緑地の実社会でのあり方や管理運営に重点を置いた研究や実践活動を展開している。また、「子どもの発達と環境教育」「ユニバーサルデザイン」といった新たな分野にも取り組み、幅広い層の健康創造を、みどりをツールとして実現していくための調査研究を実施している。

スタッフ

美濃 伸之 主任景観園芸専門員

（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授）

嶽山 洋志 主任景観園芸専門員

（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科准教授）

◆花と緑のまちづくり研究室

安全、快適で美しく生き生きとしたまちを実現していくうえで、花や緑に代表される地域の自然との共生は不可欠なテーマである。しかし、それを実現していくのはその地域に住む人自身でもある。花や緑は美しく快適な環境を形成するだけでなく、人の心を癒し、喜びや活力を与えてくれ、さらには人と人をつなぎコミュニティ形成の媒体としても重要な役割も果たしている。したがって、このような花や緑の機能を最大限に生かすことによって、地域の人々の手による自立的で持続的なまちづくりが実現可能となる。しかし、このとき行政や地域住民、専門家やNPOなど多様な主体の有機的な連携も不可欠である。当研究室ではそのような連携に基づくまちづくりのあり方を探るとともに市民を対象とした講座の運営を通じてその普及・教育にあっている。

スタッフ

平田富士男 主任景観園芸専門員

（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授）

新保奈穂美 景観園芸専門員

（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科准教授）

蛭田 永規 景観園芸専門員

藤田 楓加 景観園芸専門員

景観デザイン部門

当部門は、景観形成に関わる空間のデザインとそれを支える技術を研究対象にし、快適環境の創出、美しい景観の形成を実現するために提案を行っている。

研究方針としては、土地固有のポテンシャルを引き出すこと、既存の価値ある自然的資源や社会資源を把握すること、特に身近な生活環境に対する問題の所在をはっきりと把握することに重点においている。そのためには、問題解決に向けた計画の策定や計画に従った具体的な空間設計、さらに設計を実現するためのテクニック及び関連する理論や技術上の裏付を明確すること、そして最後に最善案をまとめていくことが基本的なプロセスとなっている。

◆ランドスケープデザイン 研究室

今日、いわゆる環境問題は人類の生存に関わる重大な社会問題として認識され、地球レベルでのアプローチが見られるようになってきている。身近な生活環境に対する取り組みも多様なレベルで推進され、問題の所在を把握し、解決に向けた努力が継続されている。快適な都市環境の創造やランドスケープデザインへの試みもこうした分野の一部である。環境に対する社会的関与は、風景として視覚化される。ランドスケープデザイン研究室では、風景を社会と自然の関係性が視覚化される部分としてとらえつつ、風景に関わる様々な状態を研究している。オープンスペースの計画・設計だけではなく、立体造形やAI生成による表現、文学的な表現、身体表現など様々な媒体をとおして風景の本質を探究することを目標とする。

スタッフ

沈 悦 主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マゼット研究科教授)

竹田 直樹 主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マゼット研究科准教授)

光成 麻美 景観園芸専門員

◆ランドスケープエンジニア リング研究室

人々の快適な暮らしの実現には、生命を内包する緑の景観を保全し、創出し維持していくことが必要である。そのためには、緑の空間を支えている技術や素材の追及が必要である。同時に、緑による効果効用の科学的な裏付けも必要である。このことからランドスケープエンジニアリング研究室では、緑による効果効用について検証していくことと同時に、空間形成に不可欠な緑化技術、空間の重要な要素である樹木をはじめとする植物材料、その生育の基盤となる土壌などの環境要素、空間の構成員である生きものや人との関係などの研究を行うことにより、真に豊かなデザインの本質を見抜く能力を養うことを目的としている。特に、樹木などの植物や昆虫などの生き物が、人々とともに生き生きと輝く景観を重視している。

スタッフ

岩崎 哲也 主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マゼット研究科准教授)

Ⅱ 特集・記事



1 ランドスケープの新潮流セミナー —2024 年度—

柴田 昌三

令和6年度の新潮流セミナーも、多くの教職員の協力のもと、新保、剣持の各教員が主担となり、国外からの講師をお迎えして、対面とオンラインの併用によって、三回開催できました。WEBの併用による開催では、会場に来られない方々も含めて多くの聴衆を得られることから、このような開催方法が根付いていくことを期待しているところです。

第一回は「自然環境も人も健全に」がテーマでした。冒頭に新保主任景観園芸専門員／准教授が趣旨説明を行ったのち、オーストラリアのスウィンバーン工科大学上級講師のJonathan Kingsley博士から、同氏が健康促進の観点から行ってきたエコヘルス研究の知見について話をいただきました。また、先住民のアボリジニがもつ「カントリー (Country)」の概念が紹介され、自然との関係性を回復することが個人のみならず、地域社会や次世代の健全性に重要であることが語られました。質疑応答では、園芸療法、公衆衛生、先住民文化と自然との関係等さまざまな観点からの質問がありました。かつては迫害の対象でさえあったアボリジニの概念をオーストラリアの人々がリスペクトしておられることに大きな感慨を持った時間でした。

第二回のテーマは「都市近郊農村の可能性を探る」でした。冒頭に本校の新保准教授が趣旨説明を行ったのち、台湾からお迎えした慢島生活有限会社代表の頼青松氏から、日本での経験

に基づいて台湾で20年にわたって実践してきた「半農半X」の暮らしと、それに基づく地域づくりの経験が紹介されました。質疑応答では、都市近郊農業に対する国や地方自治体、農会からの支援の実情などについて質問がありました。このセミナーは、若い世代をいかに農業に取り込んでいくかという課題を日本でさらに考えていく上で、貴重な機会となりました。

第三回は「One Healthと園芸療法 植物との関わりによる健康づくりの今後」がテーマでした。建国大学大学院のSin-Ae Park (パクシナエ) 教授に、昨年が続いて登壇いただき、講演をお願いしました。また、本校の剣持講師が、日本における園芸療法のさらなる社会活用に関する話題提供を行い、それぞれの課題等について議論が行われました。セミナーでは、韓国では国家、大学、企業が園芸療法にしっかりとした理解を示し、積極的に支援を行っていることが明らかにされ、日本における園芸療法の今後を考える上で有益なものになりました。

2024年度の新潮流セミナーは、三回とも外国から講師をお呼びして、オンラインも併用して開催できました。各回の参加者数は、152、97、148名と盛況でした。今後も同様の手法を継続して、視野をさらに国際的に広げながら、緑、景観や環境に関する情報を発信し、社会に活かせるセミナーを続けていきたいと思えます。

— セミナー会場のようす —



—第2回 「都市近郊農村の可能性を探る」—



—第3回 「One Health と園芸療法」—

ランドスケープの新潮流セミナー 地域経営とランドスケープ 「自然環境も人も健全にーガーデニングと先住民の土地とのつながりを活かしたエコヘルスの研究」

新保 奈穂 美

2024年9月30日（月）に、新潮流セミナー「自然環境も人も健全にーガーデニングと先住民の土地とのつながりを活かしたエコヘルスの研究」を、対面（神戸国際会館802・803会議室）・オンライン併用形式にて開催した。参加者数は、会場参加22名、オンライン参加130名の計152名であった。開催趣旨は以下のとおりである。

気候危機や健康格差の拡大といったグローバルな課題に直面するなか、人々の健康とウェルビーイングの向上には、自然環境とのつながりが不可欠であるという認識が高まっている。本セミナーでは、自然との関係を媒介する手段としての「ガーデニング」に注目し、その効果についての知見を共有するとともに、先住民アボリジニの大地とのつながりの知恵を通じて、自然と人間の関係性を再考する機会とした。

セミナーでは、オーストラリアのスウィンバーン工科大学上級講師であり、公衆衛生と地域開発の実務経験を持つDr. Jonathan Kingsley氏を講師に迎えた。同氏は、オーストラリア全土のアボリジニ地域の保健機関や政府機関、NGOなどにおいて活動した後、自然環境がもたらす健康格差解消への効果に関する研究を進めている。

プログラムの冒頭では、新保奈穂美主任景観園芸専門員／准教授による趣旨説明がなされ、最後には柴田昌三学長による総括が行われた。

講演では、Dr. Kingsley氏が健康促進の観点から行ってきたエコヘルス研究の知見が紹介された。急速な都市化や孤立化、慢性疾患の増加といった社会課題を背景に、自然とのつながりが人々の身体的・精神的健康に果たす効果——たとえばストレスの軽減、運動量や認知機能の向上、主観的幸福感の増大など——が多くの研究で裏付けられていることが示された。また、ガーデニングやコミュニティガーデンの実践が社会的つながりの構築

にも寄与し、「自然による処方」としての可能性があると語られた。

さらに、アボリジニがもつ「カントリー（Country）」との深い精神的・身体的つながりの概念が紹介され、自然との関係性を回復することが個人のウェルビーイングのみならず、地域社会や次世代の健全性につながると強調された。

また、セミナー後の質疑応答も活発に行われ、参加者からは園芸療法、公衆衛生、先住民文化と自然との関係など、さまざまな観点からの質問が寄せられた。Dr. Kingsley氏からは、先住民の知恵を社会にどう取り入れるかを論じた書籍の紹介や、オーストラリアの地方自治体におけるコミュニティガーデン政策の現状など、実践的な示唆が多く提供された。また、「園芸福祉はエコヘルスの一部と捉えられるか」との問いに対しては、エコヘルスがシステム思考に基づく包括的概念であり、園芸福祉もその一要素として確実に位置づけられるとの見解が示された。

ALPHA 淡路景観園芸学校 2025 花のひろば

ランドスケープの新潮流セミナー 地域経営とランドスケープ

自然環境も人も健全にー
ガーデニングと先住民の土地とのつながりを
活かしたエコヘルスの研究

9.30月
19:00-20:30
現地会場＋オンライン
通訳あり

"Drawing on gardening and
Indigenous connection to
land research to explore EcoHealth"

自然には人の健康とウェルビーイングを支える力があります。人々が自然とつながる手段としてガーデニングに注目して、その効果について解明していくとともに、古くから大地とともに生きるオーストラリア先住民アボリジニの知恵からの学びを紹介いたします。

- ・ 場所：神戸国際会館 802・803会議室＋オンライン（zoom）
- ・ 日時：2024年9月30日 19:00～20:30
- ・ プログラム：趣旨説明 新保奈穂美
（兵庫県立淡路景観園芸専門員／高専長官大学大学院）
講演 Dr. Jonathan Kingsley（英一和 通訳通訳あり）
総括 柴田昌三（兵庫県立淡路景観園芸学校 学長）
- ・ 参加費：無料（紙田までに事前登録が必要です）
- ・ 登録方法：下記のウェブサイトからお申し込み
（オンライン参加はzoomのインストールが必要です）
- ・ お問い合わせ：seminar@awaji.ac.jp

Dr. Jonathan Kingsley
スウィンバーン工科大学上級講師

オーストラリア全土のアボリジニ地域保健機関、政府機関、NGOで公衆衛生と地域開発に携わった。園芸、自然環境が健康促進を促す力について研究を続ける。

お申込・問い合わせ <https://www.awaji.ac.jp/seminar>

ランドスケープの新潮流セミナー 地域経営とランドスケープ 「都市近郊農村の可能性を探る—台湾・宜蘭における都会人 向け半農半Xプログラム」

新保 奈穂 美

2025年2月28日（金）、新潮流セミナー「都市近郊農村の可能性を探る—台湾・宜蘭における都会人向け半農半Xプログラム」を、対面（東遊園地 URBAN PICNIC ラウンジ）とオンラインの併用形式で開催した。参加者数は、会場参加12名、オンライン参加85名の計97名であった。開催趣旨は以下のとおりである。

日本においては、農村部の人口減少が進む一方、都市の若者の間では農的ライフスタイルへの関心が高まりつつある。本セミナーでは、都市住民が農との関わりを通じて地域に新たな価値を生み出す可能性に注目し、台湾・宜蘭で「半農半X」を実践する頼青松氏を講師に迎え、都市近郊農村の未来像について議論する機会とした。

講師を務めた頼青松氏は、台湾新竹市出身で、2019年に「慢島生活有限公司」を設立した。台湾各地で農村ライフスタイルを軸とした地域創生事業を展開し、新規就農者の支援、食農教育、農業政策提言など多岐にわたる活動を行っている。

プログラムの冒頭では、前回のセミナーと同様、新保奈穂美主任景観園芸専門員／准教授による趣旨説明がなされ、最後には柴田昌三学長による総括が行われた。

講演では、頼氏が20年にわたって実践してきた「半農半X」の暮らしと、それに基づく地域づくりの経験が紹介された。頼氏は、日本の生活クラブ生協との出会いを契機に、2004年に宜蘭で「穀東倶楽部」を立ち上げ、無農薬の水田での米作りとCSA（地域支援型農業）を開始している。さらに、親子農業体験や学校での食農教育、農的ライフスタイルを学ぶ「慢島學堂」などを展開し、都市住民が農に関わる多様な場を育んできた。

これらの取り組みは、農産物直売所や食と農をつなぐカフェ、酒米の地酒づくりなどにも広がり、共感を軸とした新しい農村コミュニティのかたち

を提示している。頼氏は、「すべては自分と家族のためのお米づくりから始まった」と語り、生活に根ざした地域創生の意義を強調した。

聴衆からは、都市近郊農業に対する国や地方自治体、農会からの支援の実情などについて質問があった。これに対し、頼氏は、台湾の行政において都市近郊農業は支援対象から外れやすく、制度的な支援は限定的であると指摘した。伝統的な在来農家に対する支援が主流であり、新規参入者や非農家出身者の活動には制度上の障壁が多い現状を共有した。その上で、既存の支援に依存するのではなく、新しい知識と実践をもとに社会に未来の選択肢を提示していくことこそが、自身たちの近郊農業の姿であるとの力強いメッセージが語られた。

本セミナーにより、都市と農村の新たな関係性や、生活からはじまる地域づくりの可能性を見つめ直す重要性が示された。

The poster features the following information:

- Event Title:** 2025 2/28 fri 18:30-20:00 都市近郊農村の可能性を探る
- Organizer:** 淡路景観園芸学校 (Awa Landscape Horticulture School)
- Location:** 東遊園地 URBAN PICNIC ラウンジ (東川市地区新緑町4丁目4-1) / オンライン (Zoom)
- Lecturer:** 頼青松氏 (Raishi Takasaka), 台湾新竹市生まれ、2019年に慢島生活有限公司を設立。農村ライフスタイルによる地域創生事業を主催。国内外新規就農者の育成、食育、農業政策、地域創生、地域創生等、多岐にわたる講演、取材を受けながら、幅広く活躍している。
- Registration:** お申し込み | <https://www.awaji.ac.jp/seminar> (前日まで要申込) | お問い合わせ | seniar@awaji.ac.jp

ランドスケープの新潮流セミナー 地域経営とランドスケープ 「One Healthと園芸療法 植物との関わりによる健康づくりの今後」

剣持卓也

2025年3月15日(土)、新潮流セミナー「One Healthと園芸療法 植物との関わりによる健康づくりの今後」を、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。参加者数は、会場参加30名、オンライン参加118名の計148名であった。

COVID-19の世界的流行以後、One Healthの重要性が国際的に注目されている。One Healthとは、人、動物、植物などを含めた環境(生態系)が相互に影響しあっていることから、それらを切り離して考えるのではなく、これら三者の健全性に関して分野横断的に課題解決を図るという考え方である。COVID-19流行以降、植物のある環境で過ごすことや植物を育てることによる人への健康効果に注目が集まっている中で、植物との関わりを人の健康に活用する園芸療法の取り組みにも関心が高まっている。調和の取れた自然環境や、植物との関係の中で人が健康を維持するという考え方はOne Healthに通じるものであり、今回は、「One Healthと園芸療法」というテーマで、あらためて、植物との関わりによる健康維持を目的としたアプローチである園芸療法について、考える機会を持つこととした。

本セミナーの講師には、園芸療法および植物による人への健康効果に関する研究分野の世界的トップランナーである韓国、建国大学教授のSin-Ae Park氏をお招きし、「エビデンスに基づく植物を媒介とした療法について ライフサイクルにわたる応用と回復メカニズムの理解」と題して講演をしていただいた。Park教授は前年度のセミナーに引き続いての登壇であるが、今回はオンラインのみであり、今回は対面形式での講演となったことから、会場での質疑応答も活発になされた。

Park教授の講演では、まず園芸療法の基礎となる、植物による癒しや回復を説明する背景的な理論の紹介があった。「バイオフィリア仮説」、「注意回復理論」、「ストレス回復理論」等、植物による癒しは既知の理論によって説明されているが、

Park教授はそれだけでは不十分であると考えており、「自然に基づいた体験理論」を提案された。それは、自然や植物との能動的、受動的な交流による体験がさまざまな健康上の恩恵をもたらすというものであり、それを裏付けるための多様な研究内容も紹介された。また、One Healthにつながる内容として、ストレプトマイセスという土壌微生物を含む土を用いて園芸活動を行うことが、対象者の情緒の安定を促し、脳内神経伝達物質のひとつであるセロトニンの活性につながったことを紹介された。しかしながら、植物を介在させた療法についてはいまだにエビデンスが不足しているため、訓練された専門家である園芸療法士と連携した良質な研究の必要性を最期に述べられた。

講演後は柴田学長との質疑応答があり、韓国における園芸療法実践の状況や、研究に対する注目度、学生の園芸療法に対する関心、近年、韓国で取り組みが広がっているヒーリング農業の可能性などについて議論が深められた。

淡路景観園芸学校
ALPHA Awa Landscape Planning and Horticulture Academy

花みどりスタジアム

ランドスケープの新潮流セミナー

One Healthと園芸療法

植物との関わりによる健康づくりの今後

2025
3.15土

神戸国際会館802・803会議室+オンライン(ZOOM)
兵庫県神戸市中央区御幸通5丁目1番6号

10:00-12:00 参加費 無料
3/13(木)までに要事前登録

講演(英語・通訳あり)
「エビデンスに基づく植物を媒介とした療法について
ライフサイクルにわたる応用と回復メカニズムの理解」
Dr. Sin-Ae Park (パクシナエ)
(韓国大学大学院システムバイオテクノロジー部門およびバイオ&
ヒーリング融合部門教授)
園芸療法やヒーリング農業のプログラム開発や評価、効果のメカニズムに関する
数多くの研究があり、国際人間-植物関係評議会の議長を務める。

話題提供
「園芸療法教育のこれから 園芸療法のさらなる社会活用に向けて」
剣持卓也(兵庫県立淡路景観園芸学校 景観園芸専門員/
兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 講師)

質疑応答
司会: 剣持卓也(同上)
モデレーター-総括: 柴田 昌三(兵庫県立淡路景観園芸学校 学長)

QRコード

参加申し込みはウェブサイト上の申し込みフォームより
<https://www.awaj.ac.jp/seminar>
オンライン参加の方はzoomのインストールが必要です

お問い合わせ
seminar@awaj.ac.jp

2 淡路景観園芸学校SDGsの取り組みについて

SDGs推進委員
剣持卓也

1. はじめに

本校では2019年に「淡路景観園芸学校SDGs推進の基本方針」を策定し、ヤギ除草による循環型緑地管理や持続可能な食糧生産の試行としての米栽培、循環型生活の実践としての生ごみの堆肥化や、学内の里山管理で生じた薪を燃料とする薪ストーブの活用等に取り組んできた。

2024年度の実績として、インクルーシブな遊び場に関するセミナーと、景観園芸講座「都市公園マネジメント」の取り組みについて報告する。

2. 2024年度の取り組み

(1)インクルーシブな遊び場に関するセミナー開催

2024年6月8日、「セミナー：都市公園におけるインクルーシブな遊び場づくりの現状と課題」をオンラインにて開催した。本セミナーは日本福祉のまちづくり学会関西支部と兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科の共催によるもので、事前登録77名、福祉のまちづくり学会関西支部幹事の方々10名、話題提供者およびコメント4名を加えての実施となった。近年、都市公園においては、インクルーシブ（包摂）と銘打った広場や遊び場づくりに関する取り組みが盛んである。一方で、これらインクルーシブが指し示す言葉には定まった定義がないため、自治体等の取り組みは各担当者が試行錯誤のうえ、推し進めているのが現状である。

本セミナーでは、国内の取り組みに関する全国的な動向および現場における課題を共有、それらに関連する方々を交えた議論を通して、インクルーシブな遊び場づくりの今後について検討した。まず、整備する側として国土交通省の曾根直幸氏からインクルーシブ公園についての全国的な動向が示され、特別な仕様を備えた公園整備というよりは、対話を基盤とし、公園を多様な主体と共に育てていくといった考え方が重要であることが示され、課題としては、日常的に現場が手一杯なのか対話を具体的にどう進めていくか、さらには庁内連携の重要性や難しさなどを挙げられた。大阪府庁の堤公平氏からは、府営公園整備における障が

い当事者参画に関する取り組みについて報告があり、整備の様子はもとより、これまで現場で取り組んできた内容を整理して共有している様子や職員向け研修を実施している様子が紹介されたほか、参加のあり方そのものや利用者同士の理解をどのように促せばよいのかなど現場ならではの悩みなども紹介された。議論の場では、公園は利用されてこそ価値があるという考えから、時代の変化やニーズに応じて変化していくべきであること、いかにして双方向的に建設的な当事者参画の場にしていくかという視点が重要であり、そのための現状把握などの取り組みが必要との意見が挙げられた。



(2)景観園芸専門講座「都市公園マネジメント」実施

2024年12月4日、8日の2日間で、公園管理に携わる実務者向けに、公園緑地におけるICT活用の先進事例について学ぶ機会を設けた。1日目はオンライン講義にて、スマート化技術の概略に関する説明と、平城宮跡歴史公園スマートチャレンジを紹介した。2日目は平城宮跡歴史公園の現地見学を行い、ARによる歴史体験サービスを実際に体験したほか、平城京の様子を再現した展示や映像、保存されている史跡の一部も見学した。実務者向けの教育として、公園緑地でのスマート化技術導入に関する有意義な学びの場を提供できた。

3. おわりに

本校のSDGs推進の基本方針では、人材の育成、環境活動への貢献、環境負荷を低減するキャンパス運営が明記され、上に挙げたような取り組みが実践されてきた。今後もSDGs実現に向けた実践的な活動が期待される。

3 淡路景観園芸学校図書館（2024年度）

柳川 豊子

開学25周年の淡路景観園芸学校には、開学当時から事務棟に位置する面積1065㎡の図書館があり、7万冊以上の書籍・500種以上の雑誌、1000点以上の視聴覚資料を所蔵しております

1. 図書館の概要について

平日は午前10時30分から午後5時迄図書館司書が常駐し、研究生・研究生・園芸療法課程学生・生涯学習コース受講生～教職員らへの多様なニーズに対応しています。

研究科・園芸療法課程の学生に加え、生涯学習コースの方々へも 親しんでいただけるよう図書館ガイダンスを実施しています。

植物や造園関連・図鑑類が充実しており 景観園芸の専門図書館でもあります。

資料のニーズは多岐にわたり心理学・地理・社会福祉・自然科学・植物学・医学・園芸学・都市工学・建築学・芸術など図書をNDC(日本十進法)順の著者順に並べています。

環境教育に対応できるように子ども向けの図書や絵本まで幅広く所蔵し、新着図書・参考図書・郷土資料・大型本・震災図書・雑誌コーナー・アルファコーナー・教員おすすめコーナーを設けております。

2. 図書館のサービスについて

今年度の貸出冊数の合計は1822冊でした。

館内で利用された資料を加えると2000冊を越えます。貸出図書では「日本植生誌」「オールシーズン美しい庭」「みどりの処方箋」「ウェルビーイングをつくりあうために」「多肉植物図鑑」「E植物図鑑」「庭仕事の真髄」「生まれ変わる公園」「ドライフラワーでつくる」「ひとと植物・環境：療法として園芸を使う」「繊細さん」の本「ベランダ寄せ植え菜園」「樹木たちの知られざる生活」「地域を変えるランドスケープ」「進化とは何だろう」「都市キーワード事典」などが人気でした。

雑誌では「Casa BRUTUS」「My garden」「Gardens Illustrated」「Garden&Garden」「趣味の園芸」「ランドスケープデザイン」「国立公園」「作業療法ジャーナル」「日経コンストラクション」「バイオシティ」「グリーン情報」「ランドスケープ研究」「DIARY」「GREEN is」が多く利用されてきました。

全国の大学等1000以上の参加館同士で文献複写の郵送、図書の貸借を行なっていますが受付：87件、依頼：25件、計112件に対応しました。

他館からの複写依頼は「新都市」「グリーンエイジ」「公園緑地」「国立公園」「Aroma research」「都市公園」「ランドスケープ研究」「都市計画」「公園管理研究」「水草研究」「などが多くありました。

3. 図書館の取り組み

昨年度より図書EPS管理システムを刷新し、入館者（月：約150名～200名の来館者）のカウンター表示や、図書管理システムが強化されました。

さらに視聴覚資料の棚スペースを一掃して、新着本コーナーと留学生の為の日本語学習コーナーを設けました。

集密書架にあった植物学以外の古い雑誌類・11月のアルファ祭には、植物学に関する重複本はリサイクル本として提供しました。

本年度は植物学の寄贈本も多方面から157冊の受け入れ（重複本は受け入れない）、「The plantsman(～Review)RHS,2002～2023」「水草研究会誌」1993年～2024年の貴重な、水草関連の学会誌も書誌登録しました。

本年度は、アルファライブラリー通信を7回発行し新刊情報の発信をしてきました。

卒業生・インストラクター・教職員の皆様からも寄贈いただき本当に有難うございました。

メールtosyo@awaji.ac.jp でのお問い合わせ質問もどうぞ、お待ちしております。



私は、景観園芸専門課程 22 期生の石井です。私が淡路景観園芸学校に入学したきっかけは、植物について幅広い分野で学ぶことができ、様々な技術を習得し向上するため、学校進学を考えました。また、卒業論文のテーマである樹木の防火効果について専門に研究している教授が、淡路景観園芸学校にいたため進学を考えました。

植物に興味も持ったきっかけは、地球温暖化や大震災における市街地火災など私たちの身近な環境問題への興味があり、植物がもっている機能がこれらの環境問題を低減していく効果を備えていたからです。

学校の授業では、樹種などの植物の名称や植物の生理機能から生き物同士の繋がりである生態系、また、庭や花壇のデザインの仕方や植物管理などを学んできました。植物を学ぶにつれ、植物の奥深さに触れ、この植物の面白さをいろんな人にも知ってもらいたいと思う様になりました。

昨今は異常気象など環境問題が深刻化してきているなか、環境問題を防ぐ手段は色々ありゴミを減らすなど CO₂削減をする方法等多々ありますが、その一つ的手段として、より多くの人に植物のことを知ってもらうことも環境問題に関わる一つ的手段だと考えます。街には様々な緑がありますが、人々の身近な緑の空間の一部として、公園があります。

淡路景観園芸学校を卒業して 4 年が経ち、私は現在公園の管理運営の仕事をしています。そこでは、企画や広報を主に担当しており、イベントの準備や運営を行う他、公園内での見頃の植物等を SNS などへの発信やコラムの連載、イベントや注意案内看板などの掲示物の作成・掲出、植物や生き物等のセルフガイドツールの作成に携わりました。

園芸学校での「フィールド植物観察演習」で得た知識は、公園で SNS などを発信する際や生き物セルフガイドツールの作成時に植物の特徴を伝える際に、とても役立ちました。また、各授業では、プレゼンテーションをする機会が多く、その際に皆の作成した発表資料のデザインからいつも刺激を得ることができ、より聞いている人が見やすい資料づくりなどを心掛けることができるようになり、組織内の発表で賞を得られたことにもつながっていると実感しています。

また上記以外にも、来園される方に気持ちよく公園で過ごしていただくために、窓口対応や電話対応、落とし物対応などの多岐にわたる接客の仕事も経験することができ、人としても成長できることを実感しております。人数が少ない事務所では誰か一人に頼らず、スタッフ間で協力し合って、業務に遂行することが重要になります。なにか一つのことを複数人で成し遂げることで、団結力が生まれ楽しさとやりがいにつながっていると思います。そういった経験から自分自身の協調性が磨かれていると感じております。



・はじめに

私は淡路景観園芸学校園芸療法課程を修了した後、もう一年リカレント生として学校に在籍し、子どもへの園芸活動の調査・実践を行いました。現在は島内の児童養護施設で看護師兼園芸療法士として、働いています。

・淡路景観園芸学校での私

私は喪失体験から、心が立ち直れなかった時期があります。家に居ると、庭の雑草が日に日に生長する様子に気付き、庭に出たことをきっかけに、植物の手入れをする日々が始まりました。植物に触れる事で、少しずつ心が癒され心身共に楽になったように思います。私は「植物が、多くの生きづらさを抱える人々の癒しとなるのではないか、園芸療法を学びたい。」と思い、淡路景観園芸学校への入学を決めました。デイケア施設で行った園芸療法の実習では、対象者さんと共にハツカダイコンやキンセンカを育てる栽培活動を継続的に行いました。生長したハツカダイコンはサラダにしてデイケアの皆様と楽しみ、栽培周知の為のキンセンカポスターを皆で作成し、デイケア内に掲示。その後生長した苗は、対象者さんから皆様にプレゼントする事が出来ました。植物の生長過程を皆で見守り、「食べる」「プレゼントする」等の共有体験をする事で、植物が人と人とを繋ぐ架け橋となり、コミュニケーションの輪が広がっていく光景は、心震えるものがありました。

・リカレント生としての私

子どもが植物のある環境を体験する事

で、楽しく健康的な日常作りが出来る事を目的とし、里山やボーイスカウトでの自然体験活動に参加しました。「芝人形づくり」や「葉っぱのスタンプでバッグ制作」等の園芸活動も行い、子どもの自由な創造力や発想力が発揮される様子を目にしてきました。「先生みて！」と生き生き活動する子ども達、その姿を嬉しそうに見守る親の姿を見ると、こうした活動の重要性を感じました。子ども達の力を引き出し、存分に褒めてあげる。子どもは認めて貰えた嬉しくなり、その積み重ねは、自己肯定感の高まりにも繋がります。植物を通した様々な挑戦・体験が子ども自身の成長発達に欠かせないという事を、私は一年の経験を通して学んでいきました。

・これからの私

児童養護施設は、様々な家庭背景や、事情を抱えた子ども達があります。その中には愛着形成が不十分の子や、トラウマを抱えた子も多くいます。看護師として児童精神の分野において、子ども達のケアを行う傍らで、園芸療法士として自然の尊さ、植物の与えてくれる安らぎを、子ども達に伝え続けていきたいです。

私は、植物達に癒された事も事実ですが、多くの人の支えがあり今の自分がいます。「植物が人を癒す」だけでなく、「人が人を癒す」のだと、園芸療法を学ぶ中で強く感じます。家族を始め、学びを下さった先生方、友人、多くの人々への感謝の想いを胸に、これからも多くの人の心に寄り添える園芸療法士で居続けたいと思います。

6 2024年度 NPO法人園芸療法と歩む会 活動報告

理事長 岡野 裕

【はじめに】

兵庫県立淡路景観園芸学校の教職員の皆様、NPO 法人アルファグリーンネットの皆様、園芸療法をお引き立ていただいております行政・企業の皆様におかれましては、私たちの活動にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

無事に2024年度を通じて活動を行うことができました。

【2024年度活動概要】

- ・ 総会、理事会、運営委員会の開催
- ・ ホームページの運営
- ・ 会員向けメーリングリストの運営
- ・ Facebook でのイベントの情報発信、会員の活躍の報告ほか
- ・ 会員交流会（ALPHA 同窓会との合同開催）「梅小路公園（京都）」

【報告】

年ぶりに会員交流会を開催しましたが、今年度はALPHA 同窓会との合同開催にて、京都の梅小路公園にて交流会を開催しました。雪が積もる寒い日ではありましたが、関西圏だけではなく、遠方からの会員の参加や、淡路

新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことで、以前に比べると対面での交流場面が増えてきました。昨年度、数

景観園芸学校の現職、OB・OGの教職員の参加もあり、園内散策や植物を用いたワークショップの場面では、活発な交流が見られました。これまではあまり顔を合わせる機会がなかった両会の会員が交流する機会となり、「今後も開催してほしい」との声も聞かれました。次年度もALPHA 同窓会との合同企画による交流会の開催を継続したいと考えています。

対面での交流が増えたとはいえ、園芸療法士が対象とする人には、高齢者施設を利用される高齢者や基礎疾患のある方も多く、園芸療法士として、引き続き感染予防のための対応が必要な状況は続いています。今後も、リアルとオンラインの両方の良さを生かしながら、それぞれの現場で活動する会員を支援できるように取り組んで参ります。

次年度も当会の活動にご支援・ご鞭撻を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。



※写真は3枚とも会員交流会の様子

7 受賞

(1) 2024年度日本造園学会関西支部大会での学生の受賞

山崎 快彦（研究科2年生）

2024年10月20日、香川県のサンポートホール高松にて日本造園学会関西支部大会が開催され、その中で研究科2年生の山崎快彦さんが「高知県四万十町における生姜穴の環境特性とその活用方法の検討」というタイトルで発表、みごと関西支部賞を受賞しました。

・研究目的：近代化の中で失われつつある、その土地の環境を生かした伝統的な農業や、生物多様性が守られた農業などに注目が集まっている。本研究で対象とした高知県の生姜穴もその1つで、収穫した生姜を貯蔵する横穴（人工洞窟）であるが、電気を使わないなどSDGsに貢献していること、生姜生産地に特異的にみられる景観であること等から、その保全活用策が期待される。そこで本研究では高知県四万十町（旧窪川町）における生姜穴の環境特性を明らかにするとともに、その活用方法を検討することとした。

・研究方法：生姜穴の環境特性を明らかにすべく、①分布、②内部空間の温湿度、③造形、④穴周りの動植物について調査した。①は3/26、5/4、6/10-13、8/14に道路沿いから生姜穴を目視で確認し位置を記録、家の裏に位置するものは居住者の許可を得て確認した。解析ではQGISを用いて地質や土地利用との関係について考察した。②は温湿度データロガーを使用、七里甲集落で現在は使われていない生姜穴に3か所設置し、5/23から6/13までの22日間、60分間隔で計測した。③は5/20、6/11-14、8/14にレーザー距離計を使用し、通路幅、天井高、奥行きを測定、図面化するとともに、目視で構成要素を整理した。④は6/14に生姜穴入口部を中心として、2m×5mの範囲にある植物を全て記録（5か所）した。

・結果および考察：①分布：生姜穴は全部で92か所確認することが出来た。また地質との関係を捉えると、旧窪川町は泥岩や砂岩といった堆積岩に

よって構成されており、加工しやすく掘りやすい地質であることがわかった。一方、河川や農地などの土地利用との関係についても検証したが特に関係性はなく、ヒアリングからも「家の裏や所有する山の中で掘りやすいところを掘った」など、現場の状況に合わせて作られたことがわかった。また立地のタイプをみると、家の裏が26.1%（24ヶ所）、道路沿いが71.7%（66ヶ所）、畑の中などその他が2.2%（2ヶ所）と道路沿いに立地していることが多いことが分かった。

②温湿度：生姜穴の温度環境を捉えると、5月の窪川地区の気候データと比較すると、最高温度30.4度に対して、内部は最高でも17.3度までしか上昇しなかった。また内部の最高温度と最低温度の差をみると、入口部では2.5℃の差があるが、中央と奥では0.2℃の差しかなく、外気温に関わらず、生姜穴内部の温度環境は16.5℃程度で安定していることがわかった。一方の湿度は99%と常に飽和状態であることもわかった。

③造形：内部の構造を捉えると、中心通路から約10m程度の枝分かれした通路が形成され、そこに生姜が貯蔵されていることが分かった。今回内部を実測できた6ヶ所の平均寸法は、奥行きが18.72m、通路幅が1.01m、天井高が1.85mと人1人が通れるスケールであることがわかる。また内部の構成要素を捉えると、自力で掘ったピッケル跡や温度安定のための内扉跡、生姜貯蔵時に茎部分が発酵する際に発生するガスを抜くための管などが見て取れた。

④生姜穴周りの動植物：生姜穴周りの自然タイプを見てみると、草地タイプが59.3%と最も多かったが、湿地タイプも8.8%（8か所）確認でき、そこでの動植物をみると、ワサビやサワガニなど、綺麗な水が湧く環境で育つ生き物が確認できた。一方、内部に生息する動物ではカマドウマ、オオゲジ、アブラコウモリといった好洞窟性動物を確認することができた。

7 受 賞

(2) 2024 Global Landscape Architecture Conference, Student Charretteでの学生の受賞(EXCELLENT AWARD)

章 珉 (研 究 科 2 年 生)



set two photo



set two group1 photo



Group photo of award winners

7 受賞 (3) 令和6年度兵庫県農業賞

長谷川いづみ

園芸療法課程通学制1期生の長谷川いづみさんが、「花壇苗農家として大規模かつ多角的な経営及び園芸療法や農福連携を実践」されている実績が認められ、栄えある兵庫県農業賞を受賞されました。

長谷川さんは、平成8年に花壇苗農家の経営をお父様より移譲され、販売の重要性に目を向け多様な販路を開拓しました。更に野菜苗の栽培にも取り組み、全国に出荷するなど大規模かつ多角的な経営を確立し、地域の農業者の模範となっています。

また、兵庫県知事認定園芸療法士の資格を取得した後は、ご自身の農園で福祉事業所利用者に苗生産を指導する形で農福連携を実践するだけでなく、令和元年から令和5年まで兵庫県主催で行われた農業者向け農福連携研修会におい

て本校の豊田教員、上地インストラクターと共に農作業分析等の指導を行うなど、地域農業の発展に大きく貢献しました。

長谷川さんから、「淡路景観園芸学校での園芸療法の学びが今に繋がっています。ありがとうございます」と御礼の言葉をいただきました。



兵庫県知事から賞状授与



受賞記念撮影 右が長谷川氏

7 受賞

(4) 人間・植物関係学会、日本園芸療法学会 2024年度合同大会 優秀発表賞

大塚文恵(園芸療法課程全寮生21期生)

11月9日(土)～10日(日)に神戸学院大学ポートアイランド第1キャンパスで行われた人間・植物関係学会、日本園芸療法学会2024年度合同大会で、園芸療法課程修了生(全寮制21期生)の大塚文恵さんが行った口述発表「認知症が進み 再評価が必要となったデイサービス利用者に対する園芸療法」(大塚文恵・坂東かよ・豊田正博・剣持卓也)が優秀発表賞をいただきました。在学中に行った園芸療法実習Ⅱ・Ⅲの内容をまとめたものです。

以下内容を抜粋します。

概略

淡路市の地域密着型デイサービス(以下DS)において認知症の84歳女性に対して、週1回の園芸療法実習を2023年9月7日から2023年12月14日までの期間に個別クロードで実施した。しかし、介入途中(園芸療法実習7回目以降)に対象者の認知症症状が進んだと見られる状況が続いたため、再評価と目標の再設定を行い、介入を継続した。評価には、淡路式園芸療法評価表(AHTAS)を使用した。

結果

1) 淡路式園芸療法評価表(AHTAS)

平均点は、「意欲」「時間の見当識」「注意の配分」「短期記憶」「長期記憶」で再評価後に低下したが、「思考」「高次脳機能」「課題の遂行」「コミュニケーション」「満足」では低下しなかった(図1)。

2) プログラム参加への誘導の成果

生花(迎え花)、A氏の好きな創作活動の提供、施設職員からの声掛けで園芸療法に参加するきっかけを作ることができた。

まとめ

全園芸療法実習を通して、A氏の手指の巧緻性の高さや、コミュニケーション能力(社交性)を引き出すことができた。実習後期は気持ちの切り替え(注意の移動)が難しく、園芸療法活動前の快情動(塗り絵)を維持したい気持ちが園芸療法参加より勝っていた。園芸療法への誘いは難しかったが、一度、活動場所に来れば、かなり細かい作業や栽培活動もできて、笑顔になり、満足感を感じていた。今後も残存能力を引き出す多様な活動の提供が、日々の楽しみや満足感に繋がるであろう。



中西大会長より表彰状授与

7 受 賞 (5) 日本造園学会奨励賞(著作部門)

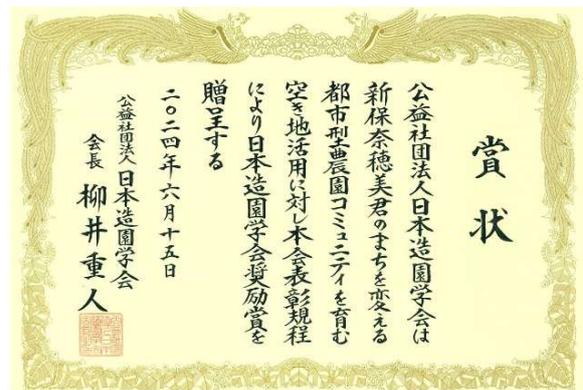
新保奈穂美(准教授)

新保奈穂美准教授が執筆し、2022年9月に学芸出版社より出版した『まちを変える都市型農園 コミュニティを育む空き地活用』は、アーバンガーデニング・農的活動の場を「都市型農園」と定義し、数多くの事例を紹介するとともに、その意義や実践に必要なノウハウを一般にも分かりやすくまとめたものである。国内外の多くの事例調査を通じ、「都市型農園」が設立・運営形態だけでなく、設置のねらいや効果も多岐にわたり、幅広い社会課題の解決に寄与する可能性を具体的に示した。加えて、平易な言葉でノウハウを盛り込んだ入門書として、「都市型農園」というランドスケープ分野の実践を広く社会に広める著作となっている。以上の理由より、日本造園学会奨励賞(著作部門)に相応しいと判断された。

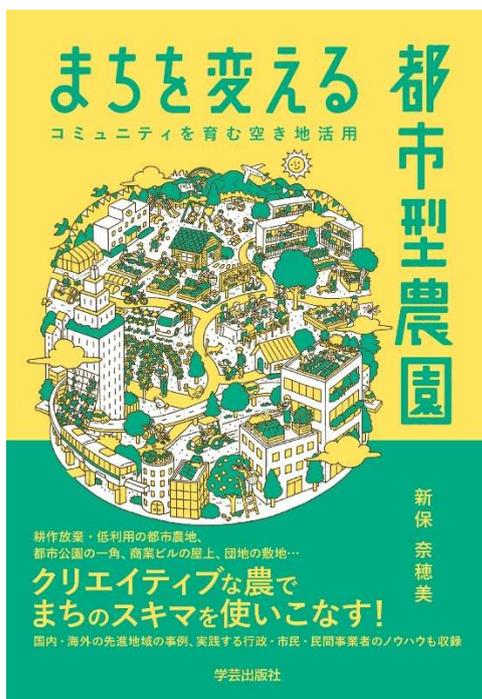
表彰式は2024年6月15日(土)に2024年度日本造園学会全国大会会場である名城大学天白キャンパスにて執り行われた。



表彰式の様子



表彰状



『まちを変える都市型農園 コミュニティを育む
空き地活用』(学芸出版社 刊) 表紙

8 出展報告

2024ひょうごまちなみガーデンショーin明石 淡路花祭2024秋・高校生花とみどりのガーデン

樋上啓子・山本聡
・尾田顕子・金原淳一

【ひょうごまちなみガーデンショーin明石】

9月22日（日）から9月29日（日）に開催された「2024ひょうごまちなみガーデンショーin明石」（主催：ひょうごまちなみガーデンショー実行委員会）に、依頼により、デモンストレーションガーデンを出展しました。

今年度の開催テーマである「花と緑で笑顔に」のもと、本校からは、ガーデンデザイン演習の一環として、景観園芸専門課程26期（研究科16期）の佐藤瑞佳さんデザインの「永遠に変わらぬ輝き」をテーマに出展しました。オープンカーのベースに立体緑化をおこない、花と人とのつながりを目指す内容です。

期間中、のべ14万人の来場者があり、多くの方に出展庭園を楽しんで頂きました。

【淡路花祭2024秋・高校生花とみどりのガーデン（特別出展）】

10月5日（土）から11月10日（日）にあわじ花さじきで開催された「淡路花祭2024秋・高校生花とみどりのガーデン（主催：一般財団法人淡路島くにうみ協会）」に主催者からの依頼によりデモンストレーションガーデンを特別出展しました。景観園芸専門課程26期（研究科16期）の授業であるガーデンデザイン演習においてデザインされた井内なぎささんの作品「船庭—御食国あわじ—」を造営しました。作品は、“御食国あわじ”と呼ばれた所以の朝廷への献上船をモチーフに、植物を豊かな食材に見立てたもので、海にまつわる内容をグラス類やガラス浮きで表しました。



ガーデンショーin明石（左）及び花と緑のガーデン（右）での展示（完成時と作業の様子）

Ⅲ 教育・研究活動



1 教育活動

(1) 景観園芸演習(修了演習)の概要

「景観園芸演習」は、学生が保全管理実践演習、活用デザイン実践演習、施策マネジメント実践演習の各領域に属して行う「修了演習」を総称したものであり、学生が一年をかけて2年間の学習の集大成として取り組むものである。

2年生の学生は、指導教員の指導のもと、自ら課題を発掘して設定し、その解決方法の提案やその有効性の検証などの作業を行い、その成果を論文あるいは作品、プロジェクト報告の形式でまとめあげるとともに、最終的にその内容を一般公開の発表会にて発表し、評価を受けることによって単位認定、成績評価を受ける。その成果の内容および発表の態度等は、「取り組んだテーマに社会性があるか、また、それが明確になっているか」「導き出した結論がきちんとしたデータにもとづいた客観的でかつ論理的なもので妥当性があるか、論理に飛躍がないか」「取り組んだ内容が独創的であり、チャレンジ精神が感じられるか」「当校から発信する成果として、それにふさわしい高い質があるか」「プレゼンの資料や態度が魅力的で訴求力があり、適切か（時間を守っているか、質疑に適切に対応しているか、など）」といった観点から審査が行われ、最終的に一点の「景観園芸賞」が決定される。

今年度の実践演習も、4月にテーマ発表、7月に中間発表を経て2025年2月18日の最終発表に至った。最終発表会では、例年通り外部からの兼任教員を中心とした審査委員会による審査が行われ、「景観園芸賞」には井上知美の「淡路島における湧水湿地の立地・植生・人の関わりー絶滅危惧生態系の現状と課題ー」が選ばれた。

以下に、本年度の各学生の演習の成果概要を示す。

淡路島における湧水湿地の立地・植生・人の関わりー絶滅危惧生態系の現状と課題ー

井上 知美

淡路島の湧水湿地の分布と現状を把握することを目的として調査を行った。事前調査（博物館の標本調査など）により候補地を絞り、踏査を行った結果、32ヶ所の湧水湿地を確認した。このうち21ヶ所は淡路市内の狭い範囲の大阪層群上に集中的に分布しており、ホットスポットと考えられた。湧水湿地の立地は、ため池や農地の周辺に多く、農家による草刈りや樹木伐採が、結果的に湿地の維持に寄与していた。湿地周辺の農家への聞き取り調査より、数年以内に営農を停止する意向が確認され、管理停止による遷移の進行が湿地保全上の重要な課題と考えられた。フロラ調査では湧水湿地生植物は計24種確認された。このうち11種は1~2ヶ所の湿地のみに生育し、13ヶ所の小規模湿地に分散していた。このため、種多様性を保全するには、小規模湿地を数多く保全する必要があると考えられた。ホットスポットの湿地群には24種全てが含まれ、この地域が保全上重要と考えられた。

自然のイメージの探索と展開

－緑環境景観マネジメントにつながるアートベース・リサーチの試行－

岩崎薫子

定性的なデータを扱う学術的探究の一種、もしくは新しい形式のデータを扱う学術的探究として、「アートベース・リサーチ」が世界的に注目され、自然科学、社会科学を含む様々な分野で活発に実践されている。「アートベース・リサーチ」では、感情や主観的な個人の経験をはじめとした、他の学術的探究の方法では無視せざるを得ない豊かな情報を、学術的探求の世界に持ち込むことができるのではないかと考えられ、期待されている。

本研究では、アートベース・リサーチに着想を得て、視点や切り取り方によって同じ対象物から様々なイメージが生まれるということに着目して、自然のイメージを探索し、それらのイメージを用いた作品制作を通して、生物多様性保全をはじめとする緑環境景観マネジメントの分野での社会課題にアプローチするためのヒントを探す。

農を用いた子どもの居場所の特徴解明

－兵庫県洲本市 TERRA 子舎 自然農を対象に－

大塚 理香子

近年、学校外の子どもの居場所が重要となっている。本研究では、農地におけるフリースクールのケーススタディにより農を用いた子どもの居場所の特徴とそれによる子どもの居場所感の解明を通じ、その成立要件を考察した。運営者と保護者への半構造化面接により特徴と参加者の変化を、参与観察で得た農に関わる参加者の言動を分類して居場所感を調べた。特徴として、参加者を尊重して同じ目線で楽しむ運営、参加者自身の区画、やりたいことを内包しうる四季折々の幅広い活動が提供されていることが明らかとなった。参加者には肯定的な言動が増加した。対象事例は被受容感を得られる居場所となっていた。したがって、農の活動の多様性を活かし、参加者を尊重して同じ目線で楽しむ運営、参加者が自ら考えて取り組める空間、やりたいことを内包する幅広い作業が必要といえる。

中国蘇州拙政園における舗装パターンと空間の関係について

韓 新慧

本研究は拙政園を対象に、庭園の舗装と各空間の関係性を明らかにすることと、舗装デザインの特徴について考察することを目的とした。研究方法は、現地調査と文献調査を通じて舗装の分布、庭園空間の意味、舗装の意味とデザインなどの基本情報を把握し、舗装パターンと各空間タイプの関係、舗装パターンと各空間の意味を関係を分析した。

その結果：1) 装飾性の舗装パターンは特徴のある庭園風景の形成に役立っており、登山道などの動線の舗装パターンは利用者の移動中の足元景観の簡素化を求める傾向にある。2) 一部の舗装のデザインが庭園の中の小空間の意味を形成する一助になっている。3) 吉祥図案の舗装パターンは常に建築の出入り口の手前や築山周辺の動線上に設置され、庭園空間の雰囲気形成に役に立っていることが明らかとなった。

空き地の花屋プロジェクト

－神戸市兵庫区の密集市街地における狭小空き地の持続可能な管理活用法の提案－ 駒ヶ嶺 光

本プロジェクトでは、神戸市兵庫区の密集市街地に点在する狭小空き地を対象に持続可能な管理活用法を提案し、実践と効果検証を行った。具体的には、空き地に繁茂する植物を活用したクラフト制作・販売、バイオネストの設置を通じて、空き地管理活用の経済性と管理者の担い手不足の課題解決を目指した。さらに活動拠点「空き地の花屋」の整備により、地域住民との協働を促進し、空き地を日常的な交流や憩いの場として活用した。結果、クラフト販売では一定の経済的成果を上げ、アンケート調査により20代男性や20・50代女性が主要な販売ターゲットとして確認された。さらに、自治会や高校生が活動に参加し、既存の担い手の意識向上につながったり、新たな担い手を得たりした。提案により、密集市街地の狭小空き地管理における経済性と担い手確保の可能性を示すことができた。

樹木葬墓地の現状把握と地域の里山環境保全に貢献する可能性

高橋 慧

日本では、1990年代頃から少子化や自然志向の高まりによって、継承不要で焼骨が自然界に還元される自然葬と呼ばれる新しい葬送が注目されてきた。近年、その中のひとつの樹木葬が都市部を中心に大きな市場を獲得している。樹木葬は増加傾向にあるが、国内で当初提案された地域の生態系や景観保全を目的とした形態に近いものは全体の約2%である。本研究の目的は、現在実施されている本来の目的に近い樹木葬の構造、目的、活動についての調査・分析結果を提示することである。その結果、里山保全型樹木葬は5つのタイプに区分され、場と活動が重要であると考えられた。

歴史的な温泉地における景観資源の把握と評価

陳 子騏

本研究は、歴史的な温泉地における景観資源の把握と、観光客や地元関係者の意識調査とから、景観資源の保全と観光振興のための活用についての知見を得ることを目的とした。絵葉書を用いて過去の景観資源を把握し、現地調査から景観資源の残存状況を把握するとともに、現在各地の観光協会ホームページに掲載されている写真を用いて、可視化されている景観要素を明らかにした。さらに、有馬温泉において観光客と地元関係者などへのアンケート調査から景観資源に対する意識の異同を捉えた。その結果、地元関係者は観光客より施設要素が強調され、観光客では街並みや自然景観といった空間要素にも強い関心があることが明らかとなった。また、主景が無くなっても、景観資源として存続する事例も認められた。

公園空間におけるストレス緩和の調査とその重要拠点の提案

張高哲

現代社会でストレスを感じる人々が増加しており、ストレス緩和のための具体的な対策が求められている。本研究は、都市公園空間におけるストレス緩和効果に着目し、ストレス緩和効果の高い公園空間の要素を明らかにするとともに、その要素を含む重要拠点のあり方を提案することを目的とした。調査では文献調査や現地調査、アンケート調査を通じて、公園利用者に空間を評価してもらった。結果として、水が見える場所がストレス緩和に最も効果的であることが明らかになった。これに基づき、水辺施設の自然風デザイン案を作成し、都市公園におけるストレス緩和拠点としての有効性を示した。本研究の成果は、今後の都市公園設計における参考指針として貢献するものであるが、ストレス緩和効果は主観的な要因にも左右されるため、他の調査が必要である。

不登校経験のある生徒とつくるプレーパーク

－赤穂海浜公園での実践－

長嶋 龍斗

不登校児童生徒は年々増加しており、学校以外における子どもの居場所の必要性が強く指摘されている。本プロジェクトでは、不登校児のプレーパーク利用実態を把握し、その環境特性を分析した。調査結果として、①視線を遮れる空間、②親以外の大人と交流できる場、③遊びを通じてスキルを育む環境が特に重要であることが分かった。また不登校児を受け入れる仕組みとして、専門機関との連携やフリースペース併設が効果的である点も明らかとなった。さらに、兵庫県立赤穂海浜公園でのプレーパーク実施では不登校経験のある高校生と連携し、ワークショップから得られた遊びのアイデアを基に活動を展開した。活動の中で、各遊び場の内容が分かるようサインを掲示するなど、フィードバックを受けて改善を重ねた結果、多様な子どもが参加できる場となった。

植物園温室の経路空間における期待感を抱かせる要因

中村 将也

本研究は、植物園の熱帯温室を対象とし、曲折経路空間における期待感を抱かせる要因について明らかにすることを目的とする。実験経路には、植物園温室で多く見られ期待感が生じると言われている L 字曲折経路を採用し、前方の空間への視認性・植物による経路空間の囲われ方の違いによりタイプ分けを行った。これらの分類した経路の歩行移動時の動画を被験者に提示し、期待感につながる心理変化の有無とその理由についての評価を行なった。その結果、植物園温室の曲折経路では曲折先の空間の視認性の低さや曲折手前の空間の暗さ、閉塞感によって曲折先の経路空間に期待を抱かせていることが明らかとなった。また、開放感のある明るい空間であっても曲折手前の空間構成によって期待感が生じることが明らかとなった。

イラスト看板によるシロチドリ保全への誘導 新見 紗矢

淡路市と洲本市の市鳥に制定されているチドリは淡路島の人々に馴染みの鳥といえるが、生息環境は悪化している。中でも淡路島で繁殖するシロチドリ

(*Charadrius alexandrinus*) は環境省絶滅危惧Ⅱ類、兵庫県 RD ランク A となっており、淡路島でも個体数減少が明らかとなってきた。淡路島島内では 2022 年に地域住民主体による淡路島ちどり隊も設立され調査・保全・環境教育活動が続いている。特に淡路島では砂浜の面積が狭くシロチドリの繁殖位置と人の利用位置が重なることから海岸利用者への働きかけは重要である。そこで、本研究では海岸リクリエーション利用者にも保全の必要性を知ってもらい、保全行動につながるように、イラストを用いた看板を作成し、その効果検証を目的にした。

圃場整備による畦畔草原の植生と土壌の関係

－草原保全と圃場整備の両立をめざして－

畑田 菜緒

圃場整備に伴う植生と土壌環境の変化を明らかにし、その関係について検討することを目的として調査をおこなった。大規模圃場整備を行った北淡地域では、圃場整備区で土壌 pH やリン酸濃度の上昇が生じていた。小規模な景観保全型圃場整備が行われた上勝地域では、整備区でも土壌 pH や有効態リン酸濃度は高くなっていなかった。北淡と上勝の植生と土壌の関係を解析した結果、pH または有効態リン酸濃度が高いとき、コドラートあたりの草原生植物の種数は少なく、外来種の積算被度は高いという傾向があった。これより、圃場整備による植生変化は土壌環境の変化の影響を受けていると考えられた。調査では、表土移植による植生保全効果が限定的であること、圃場整備による植生への影響は長期的に残ることも示された。これらのことから、大規模圃場整備に際しては、一部の畦畔を未整備のまま残すなどの保全方法が必要と考えられる。

農業用ウェアの提案と試作

－淡路島の農業従事者の意見をもとに－

松尾 比呂志

農業用ウェアは、農業技術の進歩や気候変動に対して十分に対応しているとは言えず、改良する余地があると考えられる。そこで、淡路島の農業従業者を対象に農業用ウェアに対する意見や要望をヒアリング調査したところ、「ファン付きウェアは重く高価である」「エプロンポケットに剪定バサミが収納できない」「衣服内や靴内に泥が入りやすい」「引っ付き虫（アレチヌスビトハギ豆果）が付着しやすい」などの問題点を確認した。これらの問題点に対応した 7 種類の農業用ウェア（簡易扇風機着脱可能ウェア、簡易扇風機着脱可能帽子、切花生産者用エプロン、泥除け足カバー（短靴用と長靴用）、オーバーウェア、オーバーパンツ）を試作した。試作品の評価を依頼し、その結果を元に試作品の改善を行った。これらの結果から、作成した農業用ウェアの特徴や推奨する着用条件などを提案した。

需要調査に基づく景観設計のための日本産樹木の 3D モデル作成

山内 櫻子

景観設計では、CG 表現を用いた景観パースの作成やデザインの発想・検討が行われている。日本産樹木の 3D モデルに関して低木・小高木のモデルは存在するものの、高木のモデルは少なく、需要があると考えられる。本作品では、需要調査に基づく景観設計のための 3D モデルを作成することを目的とした。需要調査の結果から、樹木の 3D モデルを実用可能なツールにするためには、品質の高さに加えて適切なデータ量と価格、多様性を持つ 3D モデルの作成が必要であると考えられた。実物からテクスチャを採取することや、樹形観察によって樹形の特徴を捉えることで、モデルの品質を向上させた。既存モデルの調査からデータ量及び価格の適正値を設定し実用可能なモデルに調整した。パラメータを操作していくつかの樹種で落葉後・紅葉後・開花後・株立ち・生垣樹形などを作成することで多様な形状の樹木の 3D モデル作成した。

高知県四万十町における生姜穴の活用プロジェクト

山崎 快彦

生姜穴とは収穫した生姜を貯蔵するための横穴である。内部の温湿度が生姜の貯蔵に適しており、高知県では 1960 年代後半から普及したが、今では電気予冷庫が主流となり“空き生姜穴”が増加の一途をたどっている。本プロジェクトでは、生姜穴の継承・活用方法を探るために、高知県の旧窪川町を対象として、その環境特性と利用実態を調査した。その結果、161ヶ所の生姜穴を確認するとともに、平均気温が 17-18℃と一定で常に多湿環境であること、一部生姜穴では綺麗な湧水によって湿地環境が生まれていること、過去の掘削方法などが明らかになった。それを踏まえ、継承・活用プロジェクトとして、生姜穴の活用可能性を探る企画展「壕展」を開催した。来場者からは、生姜穴の印象が変わった、イベントや観光ツアーに組み込めそうなど、活用が期待される言葉が聞かれた。

ひょうご在来作物の中華料理食材としての評価とその消費拡大方策の検討

梁震

衰退する在来作物の消費拡大方策として中華料理に着目し、ひょうご在来作物を食材とした中華料理のレシピ開発とその食味試験を実施した。まず、5種類のひょうご在来作物（太市筍、武庫一寸ソラマメ、朝倉さんしょ、姫路レンコンおよび丹波栗）についてヒアリング調査を行った。朝倉さんしょを除く 4種類のひょうご在来作物の出荷量は減少しており、その主な原因は少子高齢化による担い手不足であることが分かった。在来作物を食材として利用した全ての中華料理の総合評価は高かったことから、ひょうご在来作物を食材とした中華料理は日本人に受け入れられると考えられる。また、姫路レンコンおよび丹波栗の食味には特徴がみられ、それらは消費者への訴求ポイントになり得ると思われる。

台湾の都市緑地における樹木医学に基づくスタートアップ企業の試行 林庭綺

台湾では樹木保護に関する意識が高まり、樹木医制度や人材育成の整備が喫緊の課題である。本プロジェクトは台湾の民間緑地の所有者と管理者に着目し、聞き取り調査と現場調査を通じて問題を明らかにし、スタートアップ企業として提供可能な事業内容を検討した。その結果、個人庭園の管理では2軒で庭木の伐採や剪定を行い計17㎡の植物ゴミを出した。また樹木医と共にクロマツの樹勢回復作業を行った。所有者からは丁寧な事前協議と作業に対して高い評価を得た。造園企業へのコンサルティングでは講習会を行い、実施後の評価では「説明が分かりやすい」(56.4%)との理由から「非常に満足」78%と高い評価を得た。台湾専門家への意識調査から、樹木生理や土壌環境など知識が要望された。起業には、自身の緑化分野での知識経験、専門家や関連企業との連携による知の多様な提供が有効である。

コミュニティ・スクール事業を活用した学校ビオトープのマネジメントのあり方について 渡瀬 泰輝

神戸市の学校ビオトープは管理上の課題を抱えている。その課題に対して、本プロジェクトではコミュニティ・スクール事業に着目し、その事業を運営する協議会が学校ビオトープの管理や活用を担えないかと考えた。そして、現在の学校ビオトープが行っている地域連携の実態を把握するとともに、神戸市の名谷小学校と猪名川町の松尾台小学校の2校での実践を通して、その可能性を探ることとした。結果、神戸市の小学校で地域連携を行っているのは4校で、そのうち鹿の子台小では企業との連携が確認できた。また、2つの小学校で学校ビオトープの魅力アップ事業を実践、松尾台小学校では協議会と学校の協力のもと、昆虫観察の場を子どもたちと作った。一方、神戸市の名谷小学校では、一部の管理活動までは行ったものの、協議会の参加は得られなかった。

AIを用いた景観表現の可能性 董 文軒

近年、画像や音声、音楽生成など、様々な分野の生成AIが登場した。本研究では、画像生成AIの実験を通して、AIを用いた公園デザイン時の表現上の可能性を考察することを目的とした。研究方法は設計の無経験者、経験有学生、数年の実務経験者、ベテラン者のそれぞれの背景を有する人のAI生成利用時の意見分析である。その結果、1)公園デザインのAI生成はデザイン初期段階のアイデア収集に役立つ一方、AIの要素の認識間違いが生じるなど、設計者の意図通りに生成できない例がほとんどで結果物になりにくい。2)入力キーワードは詳しいほど意図に近い出力図が生成しやすい。また、入力図面を細かく書いた入力図がAIに理解しやすい。3)デザインの経験有無など、専門の背景の異なるAI利用者にとって、AIを活かすポイントの違いが分かった。

現代社会における公園改修の提案

－中国長春市長春公園をモデルとして－

王 天飛

近年、長春市は少子高齢化が進んでおり、北京、上海などの中心都市に出稼ぎに行く若者も多く、長春公園周辺には子供連れの高齢者が常在している。本制作は公園利用者の高齢化と施設の老朽化が進んでる長春公園に着目し、現代の利用者のニーズに沿った改修提案を行うことを目的とした。研究の進め方は文献調査及び現地の利用状態調査に基づき、それぞれの課題についてエリア毎の改修計画の試案を作成し、公園管理者の試案に対する意見をもとに最終案をまとめた。提案は、1) 現地の気候に合わせ氷上スポーツが展開しやすい拠点の設置や地域文化のひとつであるスクエアダンスの場の増設。2) 利用者の新しいライフスタイルに考慮したライブ配信広場の充実。3) 公園内の未利用の建物を活かした拠点づくりの三点の特徴が挙げられた。

身近な野生植物の使い方を通じてモンゴルの生活への理解を深めるための展示について

HAO LIGE

本プロジェクトは、日本におけるモンゴル文化の理解促進を目的とし、野生植物の利用に着目した展示手法を検証した。モンゴルでは、野生植物が食用、薬用、生活用品等として活用され、文化的アイデンティティの一部となっている。しかし、日本ではモンゴル文化は遊牧や伝統的スポーツに注目されがちで、日常生活における植物利用についての理解は広まっていないと考えられる。本プロジェクトでは、文献・アンケート調査を基に12種類のモンゴルの日常生活における野生植物を選定し、2024年9月～2025年1月に郡上市、神戸市、淡路市、大阪市の4カ所でパネル、実物、体験、動画展示を実施した。これらのアンケート結果から、体験展示が最も関心を集め、特に嗅覚・触覚を活用した展示が効果的であることが示された。また、日本にはない植物やその用途が興味を引き、モンゴルと日本の植物の共通点や違いを示すことが理解促進につながる可能性があることが分かった。

(2) まちづくりガーデナー・本科コース

蛭田 永規 藤田 楓加

1. 本科コースの概要

・本科コースの位置づけ

「まちづくりガーデナー・本科コース」は、「まちづくりガーデナー・テーマコース」とともに構成される本校の生涯学習課程の中心をなすコースである。地域における「花と緑のまちづくり活動」のリーダーを掘り起こし、支援、活発化させる「花と緑のまちづくり指導者」の育成を目的としている。

これに対して、「テーマコース」は「本科コース」修了生あるいは一年に及ぶ通学時間が確保しにくい人々を受講対象とし、1～4日間本科コースで学ぶテーマのなかの特定分野をさらに深く掘り下げて学ぶコースである。

・教育目標

本科コースの修了者は、県知事より「まちづくりガーデナー」として認定され、各地域においてその学習成果を具体のまちづくり活動に生かすことが期待されている。その活動に必要な知識、技術を総合的に身につけることを目標とし、園芸知識の習得のみならず、修了後に地域

でのまちづくり活動の中核となる実践者を育成することを目指している。

・講座の経緯

本講座は、アメリカ、カナダで制度化されている「マスターガーデナー」を参考に設定されたものであり、本校の開講と同時にスタートしている。

・カリキュラム構成

年間カリキュラムは、月1回3日間の講義、実習×10ヶ月間で構成されており、さらに、前期(4月～9月)「花とみどりのまちづくりコース」および後期(10月～3月)「花とみどりの地域づくりコース」に大きく別れる。

前期は日常生活の身近な環境を花や緑、そして自然を活用して豊かなものにしていくことを、後期は都市や地域をとりまく自然環境に目を向け、少し広い視点で自然と共生する地域づくり活動のあり方を考えていくものである。(カリキュラム下表参照)

2. 今年度の教育成果

・前期の授業実習内容

表 まちづくりガーデナー・本科コースのカリキュラム

(●:講義 ○:実習)

期	回	月	テーマ	主な内容	期	回	月	テーマ	主な内容
前 期	1	4	植物・デザインの基礎を学ぶ	●あなたまちづくりガーデナー ●景観デザインの植物の活かし方 ○校内見学・種まき実習	後 期	6	10	花とみどりのまちづくりから地域づくりへ	●兵庫県土の環境を考える ○日本の植生と地域性、里山の維持管理実習 ○学内フィールドを活かすワークショップ
	2	6	花とまちづくりへの第1歩	●花と緑のまちづくりの進め方 ○緑地デザイン・設計・現地整備 ○庭のデザインと花壇の施工		7	11	花とみどりの地域づくりへの第1歩	●まちづくりガーデナーの役割 ○農業視察、体験実習 ○花壇の管理・準備
	3	6・7	花とみどりのまちづくりヘトライ	●施工計画をつくろう ○緑地施工実習 ○里山の草原再生と観察会		8	12	花とみどりの地域づくりへのトライ	○園芸療法の福祉への活用実践実習 ○インタプリター入門と実践 ●里山保全と市民の活動
	4	7	花とみどりのまちづくりリーダーを目指して	●ワークショップによる緑地づくり ○市民活動の実践地見学 ○植物の増やし方(挿し木)		9	2	花とみどりの地域づくりリーダーを目指して	●ボランティアの意義とNPO ●バリアフリーのまちづくり ○庭木管理実習
	5	9	花とみどりのまちづくりの輪を広げよう	●園芸療法入門 ○秋冬野菜栽培実習(植付け) ○課題発表会		10	3	花とみどりの地域づくりの輪を広げよう	●子どもの発達と自然体験 ○里山づくりの見学、体験 ○課題発表会、1年のふりかえり

例年前期では、花とみどりのまちづくりを実践するための知識・技術に関する授業、体験学習と併せて、ワークショップ体験やまちづくりの輪を広げるための手法等住民のリーダーとして活動するための知識・技術に関するカリキュラムを準備している。

草花の播種やポット上げ、花壇と緑地の準備と施工、修了生の実践状況を視察しガーデナーとしての取り組み等を学んだ。

また、個人課題として、8月の夏休み中に各自でテーマを設定し、実践活動に取り組み、9月に発表会を実施した。



草花のポット上げ

・後期の授業実習内容

後期は、県土全域の視野から、各局面で自然と人間の共生を実現するために必要な知識・技術に関する授業・実習を行った。具体的には、県土に広く広がる農地や森林、里山など様々な自然環境の様相と、それらをよりよい状態で次代に継承していくために必要な営みと技術について学んだ。

花とみどりのまちづくりの知識・技術の習得として、冬春花壇のデザインに関する授業と、花壇づくり、植栽後のメンテナンス、樹木の剪定技術についての実習を行った。加えて、受講生らが地域でも市民農園に取り組めるように、菜園等の栽培実習も取り入れ、実施した。

里山の管理では、実習林の除伐と安全管理を行った。川西市を訪問し、里山林の除伐などの維持管理実習や、歴史のある菊炭の生産について学んだ。

また、丹波市の特産物である丹波大納言小豆、多可町の棚田や宍粟市の木材市場や堆肥工場の視察を行い、兵庫県の農業、森林林業への理解を深めるとともに、堆肥製造の仕組みや資源循環の意義について学んだ。

後期は校内フィールドの課題を設定し、班毎に検討を行った。3月に各班がまとめた本校の資源や周辺を含むフィールドを活用する実践活動についての提案を発表した。

このような環境に関する幅広い視点を養うことは、受講生にとっても大きな刺激となっている。学習内容の理解を深め、修了後の実践場面においても実際の環境に配慮した「真に自然と共生する」活動の展開につながっていくことが期待される。



花壇への植栽



棚田の見学

(3) まちづくりガーデナー・マスターコース

蛭田 永規 藤田 楓加

1. マスターコースの概要

・マスターコースの位置づけ

「まちづくりガーデナー・マスターコース」は、「まちづくりガーデナー・本科コース」修了生や同等以上の講習を修了された方を対象に、みどりのまちづくりに貢献できる様々な技術・知識を専門領域ごとに体系的に学べるコースであり、よりレベルの高い「花と緑のまちづくり指導者」の育成を目的としている。

・教育目標

マスターコースの修了者は、県知事より「まちづくりガーデナー・マスター」として認定され、各地域においてその学習成果を具体のまちづくり活動のレベルアップと拡大に生かすことが期待されています。そのために必要な知識・技術をより専門的に幅広く身につけることを目指しており、修了後は地域でのまちづくり活動を牽引できるリーダーの育成を目標としている。

・講座の経緯

本講座は、本校開校以来「まちづくりガーデナー・本科コース」を修了した多くの修了生や、近年各地で実施されている同等の生涯学習の修了生を対象に、そのステップアップコースとして、本科コースの総合的な学習内容からより専門的に各領域の学習ができるよう平成 29 年度

から設定されたものであり、今年度で 8 年目を迎える。

・カリキュラム構成

一年にわたるカリキュラムは、月 1 回 3 日間の講義、実習×10 か月間で、本科コースと並行する形で構成されており、さらに、前期(4 月～9 月)及び後期(10 月～3 月)に分かれる。

1 か月ごとの課題やプログラムに応じて、各専門領域の教員がそれぞれのプログラムを監修し、本科コースよりさらに深めた講義・実習等が行われ、ステップアップを図る内容となっている。

前期では「花壇づくりの基礎とまちづくり」「園芸福祉を深める」「小さな空間のデザイン設計を学ぶ」「里山の保全と管理」等の基本的な考え方や調査・設計方法を学び、後期ではこれらの具体的な設計やプログラムづくり、現地での実践を行う。また、1 年を通じての「花と緑の栽培実習」について学ぶカリキュラムも設定されている。これは毎月部門別の月替わりの講座だけでなく、植物栽培の一連の作業を継続的に行うことにより、植物への愛着や生き物としての認識を養うためであり、大学らしい科学的なアプローチにより、一般のカルチャースクールとの差別化を図っている。(カリキュラム下表参照)

表 まちづくりガーデナー・マスターコースのカリキュラム

(●:講義 ○:実習)

期	回	月	テーマ	主な内容	期	回	月	テーマ	主な内容
前 期	1	4	持続可能なまちづくりと緑地づくり	●ガーデンコーディネーターの心得 ●花壇管理のガイダンス ○園芸の科学(花の文配)	後 期	6	10	園芸生活のノウハウ、世界の庭園	●植栽デザイン ○ミニガーデンの楽しみ方 ●世界の庭園
	2	5	花壇管理を学ぶ、園芸福祉を深める	○宿根草花壇の管理 ●園芸と健康づくり ○園芸福祉プログラム体験		7	11	バリアフリーのまちづくり、里山の保全と管理	○バリアフリーのまちづくり ●里山管理の実践 ○里山管理の実践(除伐等の森林整備)
	3	6	花と緑の栽培、自然観察や公園で実施するプログラムづくり	○一年草花壇の管理(夏秋花壇) ○魅せる花壇をつくる ○昆虫を用いた自然観察		8	12	花壇の栽培実習、公園の活用プログラムづくり	○一年草花壇の管理(冬春花壇) ○公園を地域の元気拠点に ○里山の活用(竹を利用したクラフト)
	4	7	空間デザイン設計を学ぶ	○庭園デザイン演習 ●環境学習としての樹木や昆虫の識別法と実践 ○花と緑の先進地見学		9	2	地域活動と情報発信について学ぶ	●パソコンを用いた情報の入手や発信 ○バラの植栽 ●アメリカンランドスケープ ●動植物を利用した地域おこし、地域学入門
	5	9	里山の自然と保全の意義を学ぶ	○里山植物の同定 ○里山林の現況調査 ○里山管理の実践(里山林の遷移を調べる)		10	3	花とみどりのまちづくりのレベルアップとリーダーとしての心得	○ハーブの植え付け ○花と緑の先進地見学 ○1年を通じた成果発表・意見交換

2. 今年度の教育成果

今年度は、受講生 18 名が 3 月修了時点でガーデナー・マスターに認定された。

・前期の授業実習内容

本科コースのステップアップを図るため、基礎知識の習得と演習を中心とする内容となっている。植物栽培の基礎と実践から、庭園の原理や庭の設計のための現地調査と基本計画の策定、園芸療法の園芸福祉活動プログラムの作成体験、「魅せる花壇をつくる」では、昨年度に引き続き県立公園あわじ花さじき“歓びの庭”のデザインに取り組んだ。さらにプロットを設置して里山林の現況調査と管理方針の策定等を本校のフィールドを活用し実施した。

また、通年の花と緑の栽培実習では、一年草の花壇管理を学びながら、花壇への植栽等を時期に応じて行った。また、本年は宿根草とバラの花壇づくり、ハーブの植え付けやその活用方法についての授業も実施した。



花壇の管理実習（通年）

さらに、公園管理の先進地視察として、約 350 品種にものぼる多種多様なアジサイを有する神戸市立森林植物園の見学を行った。

・後期の授業実習内容

前期の学習内容を踏まえ、より専門的かつ具体的に実践するための授業・実習を中心に実施した。通年の花と緑の栽培実習に加え、バリアフリーのまちづくりをめざすための座学と体験実習、パソコンを用いての情報発信と入手の実習等も行った。

里山林管理実習では、現地調査、里山林の管理計画を作成し、実際に除伐を主とした管理作業を実践した。整備前後による環境変化を調べるため、照度の測定も併せて行った。伐採した木の幹から年輪ディスクを切り取り、年輪を数えることで林の成り立ちの変化について推察した。



花と緑の先進地見学（7月）



魅せる花壇 デザイン発表会（6月）



里山管理実習（11月）

(4) まちづくりガーデナー・テーマコース

1. 概要

・位置づけ

この「まちづくりガーデナー・テーマコース」は、生涯学習講座である「まちづくりガーデナーコース」の一つで、「まちづくりガーデナー・本科コース」修了生のスキルアップや、本科コースなどへの通学の時間的余裕のない方あるいは花と緑のまちづくりをすでに行っておられる方などを主対象に、ある特定のテーマに絞って集中的に学ぶ1～4日のコース。

このコースは、「本科コース」修了生が誕生した翌年の平成12年度から始まったもので、令和6年度にあっては、4つテーマで実施した。



花や実を見ずに樹木を見分けるコツ

・教育目標

「本科コース」の中で学ぶある特定のテーマについて、さらに深く掘り下げて学んでもらおうというもの。そのため、本科コースなど他の「まちづくりガーデナーコース」より専門的な内容で、まちづくり活動の実践者のスキルアップに寄与することを目標としている。



特定外来植物ナルトサワギクを駆除して草木染め！

・カリキュラム構成

特定のテーマに絞って短期間で、かつ集中的に学習することを目的としているために、長いものでも5日間としている。

2. 教育成果

令和6年度にあっては、4つテーマに対して、延べ99名の受講があり、延べ63名の方が所定の課程を修了している。

テーマ名	日程	講座概要		受講料
花や実を見ずに樹木を見分けるコツ	6/26 (水) 7/24 (水) 8/28 (水) 9/25 (水)	講義と観察を通し、身近な樹木の近似種のちがいを理解し、花や実を見なくても樹木を見分けるコツを学びます。	花や実を見なくても、サザンカやカンツバギ、ソメイヨシノやオオシマザクラ、コブシやハクモクレン、キンモクセイやギンモクセイ、サルスベリとシマサルスベリなど、まずは50種以上を目標に、室内講義と野外観察で学びます。	6,700円
園芸療法基礎講座 緑を用いたストレス・ケア入門	8/25 (日) 9/21 (土)	園芸療法の基礎となるみどりの景観や植物を用いた癒しを体験する	・緑の景観、植物を用いたストレス・ケアについて、マインドフルネスなど新たな視点を加えて園芸療法の基礎を体験する	4,900円
特定外来植物ナルトサワギクを駆除して草木染め！	10/14 (月)	淡路島南部を中心に分布している特定外来生物「ナルトサワギク」の結実前の頭花を使って植物染めを行うことで、楽しみながら外来種防除を行う手法を体験する。	・特定外来植物ナルトサワギクの防除を行い、摘み取った花で草木染めを行い、オリジナル作品を作成	4,900円
身近な材料で肥料と土づくり	1/16 (木)	肥料の基礎的な知識と、身近にある材料を使用して、ぼかし肥料や堆肥づくりについて学ぶ。	・落ち葉や米ぬか等の材料を使用して、ぼかし肥料や堆肥づくりについて学ぶ	4,900円

(5) まちづくりガーデナー・本科コースを修了して

本科コース 26 期 長谷川 壽男

園芸に関わり始めたのは退職後の再雇用を終え、70歳を迎えた時からである。母が亡くなり、放置されていた自宅の庭を何とかして欲しいという妻の希望が契機であり、居住地に近く、園芸コースのある神戸市シルバーカレッジ園芸(以下KSC)に入学した。

3年間のKSCでの授業と経験は貴重なものであった。自主管理できる畝が提供され、土づくりから植え付け・雑草取りと水遣り・収穫と、炎天下でもほぼ毎日の管理作業に追われたことや調査研究で「ひょうご五国の特産野菜を訪ね・味わう」をテーマに取組み、淡路島では日本農業遺産に選定された淡路タマネギの農家を訪問し、旬のサワラ丼を味わったことを思い出す。

また、花とみどりを中心として地域独自の風土や自然環境の保全に取組む「淡路景観園芸学校」の訪問調査を同期生に呼びかけ、計14名で訪問した。庭園デザインについて講義して頂くとともにKSC-OBのアルファメイトの方々にALPHAガーデンをご案内いただいた。

淡路景観園芸学校は学びだけが目的ではなく、学習成果を卒業後に地域社会に還元することを目指すという立ち位置がKSCと同じであった。

KSC卒業後のイメージが描けなかったが、自分なりの「花とみどり」と、持続可能で活気のある「まちづくり」への想いに対して、淡路景観園芸学校の花とみどりの取組みや里山の維持管理・園芸福祉などの豊富なカリキュラムに魅力を感じ、引続きの学習先として選ばせていただいた。

本科コースでは、平田教授からは兵庫県の地域の特徴にはじまり、高齢化による耕作放棄が進む農家の現状、里山の維持管理・環境保全の取組みを紹介いただいた。また、新保准教授からは花と緑のまちづくり・地域のボランティア活動の事例紹介やワークショップによる理解の促進と取り組み方を指導いただいた。

前期の「花とみどりのまちづくりリーダーになろう」の個人課題と後期の学内をフィールドとした課題設定とその解決のグループ発表はプレッシャーもあったが、班での意見交換・訪問調査・報告書作成など辛くもあったが、良い経験であり、達成感があった。

花苗の播種、花壇への植え付けと維持管理、緑地のデザインと施工、分区園での野菜定植と収穫では、先生方やインストラクターの方々が学生と一緒にのっての実践指導が印象的であった。

前期には三田市の皿池湿原と西宮市名塩のガーデン見学、後期には小豆の種収穫体験や、木材市場等の見学、川西の里山管理作業体験と原木シイタケ植菌など県内の北・西・東への校外学習は新たな発見の連続であり、現場の生の声を聞く有意義な機会となった。

同期には、地域のまちづくりに加え、小学生の農作物育成と収穫体験にも取組む「松が丘ふれあいガーデン」や地域住民の庭を開放庭園として維持管理する「モモまるガーデン」に取組む方々も在籍しておられ、活動に参加経験もさせて頂き、自身が取組む地域のまちづくりの参考となった。

また、子育てや仕事に一段落がつき、自分のために新しい知識・体験を吸収できる「学ぶ楽しさ」を実感している方々が多かった。それぞれが抱える課題について相談するだけでなく、個人的なこと、家族のこと、仕事のこと、趣味や健康のこと等、それぞれの経験に応じた意見を交換することは相互理解と気づきに重要である。今後とも、このネットワークを維持していきたい。

また、ALPHA祭は学生とOBが主体となって開催されており、生涯学習や園芸療法課程の学生も一緒に計画・作業分担して取組めれば、学生生活がより充実すると感じ、ぜひ参加してみたい。

次年度からは本科コースを修了した多くの方々とマスターコースに進む。本科コースで培った景観園芸の知識と取組み姿勢をさらにブラッシュアップして、まちづくりに活かしたい。



(6) まちづくりガーデナー・マスターコースを修了して

マスターコース9期 廣岡 智美

2022年4月、義父がびわの木の袋掛け作業中に転落し、車いす生活になりました。今まで自宅の田畑や山、庭などは全て義父がやっていたため、農作業や植物の管理方法や用語など全くわかりませんでした。

そんな時、テーマコースの【里山の「やっかいもの」を「役立ちもの」にクラフトする】を受講し、ただ籠を作って楽しむだけでなく、里山のやっかいものの竹やつるを楽しく除去して生物多様性の保全に役立てるといふ、楽しく学べることに興味が沸き、仕事を続けながらもできる【まちづくりガーデナーコース】を受講するきっかけになりました。

本科コースでは、花や緑に関する知識や技術の習得だけではなく、人と人をつなぐコミュニケーションツールとしてのまちづくりガーデナーとしての役割を学び、さらに【まちづくりガーデナー】としての知識を深めたいと思い、マスターコースを受講することになりました。

花と緑の栽培実習では一年草や多年草の植え付けや維持管理をし、班の皆さんと一緒に話しながらの除草や植栽はあつという間に作業が終わり、毎月の授業のたびに成長していく姿を見ながら、ガゼボで級友たちとお弁当を食べたり、お喋りをするのがとても楽しみでした。

花さじき歓びの庭デザインでは各班デザインや植栽アイデアを出し合い、花が満開になった頃に訪れるとたくさんの観光客が訪れていて思わず「私たちがデザインした作品です」と声を掛けると「とても素敵ですね」と褒めていただき嬉しかったです。

園芸福祉においては仕事でデイサービスのお手伝いをする機会があり、日頃から自宅の庭で育った花や、フラワーアレンジメントで習った花など持って行くと、「綺麗だね」「この花はなんていう名前？」など花を前にすると誰もが笑顔で会話も弾むので嬉しく、認知症の方だけでなく、高齢になり一人で作業するのが難しくなった方でも農作業の知識や経験が豊富でとても勉強になり、お互いが助け合って楽しめるのが園芸福祉の素晴らしさだと実感しました。

また、「花と緑」づくりを実現し、広める最大

の機会を【ひょうごまちなみガーデンショー】で実現する機会がありました。マスターコースへ進まなかった方々にも声を掛け、メンバーが力を合わせて展示を計画から施工するまでを経験でき、上手くできなくても参加者は必ず一つの役割を持ち、意見を出し合いテーマを決め、デッサンを元に、使われなくなったじゃが芋の箱やビワの籠を活用し、夏の暑さに負けないよう、事前に手分けして花をつくり、限られた時間の中でSNSのグループを作ってやり取りをしました。現場での作業を短時間で設置できるよう、学校での仮施工、期間中の管理、終了後も無駄が出ないように展示した植物はもちろんだ道具や土も手分けし、楽しい時間を過ごせました。学校とAGNのアピールに寄与することができたことにとっても達成感があり、チームワークとコミュニケーションを最大に活かすことができました。

里山管理の実践では毎木調査と林内照度の測定をし、除伐した年輪を数え30年前の林の状態を知ること感動しました。

今後の目標は海と山に囲まれた淡路島で地域のコミュニティサロンでの寄せ植えワークショップや、園芸福祉で学習した知識を生かして、デイサービスの利用者の方々と一緒に施設の庭での植栽や畑で栽培し収穫した野菜を使つての調理実習や、四季折々の淡路島のお花見や紅葉狩りなどへの外出支援、自宅の荒れ果てた山と庭を少しずつ楽しみながら管理できればと思っていました。期せずしてこの度お声を掛けていただき4月から【緑のパトロール隊員】として淡路島内で働くことになりました。

お話をいただいたとき「あと何年元気に仕事ができるかな」「新しい仕事を覚えたり、挑戦できる機会はこの先あるのかな」と今まで関わったことのない分野に挑戦するのは不安だけど、やってみないとできるかどうかわからない。今このチャンスを活かしたいと決断しました。

自分の住んでいる地域だけでなく、淡路島や兵庫県内の花と緑あふれる美しいまちづくりに【まちづくりガーデナー】の一員としてこれからも支援できればと思います。

(7) AGN との協働によるキャラバン事業の推進

1. キャラバン事業とは

キャラバン事業とは、本校教員が県内各地に出向き、本校生涯学習課程修了者の方々やその関係者で本校課程への入講を考えている方々との交流を図り、修了生の活動を支援・促進するとともに、本校教育課程の広報を行う出前講座である。本事業は、まちづくりガーデナー本科コースへの入講促進のため出前で行っていた「まちづくりガーデナー・体験コース」が県内市町をほぼ周りつくし、また、修了生も各地に増えてきたことから、このコースに代わるものとして平成18年より開始したものである。また、この事業は企画段階から全面的に本校生涯学習課程の修了生の会「NPO 法人アルファ・グリーンネット(以下「AGN」)」との協働により実施しており、毎年4～5カ所で開催している。

プログラムは、おおむね本校教員からの講話(最近の花と緑のまちづくりのに関する話題)、修了生からの活動報告、活動の現場見学や意見交換などから構成されている。

2. 令和6年度の実施内容

令和6年度は、新型コロナウイルスも収束し、感染対策に十分な配慮を行いながら、当初の計画どおり下表に示す県内4カ所で開催することができた。各回ともAGNとの協働によって企画・実施がなされ、活動報告、見学の実施にあたっては、本校修了後開催地の近くで活躍される修了生の全面的な協力のもと多彩なプログラムが展開された。

また、修了生が来場の誘いをかけてくださった新たな参加者もあり、本校の教育内容を知り、次年度の講座参加のきっかけとなった。

特に、修了生の活動をその現場で直に紹介

令和6年度キャラバンの実施概要

回	対象地区	月日	場所	出講教員	講話以外のプログラム概要	参加者
1	淡路地区	R6.6.21	淡路ハイウエイオアシス	藤田 楓加	講話、活動報告	24名
2	阪神地区	R6.11.18	尼崎上坂部西公園	平田 富士男	講話、活動報告	28名
3	神戸地区	R7.1.24	須磨海浜公園	蛭田 永規	講話、活動報告	30名
4	東播磨地区	R7.2.26	加古川市民交流ひろば	新保 奈穂美	講話、活動報告	32名

いただくことは、本校教員にとっても教育活動の成果を再認識することになるとともに、参加者の皆さんにとってもさらなる学習に向けての意欲を高めるものになっている。

3. 令和7年度の予定

令和7年度もAGNとの協働によりこれまでどおりの規模、内容で県内各地に出向く計画を進めており、引き続き修了生の活動現場での支援と本校教育のPRに努めていく。



淡路地区キャラバンのようす



神戸地区キャラバンのようす

(8) 園芸療法課程

劔持卓也

1. 通学制の進路状況

2024年度は全寮制の修了生不在であり、通学制12期生11名が修了した。今の職場・職業で園芸療法を活かす人が9名（病院2名、福祉施設2名、学校2名、自社2名、その他1名）、非常勤園芸療法士1名（さくらホームおおの里）、起業予定1名であった。

3. 園芸療法実習Ⅲ報告会より

この報告会は、全寮制及び通学制学生が学んだ知識・技術を園芸療法実習として行った成果の集大成である。いくつか事例を紹介する。

1) 地域密着型デイサービスを利用するうつ病既往歴のある90歳代女性に行った園芸療法

うつ病の既往歴があり、デイサービスに週4回通所する90歳代女性に対し、「他者との交流や自己の経験を発揮することにより、満足感や達成感を得ることができる」、「活動や作品を通して、デイサービス職員や他の利用者との会話を楽しむことができる」を目標に園芸療法を行った。本人に馴染みのある畑作業や野菜の栽培、花の植え替え作業を行うことで、自身の経験を発揮することができ、積極的な取り組みが見られた。植物を用いた創作活動では、本人が挑戦しやすい難易度の作業工程とすることで、自信につながった。また、作品を通じて、他の参加者や職員との交流も見られた。淡路式園芸療法評価尺度（以下、AHTAS）では、取り組みの前半に比べて終了時では満足度に比べて「意欲」、「満足」の評点が向上した。活動内で作成した作品は自宅に持ち帰ったが、それらを通じて家族との会話のきっかけとなるなど、植物を用いた創作活動の作品を介してさまざまな場面での交流機会の増加につながった。

2) 被殻出血により、右軽度麻痺や喚語困難、錯語を生じた60歳代の女性に行った園芸療法

左被殻出血により、軽度の麻痺と喚語困難（言いたい語が言えない、特に名詞で阻害される症状）と錯語（言いたい言葉と違う言葉を言

ってしまう状態）がある60歳代の女性に対し、「園芸療法場面を通じて、スタッフとの積極的な会話が行える」、「園芸療法への参加を通じて日課ができ、ダイルームで過ごすことができる」を目標として園芸療法を行った。観葉植物や花苗を使った寄せ植えづくり、華やかさのあるアレンジメントづくり、退院後の生活に活用できる作品づくりを提供した。観葉植物の水耕栽培や、花のアレンジメント作品をダイルームに設置し、飾ってもらうことでその世話をしたり、見に来たりすることが増え、居室に閉じこもることが減った。また、そうした作品を介して、スタッフとの会話が増加するとともに、介入当初に比べると、自発的に交流を取ろうとする場面が増えた。AHTASにおいても「コミュニケーション」の点数が、前期は2点であったところ、後期には3点に上昇した。今回の関わりでは、植物を介してコミュニケーションを持つことが本人の自信につながった様子がうかがえた。

3) 就労継続支援B型事業所に通所するダウン症及び知的障害の20歳代男性への園芸療法

ダウン症及び知的障害があり、就労継続支援B型事業所に通所する20歳代男性に対し、「多肉植物のさし穂を鉢にピンセットで複数本さすことができる」、「水耕栽培作業をゆっくり正確に行える」、「作品の写真を撮り、家庭で話することができる」を目標に関わった。本人ができることを増やすことが目的であり、どのようにすると本人が理解しやすいかを考え、多肉植物の寄せ植えの工程や道具の使い方を写真で示した。また、作業への意欲関心を維持できるように、適宜声掛けを行い、楽しみながらできるよう意識した。ピンセットの使用については繰り返し行うことで上手につまめるようになった。また、見本を写真で提示することで正確に取り組めることが増えた。家族へのアンケートでは、帰宅後に植物のことを話すことが習慣になっており、植物を用いた作業が本人の意欲を高めた様子がうかがえた。

① 食品リサイクル堆肥高付加価値化に関する実験的研究

大藪 崇司・樋上 啓子

1. 目的

食品残渣由来のリサイクル堆肥の高付加価値化としての培養土開発を行うにあたり、副資材やその配合比率を検討するとともに花卉作物への適用による成長量の比較検討を行うものである。これまで、水稻や野菜類への植栽実験を通じて、その性能試験と評価を行い食品リサイクル堆肥の有効性について調査研究を進めてきたが、一般家庭が使用する培養土への展開を目指し開発を行うものである。

2024年度は、昨年度のポット栽培実験で得られた食品リサイクル堆肥の施用が20～30%の混合比率で良好な生育を示したことから更なる改善を目指して、土壌資材の変更、それらが生育に及ぼす影響と土壌の変化、生産現場での生育比較とその使用感を調査した。

2. 方法

2-1 食品リサイクル堆肥の混合比率が花苗の成長と開花に及ぼす影響

2024年5月15日にトレニア（*Torenia fournieri*）品種‘F1 カウアイ ローズ’を288穴セルトレイに播種した。セルトレイを無加温施設内のベンチ上に静置し適宜灌水した。6月17日に育苗中のセルトレイをJA兵庫六甲神戸西育苗センターから兵庫県立淡路景観園芸学校内の無加温ガラス温室内のベンチ上に移動させた。6月24日に第1表に示した培養土①：兵庫県標準培養土、培養土②：食品リサイクル堆肥30%・ピートモス70%、培養土③：食品リサイクル堆肥30%・ピートモス30%・赤玉土（中粒）40%、培養土④：食品リサイクル堆肥30%・ピートモス30%・パーライト40%、培養土⑤：食品リサイクル堆肥40%・ピートモス60%、培養土⑥：食品リサイクル堆肥40%・ピートモス40%・赤玉土（中粒）20%、培養土⑦：食品リサイクル堆肥40%・ピートモス40%・パーライト20%および培養土⑧：食品リサイクル堆肥

50%・ピートモス50%をそれぞれ充填した3号ポリポットにセル苗を定植した。播種110日後の9月2日に各培養土から任意に6個体ずつサンプリングし、草丈、株幅、主茎の直径、小花の直径、葉身のSPAD、開花数、枯花数、蕾数、シュート新鮮重および根新鮮重を測定した。新鮮重測定後のシュートおよび根を80℃に設定した乾燥機で4日間乾燥させた後、シュート乾物重および根乾物重を測定した。

2-2 栽培農家での実験

兵庫県三木市の花卉園芸農家にて、パンジーマトリックスイエローを2024年9月～11月にかけて栽培し、通常の栽培工程の中でその栽培における使用感を得た。

3. 結果

ダイアンサスとビオラにおいては鹿沼土あるいはパーライトを添加せず、食品リサイクル堆肥とピートモスを1：2で配合した培養土で栽培した花苗が最も成長が良かった。これは対照区とした兵庫県標準培養土で栽培した株と比較してもほとんど差異はみられなかった。

また、栽培農家での生育では、食品リサイクル堆肥を30%、ピートモス50%、パーライト10%、黒曜石パーライト5%、鹿沼土5%の実験区での生育が最も良かった。

食品リサイクル堆肥の比率が30～33%で、ピートモスだけで培養土とするのか、副材をもう少し検討するかについては研究の余地があるものと思われる。食品リサイクル堆肥を30～33%配合した培養土はある程度、園芸植物の栽培に活用できると考えられる。ただし、この培養土のpHは8.8で弱アルカリ性を示すとともに、交換性石灰が特に高かったことから、これらの値を適正な値に調整する資材の発見が引き続き重要であると考えられる。

次年度、本成果を活かして継続した実地での検証を引続き行っていきたいと思う。

② 万博記念公園自然文化園における 生物多様性に配慮した森づくり

大藪 崇 司

1. 研究目的

万博記念公園自然文化園（98.5ha）において菌類の発消長とその多様性に関する基礎的調査を目的とした。菌類の発消長の把握は、食べるなどの直接利用以外に、自然観察会における環境教育のアイテムや自然文化園の自然性の回復の指標となるなど、その活用方法が期待され、今年度月1回の頻度で生態調査を行った。

分類は、31種のうち地上生が14種、材上生が17種であった。菌類の総発生回数は95回で、調査回数の少ない初年度を除き16年間で5番目の年となった。発生のパターンは、2010年、2011年、2012年、2016年に見られた年間を通じて大きなピークが2回現れる二山型を示した。2023年2月から続いていた2025年万博会場に向けての高木の移植作業が終了した。

2. 研究方法

公園内を所定のコースを歩き、木材・枯れ枝・落葉および地上から発生する菌類の子実体を観察し、種名および子実体発生数を調査した（図1）。調査は、毎月1回行い、本報では2024年1月から同年12月までのデータを扱った。

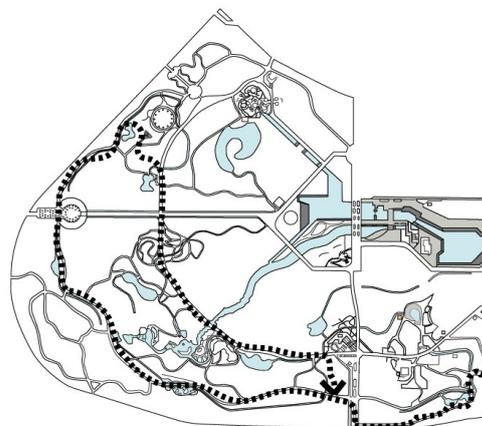


図1 ルートセンサスコース

3. 研究結果

2024年に自然文化園で発生した菌類の種名、発生日、生態的特徴を表1に示した。2024年は31種類の菌類が確認された。発生場所の生態的

表1 2024年度に自然文化園で発生した菌類種と発生場所の生態的特性

和名	学名	1月31日	2月27日	3月22日	4月21日	5月31日	6月26日	7月23日	8月19日	9月27日	10月28日	11月28日	12月26日	合計	生態的特性
アイタケ	<i>Boletus chrysenteron</i> (Schaeff.) Fr.						○	○						2	材上
アセタケ 属	<i>Ascypha</i> sp.		○								○			2	地上
アミズギタケ	<i>Polyporus arcularius</i> (Berk.) Fr.				○			○						2	材上
イヌセンボンタケ	<i>Coprinus disseminatus</i> (Pers.) J.E. Lange						○							1	材上
カンタケ	<i>Boletus</i> sp.										○			1	材上
カブラアセタケ	<i>Ascypha abnormis</i> Quél.										○			1	地上
カワラタケ	<i>Cordoba curvator</i> (L.: Fr.) Quél.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	材上
キクラゲ	<i>Asteriaster perfractus</i> (Berk.) Lindem.				○									1	材上
キチャハツ	<i>Boletus setosus</i> (Fr.) Bonnier						○				○			2	地上
キツネノカラカサ	<i>Leptocleonus stipitatus</i> Kuntze										○			1	地上
キノコウアタケ	<i>Xanthoconium chrysenteron</i> (Bolt.) Sacc.						○							1	地上
クジラタケ	<i>Dicranium crinitatum</i> (Vahl) Berk.		○											1	材上
クロハリタケ	<i>Phaeolus sp.</i> (Fr.) Karst.						○							1	材上
コウジタケ	<i>Boletus satomae</i> Peck.						○							1	地上
コフキサルノコシカケ	<i>Elvelaia applanata</i> (Pers.) Karst.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	材上
シロハツ	<i>Boletus delica</i> Fr.							○			○			2	地上
スエヒロタケ	<i>Scizophyllum commune</i>	○	○	○	○									4	材上
スギヒラタケ	<i>Phaeocystis perfractus</i> (Pers.) Fr. Sacc.								○					1	材上
チャウロコタケ	<i>Sporium ostrea</i> (Henn. & E. Naud.) Fr.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10	材上
チリメンタケ	<i>Dicranium elyptum</i> (Pers.) Fr.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	材上
ツノマタタケ	<i>Elvelaia applanata</i> (Schaeff.) G.W. Martin					○	○				○	○		4	材上
ツングタケ	<i>Amorphotropa umbonata</i> (Fr.) K. Henselm.										○			1	地上
トガリニセフウセンタケ	<i>Cordyceps satomae</i> Hongo					○								1	地上
ニオイコベニタケ	<i>Boletus badius</i> Hongo										○			2	地上
ヒヨロタケ	<i>Polyporus cervinus</i> (Fr.) Bond. & Sacc.	○	○	○	○	○	○	○	○	○				9	地上
ヒナヒゴサ	<i>Gyromitra sibirica</i> (Bull.) Fr. Sacc.													1	地上
フウセンタケ 属	<i>Cordyceps</i> sp.	○	○											2	地上
ベニタケ 属	<i>Boletus</i> sp.					○	○							2	地上
ベニヒダタケ	<i>Phaeoacremonium</i> (Schaeff.) Fr. Kuntze								○					1	地上
赤コリタケ	<i>Cycoperium perforatum</i> Pers. Fr.										○			1	地上
ヤマドリタケモドキ	<i>Boletus rufus</i> Schaeff.						○							1	地上
発生回数合計		7	9	6	8	8	16	8	7	5	14	4	2	95	

③ 学習塾等における鉢物類効用調査

豊田 正博・剣持 卓也

委託者

農林水産省令和6年度次世代国産花き産業確立推進事業の一貫で、全国鉢物類振興プロジェクト協議会より「学習塾等における鉢物類効用調査」の委託を受けたが、学習塾での受け入れは困難となり、全国12カ所の図書館で同様の調査を実施した。

研究目的

企業オフィスでは、エントランスや壁面、屋上等のみならず、職場で働く個人の能率アップや健康管理に資する作業デスクや休憩室等における屋内緑化ニーズが高まっている。本研究では、全国12の図書館で、利用者に無料でミニ植物を貸し出して、読書・学習・仕事をする時の植物の効用についてアンケート調査を行った。

研究方法

1) 調査協力者の募集

図書館利用者の目につきやすい場所に植物棚を設置し、モニター調査依頼のチラシを掲示して協力者を募った。

2) 検証期間

令和6年7月1日（月）～11月30日（土）
※各図書館により調査期間は異なり、上記期間中2～3ヶ月程度実施

3) 使用植物

各館により、設置した植物は異なるが、大きく分けて①コショウラン、②サボテン、③観葉植物の3種を含むものとした(12館のうち1館のみサボテン設置なし)。植物の大きさは高さが20cm～30cm、幅が15cm～20cmだった。



図1. 使用植物の一例.

結果(抜粋)

1) 机の上に植物を置くことで感じた効果

12図書館いずれにおいても、机の上に植物を置くことで感じた効果として「リラックス」と回答した割合が最も多かった。その次に多くの図書館では「集中力向上」、「目の疲れ軽減」の順で、利用目的によって感じる効果に大きな差はみられなかった。

最も回答数が多かった堺市立西図書館の結果では、リラックス（79.0%）、集中力向上（39.3%）、目の疲れ軽減（21.0%）、アイデアがわく（11.2%）の順であった。

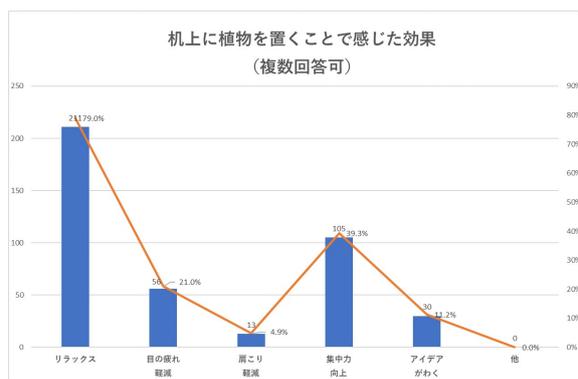


図2. アンケート結果(堺市立西図書館).
n = 267

考察

すべての図書館で70%以上の回答者が継続を希望し、7館では90%以上の回答者が継続を希望した。今回の取り組みに比較的好意的であった利用者がアンケート記入に協力した可能性については考慮する必要があるが、図書館内に植物を設置し、好みの植物を机に持っていきことができる今回のような取り組みは、本と机、書棚といったやや無機質なものに囲まれた空間の中で、安らぎを感じることができ、利用者に広く受け入れられる可能性が示された。

④令和6年度多井畑西地区交流広場整備等に係る支援業務

嶽山洋志・光成麻美

神戸市須磨区多井畑西地区は、市街地近郊にありながら豊かな自然が多く残ることから、無秩序な開発の抑制、あるいは里山や農地などの保全が期待される地区とされる。そのような多井畑西地区において、神戸市は地区中央部に市民が憩い、

集うことができる「交流広場」を手作りで整備を進めている。本年度は学生によるアイデア出しのグループワークを開催、計画の更新を行うとともに、展望台づくりやプレーパークなどの遊び場づくりを進めた。



多井畑西地区での活動

公開中 14本

神戸市・多井畑西地区でのこれまでの活動を「淡路景観園芸学校」の学生がご紹介！里山保全・活用や、里山でのイベント、自然体験などに興味のある方はぜひ見てみてください。

フォロー中

設定

運営しているクリエイター



記事 月別 ハッシュタグ



「あおぞらテラス」に竹のデッキを新設！ 2025.02.01

こんにちは！淡路景観園芸学校1年の井家由比花（いのいえ ゆいか）と井内 なぎさ（いのち なぎさ）です！2月1...

淡路景観園芸学校 多井...
2週間前

2



多井畑交流広場でプレーパーク！ 2025.01.11

こんにちは！淡路景観園芸学校1年の藤井です。今回は、1月11日（土）に開催したプレーパークについて...

淡路景観園芸学校 多井...
3日前

2



「あおぞらテラス」制作再開！！ 2025.01.18

こんにちは、淡路景観園芸学校の戴、中山です！1月18日（土）に多井畑交流広場へ行ってきました。今回...

淡路景観園芸学校 多井...
3日前

2



「あおぞらテラス」はしがが完成！ 2025.01.26

こんにちは！淡路景観園芸学校1年の竹本 佳美（たけもと よしみ）と藤井 芹奈（ふじい せりな）です。1...

淡路景観園芸学校 多井...
3日前

2



多井畑交流広場でプレーパーク！ 2025.02.08

こんにちは！淡路景観園芸学校1年の服部 希実（はっとり のぞみ）、藤井 芹奈（ふじい せりな）、圓山 初...

淡路景観園芸学校 多井...
3日前

2



プレーパークin自然環境サミット 2024「多井畑フィールド」

こんにちはー！！淡路景観園芸学校の山内、駒ヶ嶺、山崎、藤井です！今回は、11/23に行われた自然環境...

淡路景観園芸学校 多井...
2か月前

38

note で活動を報告【<https://note.com/tainohata/m/ma1ac90174bdd>】

⑤ 湊地区活性化構想の策定および地域づくりチャレンジ事業のあり方について

嶽山 洋志・光成 麻美



湊地区ゾーニング計画

基本方針	事業名	事業内容
食べる、買う、体験する 賑わいの拠点エリアの再整備	1 重	拠点エリアのランドスケープデザイン 拠点エリアのデザインをワークショップ型で行う。またワークショップの中で道の駅に関する議論が多かったが、それも含めて場のコンセプトや機能について議論を行う。
	2 重	仮設型の公園「シーパーク」の整備 拠点エリアに大人子どもも楽しめるような仮設型の公園を1週間設置する。具体的には芝生を敷いたり伐倒材を用いた遊具を設置したりするとともに、カフェデッキを設けるなどして大人もくつろげる空間とする。
	3 重	ファーマーズマーケットの開催 近隣の農家や漁師、互職人などによる農台イベントを開催。可能であれば日曜日（ファーマーズマーケット）として定例開催する。特に「夜」の開催にも力を入れ、宿泊客に向けてお酒の提供も行う（参考：ひろめ市場）。
	4	謎解きイベント シーパ、ゆとりっく、公民館の3館連携による謎解きイベントを開催する。可能であれば、鹿野松原や丸山地区など周辺観光施設との連携も模索する。
	5 重	シーパ内でのチャレンジショップ パン屋、うどん屋、コーヒースhopなど、シーパ内の空き店舗を活用したチャレンジショップを開催する。
	6	体験型ツーリズムの推進 農家や漁師、互職人などと連携し、体験型ツーリズムを開発する。具体的には農地では付付け収穫体験、漁業では定置網引上げ体験や水産会社での加工体験などが挙げられる（ミカン農家との連携によるみかん狩り体験も）。将来的には拠点施設にBBQサイトを設け、食体験にも結びつける。
	7	手作り水族館などの体験コーナーの検討 「食べる」「買う」といった機能だけでなく、水族館などの「体験」コーナーも設置する。
暮らす、遊ぶ、歩く 空き家・空き地を活用した「ミナト暮らし」の実践	8 重	空き地の公園「ちびっこパーク」の整備 湊地区の空き地を活用して、子どもの遊び場をつくる（子どもからお年寄りまで幅広い利用を目指す）。
	9 重	空き家の活用促進に関する研究会の立ち上げ 地域の空き家の情報収集と活用の相談、実践的な活用企画の立案と実践、移住希望者への発信、他地域での取り組み事例紹介など、空き家の活用促進に関する研究会を立ち上げる。
	10 重	空き家を活用したイベントの開催 空き家を活用して、歴史館や化石館、カフェ、子育てイベントなどを実践的に開催する。
	11	ウォークラリーやスタンプラリーの開催 小学生を対象とした街中ウォークラリーイベントや、祭りに合わせたスタンプラリーなど、回遊型のイベントを開催する。対象は生活者とし、地元のことを知るきっかけとする。
	12 重	商店街の景観づくり事業（観光客の利用可） 商店街に目を向けてもらうための仕掛けを行う。例えばベンチの設置や統一感のある販賣物の設置など。また分りやすい町とするべく、目印・看板・サインなどを設置したり、街中散策マップを制作したりする。
	13	レトロツーリズムの推進 商店街を中心にレトロな街並みを見たり発見したりするツーリズムを展開する。また浜城跡の活用も検討する。
	14	街の美化運動 街の美化運動を行う。道の清掃に加えて緑化活動も合わせて行う。
15	スポーツ大会の開催、雪まつりの復活 コミュニティ醸成のためにスポーツ大会（具体的にはモルック）を開催したり、雪まつりを復活させたりする。	
体験する、楽しむ 海山が近接するまち「湊」の再建	16 重	海のエリアのランドスケープデザイン ヨットハーバーを設置するなど海のエリアのあり方について（特に避難港としてのあり方も含めて）議論を深めデザインを提案する。また「海の駅」での活動内容について運営者とアイデアを深める。
	17 重	夕日映えスポットづくり 夕日が美しく見える観望場を探す。具体的には潮だまりの砂浜など。可能であればそこに人々が集めるようなイベントを開催する。
	18	潮だまりエリアの清掃活動と生き物観察 潮だまりエリアの清掃活動と生き物観察を行う。またスナビキソウやマメコシガニなど貴重な生き物の観察も行う（観光客と地域の方々の両者対象）。
	19	未利用魚の活用 イナなどの未利用魚の活用方法の検討。
	20 重	ブルーツーリズムやグリーンツーリズムの推進 漁業体験、潮だまりのエコトレッキング、ドック巡りなど、楽しいブルーツーリズムを展開する。また湊地区は海と里と山が近接しているため、里や山の体験も組み合わせるルートも開拓する（6番と関連）。
	21	第一次産業の後継者育成事業 農業や漁業などの第一次産業の担い手育成のための取り組み、あるいは海山山を活かした新しい事業を検討する。
つながる、発展する 湊地域内外との連携、その他	22 重	鹿野松原や丸山地区など周辺観光施設との連携 鹿野松原や丸山地区などとの共同イベントを企画し実施する。また広報でも連携を図る。
	23	SNSを用いた情報発信活動 湊地区独自のInstagramを立ち上げて魅力情報やイベント情報を発信する。
	24 重	生活者と観光客のルールづくり 生活者の迷惑にならないよう、観光客の振る舞いに対して啓発を行う看板などの制作。
	25	道路整備（側溝などの清掃を含む） 側溝をしっかりと清掃するなど街の衛生環境を高める。より発展的には道路の拡幅の可能性も検討する。
	26	防災イベント（防災訓練を含む）の実施 阪神淡路大震災から30周年を記念し、避難訓練など防災活動に取り組む。

※ 重：重点事業として優先的に取り組むこととされた事業（次年度に実際に取り組むべき事業）

湊地区まちづくり活動リスト

⑥ 体験農園のユニバーサル化に関する研究 — イタリアの社会的農業協同組合視察報告 —

豊田正博

委託者

本研究は、農林水産省農林水産政策研究所が行う令和6年度連携研究スキームによる研究（委託研究課題：我が国の持続的で多様な農業に関する研究）「都市・都市近郊における持続的で多様な農業の役割に関する研究」の一部である。千葉大学が研究中核機関として委託を受け、都市農業の役割共同研究コンソーシアムである本学の一部、再委託された。

研究目的

体験農園のユニバーサル化の要件や、民間、公営の体験農園に求められるユニバーサル化の違いを明らかにする。

研究方法

- 1) 調査期間：2024年4月～2025年3月
- 2) 調査対象：国内6カ所の体験農園、市民農園を視察。海外事例としてイタリアのエミリア・ロマーニャ州都ボローニャ周辺で、障害者と共に農業を行う社会的協同組合及びその本部、計10カ所と、市民農園1カ所を視察した。

本稿では、イタリアの社会的協同組合視察について報告する。

結果

1. 社会的協同組合とは

2つのタイプがあり、A型は社会的に不利な人々（障害が中等度から重度の人が多く）へ社会・健康サービス、教育サービス提供を目的として活動を実施する。B型は社会的に不利な立場の人たち（障害が軽度の人が多い）の労働参加を目的として活動する。

イタリアの社会的協同組合A型は、日本の就労継続支援B型に似ている。社会的協同組合B型は、日本の就労継続支援A型に似ているが、被雇用者が皆、障害者である日本のA型とは異なり、健常者も働き、就業する組合員の30%以

上の社会的弱者雇用が義務付けられていた。

2. 社会的協同組合における新たな雇用形態

社会的協同組合は、障害者雇用をこれ以上増やせない企業の要請を受けて、企業の代わりに障害者を雇用している。企業は、障害者を社会的協同組合に雇ってもらう代わりに、その障害者が行う仕事を依頼する。仕事は緑地管理が多かった。

障害者法定雇用率7%弱のイタリアでも（社会的弱者の定義が緩いので、法定雇用率も高くなっている点には留意が必要）、企業が障害者雇用の水準を維持するのに苦労していた。

こうした取組は、オートバイで有名なルカーティ、自動車メーカーのランボルギーニ社、フェラーリ社も実施。視察した社会的協同組合の一つであるCOPAPSにおいても、緑地管理を行う雇用障害者が急増していた。フィリップス・モーリス社から、緑地管理の仕事をもらい、同社に代わって障害者を雇っていた（雇用された障害者は、フィリップス・モーリス社の障害者雇用率に反映される）ことがその理由である。

3. 農業を通じた障害者の作業適性のとらえ方

障害者が農作業を行う際には、各障害者の作業能力が提供される農作業の難易度に合っていることが大切である。日本の農福連携では、農林水産省が農福連携技術支援者育成研修の中で全国的に淡路式農作業分析表（豊田ら、2016）の普及を図っている。

昨年視察したオランダのケア・ファーム、今年度視察したイタリアの社会的協同組合のいずれも、客観的な作業分析を用いて作業能力に合った作業を割り当てることはせず、農場で多様な作業を用意して適性を見極めていた。この点では、日本の農作業割り当てのしくみの方が、ミスマッチングが減り合理的な面もあると考えられた。

IV 一年のあゆみ



1 淡路景観園芸学校入講式

令和6年4月4日（木）多目的ホールにて、景観園芸専門課程（緑環境景観マネジメント研究科）20名、園芸療法課程全寮制2名、同課程通学制9名、まちづくりガーデナー本科コース24名、まちづくりガーデナーマスターコース19名の全国から年齢や経歴も様々な74名が入講した。



式典では柴田校長が、現在、私たちをとりまく環境は、大規模な気候変動や自然災害の多発に加え、少子化による人手不足や円安物価高騰などにより不安定化が進み、先行きが不透明な状況となっているが、こういった時こそ、人と自然の共生の英知に触れ、それを社会で実現できる人材が必要となる旨を述べた。

続いて、服部副知事及び来賓の太田県議員から祝辞をいただいた。

そして、新入生が一人ずつ紹介された後、代表して荒川亮さんが入講生を代表して抱負を語った。それを受けて、在校生を代表して駒ヶ嶺光さんが歓迎の言葉を述べた。



2 淡路景観園芸学校修了式

令和6年度兵庫県立淡路景観園芸学校修了式は令和7年3月10日(月)、学外から来賓をお招きし、在校生、ご家族の参加者とともに、多目的ホールにて行った。

本年度は、緑環境景観マネジメント研究科15期生16名、園芸療法課程通学制12期生11名が晴れて修了を迎えた。

柴田学長からの式辞とともに、緑環境景観マネジメント研究科15期生には「兵庫県景観園芸士認定証」と「学位記」、園芸療法課程通学制12期生には「修了証書」と「兵庫県園芸療法士認定証」が授与された。

続いて在校生を代表して緑環境景観マネジメント研究科16期生佐藤里香さんが修了生に向けて感謝と激励の送辞を述べた。

その後、緑環境景観マネジメント研究科15期生の畑田菜緒さん、園芸療法課程通学制12期生の山崎みどりさんが学生生活の思い出、これまでの感謝、新生活の決意、後輩へのエールを答辞として述べた。

天候に恵まれ、屋外での記念撮影の後、下級生の有志による修了生を送る会が和やかに行われ、行われ、新しい生活に向けて羽ばたいていった。



3 淡路景観園芸学校祭(ALPHA祭 2024)

第 24 回目を迎える淡路景観園芸学校祭「ALPHA祭2024」が11月2日(土)に開催された。

今回のテーマは「めぐると～淡路の魅力をふれる～」。緑環境景観マネジメント研究科16期生が中心となり実行委員会を組織し、企画・運営を行った。

「地域に根ざし、地域の人とつながる」をコンセプトに、学内のみならず、淡路島内の地域の人々とのつながりを再確認し、地域のモノ・ヒトを中心に盛り上げていく様々な出店・イベントを企画した。



当日は稀に見る悪天候に見舞われ、例年通りの開催とはいかなかったものの、前年を上回る数の出展があり、多くの方々に支えられて「ALPHA祭2024」は大いに盛り上がった。



屋外で行う予定だった出展やイベントを校舎と多目的ホール内に集約したことで、来場者や出展者同士の交流が自然と生まれた。

そのような温かい空気に包まれた会場では、クラフトラリーや淡路高校吹奏楽部によるステージ演奏が行われ、多くの参加者が楽しむ姿が見られた。



今年度は荒天の影響で、来場者数は前年より減少したものの、学校関係者だけでなく、地域の人々との交流を深める貴重な機会となった。淡路島の魅力を再発見し、学校と地域とのつながりを実感できるイベントとなった。



4 NPO法人 アルファグリーンネットの一年（2024年度）

アルファグリーンネットの沿革

NPO法人アルファグリーンネット(略称AGN)は、兵庫県立淡路景観園芸学校の生涯学習課程の修了生を中心に、各地域で花と緑のまちづくり活動を行うことを目的として2000年（平成12年）3月に結成されました。

2001年10月、特定非営利活動促進法による知事認証を受けてNPO法人となり、2025年3月末で284名の会員を擁しています。会員は県内外に広がり、生涯学習で学んだ知識を活かしアルファガーデンや各地域で活動を行っています。

AGNは会員の知識技術の向上を目指し、公立図書館や民間企業との連携による活動推進など、様々な展開をしています。

総会を5月に行いました。役員は10名の理事と2名の監事から構成され、総務、会計、事業、企画、広報を分担し担当しました。

2. 2024年度のAGNの活動

(1) キャンパス公開事業

① アルファガーデン案内事業

学校の委託を受け、学校を訪れた方々にアルファメイトが学校を紹介すると共に美しい景観のアルファガーデンを案内する活動を行っています。

アルファメイト（25名）は、毎週土日祝に案内業務を行っており、更に団体の来園時には、曜日問わず上記に加え団体対応班を設けて案内活動を行えるようにしています。年2回アルファメイト研修会を開催し、案内知識と技術の向上に努めています。本年度はインストラクターの先生によるアルファガーデン内の見所と案内ポイントについて学びました。

② 園芸体験教室の開催

年間11回、学校内外で開催し、学校、アルファガーデン、AGNの魅力も伝えています。淡路市立東浦図書館、津名図書館との共催、舞子海上プロムナード、花と緑のまちづくりセンター、垂水図書館での開催な

どを行い参加者は年間262名でした。



(2) その他の受託・依頼事業

① 黒谷モニタリングサイト1000

環境省・重要生態系監視地域モニタリング推進事業(里地里山事業)を(公財)日本自然保護協会から委託され、植物相調査を、淡路市黒谷で地元のAGN会員の方々を中心に毎月1回藤原先生、澤田先生、大学院生などの協力で行っています。



② ひょうごまちなみガーデンショー

毎年9月、兵庫県立明石公園で開催される「ひょうごまちなみガーデンショー in 明石」におけるデモンストラーションガーデンをまちづくりガーデナー本科コース修了生が制作し(25期生)作品は高い評価を得ました。

各種コンテストでも多数のAGN会員が入賞しています。



③ DW ファイバーによる菜園システム の植栽、管理

昨年に引き続き、大建工業のオリジナル資材 DW ファイバーを使用し、オリジナルレイズドベットへの植栽、管理を行いました。月、木曜日の水やりと雨のみで育て、月に 1 回報告書を大建工業に提出しました。



④ あわじ緑化スタイル推進業務を受託

寄せ植え体験教室、たねダンゴ体験教室、あわじオープンガーデン講習会を行いました。

(3) 地域活動 (キャラバン)

地域で活動する会員との交流支援、学習を目的として先生と発表者、AGN が各地域へ赴く「キャラバン」を年 4 回実施し、淡路(6 月・藤田先生)、阪神(11 月・平田先生)、神戸(1 月・蛭田先生)、東播磨(2 月・新保先生)の 4 回開催しました。キャラバンには、AGN 会員以外の

地域の方々も参加し、学校の紹介や生涯学習課程への受講、AGN への入会のきっかけとなっています。



(4) アルファ祭 (学園祭)

アルファ祭が大学院生実行委員会との共催で 11 月 2 日に開催されました。荒天による開催時間の短縮がありましたが、180 名余りの来場者がありました。



(5) その他の会員向け活動など

① 学内ボランティアグループ

アルファガーデン美化クラブ、アルファヒーリングガーデンクラブ、ガーデンメイト、ペレニアルガーデン、などのグループが学内で活動し、アルファガーデンの美化に貢献していましたが、アルファガーデン美化クラブは諸事情により活動を終了しました。昨年に続き、くにうみ協会の助成金で花街道づくり事業を、樋上先生のご指導のもとペレニアルガーデンが実施しました。



② AGN ニュースの発行

会員に向けて学内の様子やボランティア活動の様子、先生方や大学院生の研究、会員の受賞記事などを年 6 回奇数月に発行しました。

③ 研修旅行

AGN 研修旅行として竹中大工道具館、布引ハーブ園で実施(10 月 24



日)。それぞれのガイドによる施設案内でより深い知識を得ました。

④ アルファフレンズメーリングリスト

学校や AGN、会員からの各種情報提供の手段として活用し、今年度も多数 AGN 事務局から花や緑と、まちづくりに関する情報を発信しました。

⑤ 学校での講義・案内

9 月に本科コース 26 期生、1 月に園芸療法課程(通学制 13 期生)にボランティア活動、AGN の活動紹介を行いました。

5 客員教員の招聘

白川勝信先生

藤原道郎

登別市観光交流センター ヌプル副センター長・学芸員（就任時 広島県北広島町立 芸北 高原の自然館 主任学芸員）の白川勝信（しらかわかつのぶ）先生を客員教員として招聘し、兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科の特任教授として「森林資源循環による生物多様性保全と地域の魅力化」を担当していただいている。8月に広島県北広島町での森林資源の循環の現場での解説を受け、11月に淡路島にどのように循環の仕組みを応用できるのか考察を行うもので、現場に則った授業をしていただいている。専門職大学院としてとても有意義な授業となっている。

ご専門は植物生態学で、主な活動として以下があげられる。湿原、半自然草原、里山林など、地域の人間活動によって維持されていた生態系の保全をテーマに博物館活動を展開している。特に広島県芸北地域で、森林や半自然草原の資源を地域内で循環させる「芸北せどやま再生プロジェクト」や「芸北茅プロジェクト」による地域の景観保全や環境保全（生物多様性保全）に取り組んでいる。また、北広島町の「生物多様性きたひろ戦略」の策定に取り組み、生物多様性保全を基盤とした地域づくりに貢献している。子ども、事業者、行政、ボランティアなど、様々な主体による自然への関わり方を見直し、新たな仕組みを組み込みながら、地域と自然を将来に残していく道を目指し活動を続けている。2017年に第1回 ジャパン アウトドアリーダーズ アワード 大賞受賞。



学と地域をつなぐ社会活動に尽力され、日本生態学会和文誌編集委員、生態系管理専門委員、NPO法人 ochibo 代表理事、NPO法人西中国山地自然史研究会 専門員、一般社団法人全国草原再生ネットワーク 理事などで活動。



白川勝信先生



北広島町立 芸北 高原の自然館



森林資源循環の拠点(せどやま市場)での解説

ブナ林(苅尾山)の観察

6 客員研究員の受け入れ

(1) 坂本 真理子 氏

研究課題「阿南市生物多様性地域戦略および生物多様性ホットスポットに関する研究」として、小規模基礎自治体における生物多様性地域戦略の策定に至る過程と地域住民の関りに関する研究を実施した。阿南市生物多様性地域戦略は、阿南高専との連携事業の中で策定、推進されており、阿南高専を拠点とする、行政と地域、専門家を「つなぐ機能」が継続していることが特徴である。地域や専門家からの生物多様性に関する情報が阿南高専へ集約され、その「やりとり」の中で新たな生物多様性ホットスポットも生まれつつある。研究活動は、阿南市—阿南高専連携事業「生物多様性保全活用事業」支援、令和6年度生物多様性とくしま戦略推進サポート、科研「自然体験をベースとした生態系教育とトータル・ランドスケープに関する学際的研究」におけるワークショップ等の社会実装につながる実務に活かされた。これらの実務への広がりや、阿南高専における戦略推進の実務の中での情報やネットワークの蓄積から波及されたものである。これらのことから、生物多様性地域戦略の策定、推進における、継続的な「つなぐ機能」、「やりとり」にみられる協働コーディネイト機能の重要性が示唆された。

(2) 橘 俊光 氏

研究課題：都市公園リノベーション事業の構造に関する研究

橘氏（(株)空間創研 執行役員）は、科研費プロジェクト「管理運営の成果を活かしたリノベ計画技術体系化のための関係業務実態分析とその構図化」（代表：平田富士男）を共同して進めるべく客員研究員として迎えられた。2024年度は、前年度に刊行した研究成果をまとめた図書「生まれ変わる公園」をテキストとして、日本造園学会全国大会でのミニフォーラム運営や講習会などの講師を担当した。

(3) 横田 優子 氏

園芸療法課程修了後、2010年より園芸療法課程非常勤講師として科目「植物利用」「園芸療法実習Ⅱ・Ⅲ」で学生を指導。人間・植物関係学会、日本園芸療法学会2024年度合同大会で「淡路式創造活動分析表による園芸療法における創造活動の難易度評価」を口頭発表。「高層マンションにおける室内植物の冬季生育環境—居住者の生活と室内植物の生育に適した光強度の違い—」（人間・植物関係学会雑誌. 2024）を共著。

V 教員個人活動記録



活動報告

◆樋上 啓子

景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観
マネジメント研究科 講師)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・フィールド植物観察演習 I (1 年, 前期, 分担)
- ・植物管理技術演習(1年, 通年, 分担)
- ・ガーデンデザイン演習(1年, 通年, 分担)
- ・生活空間デザイン演習(1年, 前期, 分担)
- ・園芸植物活用演習後期(1 年, 後期, 分担)
- ・反復型インターンシップ(1年,通年, 分担)
- ・景観マネジメント概論企画演習(1 年,後期,分担)

1.2 その他の担当教育科目

- ・兵庫県立大学全学共通教育科目「緑景観マネジメント論」(分担)
- ・「緑環境景観論」(分担)
- ・生涯学習コース, 花と緑のまちづくりガーデナー・本科コース「花壇づくりと管理①～⑥」
- ・生涯学習コース, 花と緑のまちづくりガーデナー・マスターコース「花壇づくりのガイダンス」「花壇づくりと管理①～⑦」, 「花と緑の先進地見学①～②」
- ・園芸療法課程「花壇のデザイン」

1.3 その他の学生指導、学内行事指導

(研究指導、進路指導)
・研究科学生指導 2 名の学生を共同で指導

(出展指導)

- ・ひょうごまちなみガーデンショー in 明石出展指導(2024.9.22～29)
- ・淡路花祭り 2024 高校生花とみどりのガーデン出展指導, (2024.10.5～11.10)

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等

- (口頭発表・ポスター発表)
- ・樋上啓子・山本聡・札埜高志(2024)アオノリュウゼツランの開花時期の形態の違いによる評価の違い.人間・植物関係学会雑誌 第 24 巻別冊, 64
- ・札埜高志・岡田淳史・木村保・中瀬浩太・前田泰芳・樋上啓子・大藪崇司(2024)食品リサイクル堆肥混合培養土がビオラの成長と開花に及ぼす影響, 園芸学研究別冊 23 巻別冊 2, 165

3. 学内委員会などの活動

- (景観園芸学校)
- ・運営会議委員
- ・教務委員会委員
- ・将来計画会議委員
- ・広報委員会委員
- ・環境保全委員会委員
- ・淡路景観園芸学校フィールド会議委員
- ・園芸療法プロジェクト会議委員(研究科)

- ・教務委員会委員
- ・研究倫理委員会委員

4. 社会活動

(委員会など)

- ・明石市指定管理者候補者選定委員会委員(2024.7～2024.11)明石市
- ・「2024 ガーデンコンペひょうご」単鉢部門審査委員(2024.9.22)(公財)兵庫県園芸・公園協会
- ・「ガーデナーステップアップ講座」講師(2024.10.22)(公財)神戸市公園緑化協会
- ・「花で描く!花壇デザインコンテスト(2025.2.7)」明石海峡公園管理センター
- ・AGN ボランティアグループ「ペレニアルクラブ」指導(2024.4～)

6. 学会活動など

(所属学会)

- ・日本造園学会(1990～)
- ・人間・植物関係学会(2017～)
- ・日本蘚苔類学会(2018～)
- (所属団体)
- ・公益社団法人日本植物園協会(個人 2017～)
- ・日本樹木医会(2005～)
- ・公園管理運営士会(2008～)
- ・自然再生士会(2014～)
- ・ユリ協会(2010～)
- ・東アジア野生植物研究会(1995～)
- ・全国女性造園技術者の会(1996～)
- ・こうべ六甲山私有林研究会(2020

～)

◆札埜 高志

主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観
マネジメント研究科 准教授)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・フィールド植物観察演習 I(1 年前期, 主任)
- ・植物管理技術演習(1 年通年, 主任)
- ・SDGs 実現のための園芸植物の活用(1 年後期, 主任)
- ・園芸植物活用演習(1 年後期, 主任)
- ・ガーデンデザイン演習(1 年通年, 分担)
- ・反復型インターンシップ(1 年通年, 分担)
- ・緑環境景観マネジメント企画演習 I(前期)(1 年前期, 分担)
- ・活用デザイン実践演習(2 年通年, 分担)

1.2 園芸療法課程担当科目

- ・園芸と環境(通年, 分担)

1.3 その他の担当教育科目

- ・花と緑のまちづくりガーデナー本科コース(通年, 分担)
- ・花と緑のまちづくりガーデナーマスターコース(通年, 分担)
- ・花と緑のまちづくりガーデナーテーマコース・ひょうご在来作物の栽培(春夏期)(前期, 主任)
- ・花と緑のまちづくりガーデナーテーマコース・ひょうご在来作物の栽培

春夏)(前期, 主任)

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等

(口頭発表・ポスター発表)

- ・加藤真司・横田樹広・平田富士男・札埜高志. 2024. 農業経験のない市民による稲作の実現条件の把握(中間発表)～市民モニターによる実証実験報告～. 第 55 回日本緑化学会大会研究交流発表会 日本緑化学会誌 第 50 巻第 1 号: 25.

- ・札埜高志・岡田淳史・木村保・中瀬浩太・前田泰芳・大藪崇司. 2024. 食品リサイクル堆肥の施用および吸水性泥土改良材の添加がピオラの成長と開花に及ぼす影響. 園芸学研究 23(別冊 2): 501. (査読等)

- ・人間・植物関係学会雑誌 1 報

(他学部大学出講)

- ・緑景観マネジメント論(兵庫県立大学, 前期, 分担)
- ・緑環境景観論(兵庫県立大学, 前期集中, 分担)
- ・花卉園芸学(吉備国際大学, 前期集中, 主任)
- (その他)

- ・人間・植物関係学会雑誌ニューズレターNo.37.編集責任者

3. その他の研究

(受託を受けた研究)

- ・受託研究, 食品リサイクル堆肥高付加価値化に関する実験的研究, 分担

4. 学内委員会などの活動

(研究科)

- ・地域創造推進会議
- ・生涯学習推進会議(園芸学校)
- ・園芸療法課程プロジェクト会議
- ・国際化推進
- ・教務委員会
- ・生涯学習委員会
- ・学生生活支援委員会

5. 社会活動

(講演等その他)

- ・神戸市シルバーカレッジ総合芸術コース園芸専攻講座「植物のふやし方」, 講師(2024.6.24 神戸市シルバーカレッジ)

- ・阪神シニアカレッジ園芸学科「園芸と健康」, 講師(2024.9.9 宝塚市 阪神シニアカレッジ)

<<https://magazine.cainz.com/article/21640>>

6. 学会活動など

(所属学会)

- ・園芸学会
- ・国際園芸学会
- ・日本生物環境工学会
- ・人間・植物関係学会
- ・農業生産技術管理学会(学会各種役職)
- ・人間・植物関係学会理事
- ・農業生産技術管理学会評議員
- ・園芸学会 JABEE 審査員候補者

◆豊田 正博

主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・緑環境景観マネジメント概論(分担)
- ・緑環境景観マネジメント企画演習II(分担)
- ・園芸植物活用演習(分担)

1.2 園芸療法課程担当科目

- ・ガイダンス講義(前期, 主任)
 - ・みどりと健康(通年, 主任)
 - ・園芸療法のための医療・医学(通年)
 - ・園芸と環境(通年, 主任)
 - ・対象理解とみどりの活用(通年)
 - ・ガーデニング(通年)
 - ・園芸療法研究法(通年)
 - ・園芸療法演習(後期, 主任)
 - ・マーケティングとマネジメント(後期, 主任)
 - ・園芸療法実習I全寮制(通年, 主任)
 - ・園芸療法実習I通学制(通年, 主任)
 - ・園芸療法実習II全寮制(通年, 主任)
 - ・園芸療法実習II通学制(通年, 主任)
 - ・園芸療法実習III全寮制(通年, 主任)
 - ・園芸療法実習III通学制(通年, 主任)
- (園芸療法実習報告会)
- ・通学制園芸療法実習II報告会.2024.6.9.
 - ・全寮制園芸療法実習II報告会.2024.7.28.
 - ・全寮制/通学制園芸療法実習III報

1.3 その他の担当教育科目

- ・兵庫県立大学「緑景観マネジメント論」(分担)
- ・花とみどりのまちづくりガーデナー本科コース 講師(園芸療法入門)
- ・花とみどりのまちづくりガーデナーマスターコース 講師(園芸福祉)
- ・花とみどりのまちづくりガーデナーテーマコース 講師 緑を用いたストレスケア 2024.8.25, 9.21.

1.4 他学部大学出講

- ・明治大学農学部兼任講師.「景観園芸学」. 2024.9.2.-9.5.
- ・千葉大学講師.「農業と福祉の連携を考える」.2024.12.7.

1.5 国際交流

- ・中原大学(台湾)地景建築系教員(1名)・学生(10名)研修受入.日本の園芸療法解説.2024.7.24.

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書など(著書)

- ・豊田正博. 農福連携において農作業がもたらす効果. 発達障害白書 2025年版.p136-137. 榊明石書店. 東京.
- ・豊田正博. 農林水産省 農福連携技術支援者育成研修テキスト Ver.5. 農作業の一般的な特徴.p89-98. 農作業における作業の分解・作業割当て・分析.p137-158. (論文)原著論文等 査読あり
- ・豊田正博・菊川裕幸・剣持卓也・横田優子・森晴美. 高層マンションにおける室内植物の冬季生育環境

- ・中本英里・菊川裕幸・豊田正博・吉田行郷.

オランダにおけるケア・ファームの2つの方向性と日本におけるユニバーサル農園の今後の展開. 職業リハビリテーション 38(2) 25-32. 2025.

(論文)実践報告 査読なし

- ・豊田正博・剣持卓也・金子みどり・荻野あさひ・森晴美・横田優子. 園芸療法実習指導に用いる園芸療法計画チェックリスト.日本園芸療法学会誌.17:41-45.

- ・尾崎敏枝・豊田正博. 園芸療法が高齢者の行動・心理症状(BPSD)の軽減と認知症薬の投与中止につながった一例. 日本園芸療法学会誌.17:33-36.

2.2 学会発表等

【国内】

(口頭発表)

- ・豊田正博・横田優子. スマート農機・農業機械操作等の高難度作業や重度障害者の農作業参加に対応した淡路式農作業分析表の改良. 人間・植物関係学会, 日本園芸療法学会 2024 年度合同大会, 学会発表要旨集. 32-33. 2024.11.10. 神戸学院大学. 神戸市.
- ・横田優子・豊田正博. 淡路式創造活動分析表による園芸療法における創造活動の難易度評価. 人間・植物関係学会, 日本園芸療法学会 2024 年度合同大会, 学会発

表要旨集. 34-35. 2024.11.10.神戸学院大学.神戸市.

- ・大塚文恵・坂東かよ・豊田正博・剣持卓也.認知症が進み再評価が必要となったデイサービス利用者に対する園芸療法. 人間・植物関係学会, 日本園芸療法学会 2024 年度合同大会, 学会発表要旨集. 24-25. 2024.11.10.神戸学院大学.神戸市.(優秀発表賞)
- ・阿加井萌・豊田正博・剣持卓也. デイケア利用者や職員との交流による精神的安定と意欲の向上を目的とした 89 歳女性に対する園芸療法. 人間・植物関係学会, 日本園芸療法学会 2024 年度合同大会, 学会発表要旨集. 36-37. 2024.11.10.神戸学院大学.神戸市.
- ・科学研究費助成事業(基盤研究 B)「農福連携の発展過程可視化と方向性解明に関する研究」マッピングから見えてきた日本の農福連携～農福連携の発展過程可視化と方向性解明に関する研究の報告会～・パネリスト「園芸療法学からのアプローチ」. 2024.12.21.神戸学院大学.兵庫県神戸市.

3. その他の研究

- ・2024 年度 科学研究費基盤研究 (B)「農福連携の発展過程可視化と方向性解明に関する研究」(研究分担者).
- ・農林水産省 農林水産政策研究所 令和6年度連携研究スキームによる研究(委託研究課題)「我が国の持続的で多様な農業に関する研

究」(研究分担者)
.2024.4.1-2025.2.29.

(受託研究)

- ・豊田正博・剣持卓也. 学習塾等における鉢物類効用調査.全国鉢物類振興プロジェクト協議会. 2024.6.1-2025.2.28.

4. 学内委員会などの活動

(淡路景観園芸学校)

- ・国際交流委員会委員長
- ・教務委員会
- ・生涯学習委員会

5. 社会活動

(兵庫県立大学)

- ・淡路緑景観キャンパス保健センター長

6. 社会活動

(委員等)

- ・農林水産省令和6年度持続的生産強化対策事業>次世代国産花き産業確立推進事業>全国鉢物類振興プロジェクト協議会 鉢物類効用検討委員会委員(2024.6.1.～2025.3.31.)
- ・兵庫県農福連携支援アドバイザー(2016.11.～2025.3.31.)
- ・公益社団法人日本フィランソピコ協会「農福連携による共生社会創造事業 -農業を器とした就労困難者の居場所と出番づくり」アドバイザー.2024.4.1.～2025.3.31.(学術資料提供)
- ・阪神農林振興事務所ひょうご都市農業支援センター主催「農福連携」企画展へ農福連携に関する資

料提供(A1 判 パネル7枚).ひょうご都市農業支援センター.伊丹市. 展示期間:2024.9月～11月.

(国内講演・講師)

1) 農福連携

(1) 農林水産省

- ・農林水産省農林水産研修所主催 農福連携技術支援者育成研修講師.「農作業における作業細分化・難易度評価・作業割当の技法」農林水産研修所つくば館水戸圃場.水戸市.1回目 2024.7.9,10.; 2回目 9.10,11.
- ・令和6年度農林水産省農山漁村振興交付金 農福連携対策普及啓発等推進事業. 農福連携支援者の集いパネリスト「スマート農業視察から見た障害者支援の可能性」.東京農業大学.2024.8.30.

(2) 兵庫県

- ・農林水産省近畿農政局主催農福連携交流会.ファシリテーター.小野市うるおい交流館.兵庫県.2024.5.21.
- ・兵庫県福祉部ユニバーサル推進課主催.農福連携プラス推進モデル事業. 農福連携フォーラム.小野市うるおい交流館.兵庫県.2025.3.19.

(3) 他県

- ・千葉大学環境健康フィールド科学センター「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム」千葉大学環境健康フィールド科学センター.柏市.(実践コース)「農作業分析と障害への支援」講義・演習. 2024.6.8.
- ・長崎県大村市主催農福連携講

演会講師。「農園芸の健康効果と農福連携」,プラザおおむら.2024.10.5.

・鳥取県農林水産部主催 農林水産省認定令和6年度農福連携技術支援者育成研修。「農作業における作業細分化・難易度評価・作業割当の技法」鳥取県立農業大学校.倉吉市. 2024.10.30,31.

・石川県農林水産部主催 農林水産省認定農福連携技術支援者育成研修。「農作業における作業細分化・難易度評価・作業割当の技法」石川県農林総合研修センター.金沢市. 2024.11.23,24.

・岡山県農林水産部主催 農林水産省認定農福連携技術支援者育成研修。「農作業における作業細分化・難易度評価・作業割当の技法」三徳園.岡山市.2024.12.9,10.

・第65回産業精神衛生研究会教育講演講師。「農福連携から生まれる健康効果と職場のメンタルヘルスへの応用可能性」.東京大学医学図書館.東京都.2025.2.8.

2) 園芸療法関連

・(一社)日本ハンギングバスケット協会主催会員向け講習会講師。「バイオフィリアと植物・園芸の癒し」.Web 開催.2024.6.29.

・(一社)日本認知症予防学会主催米子研修会 認知症予防専門士新規コース実践セミナー講師「園芸療法入門」.2024.7.21.

・(公社)日本フラワーデザイナー協会兵庫県支部主催会員向け講習会講師。「バイオフィリアと植物・

園芸の癒し」.淡路景観園芸学校.淡路市.2024.10.19.

・淡路労働基準協会主催 淡路地区年末労働災害防止大会講演講師「園芸療法でこころ回復ーストレスや集中力を回復させるみどりのちからー」. 洲本市市民交流センター.兵庫県 2024.12.13.

7. 学会活動など

(所属学会)

・人間・植物関係学会(2003～)

・日本園芸療法学会(2008～)

・日本認知症予防学会(2013～)

(学会各種役職)

・日本園芸療法学会理事(2008～)

・日本認知症予防学会評議員(2019～)

◆ 剣持 卓也

景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 講師)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

・緑環境景観マネジメント企画演習Ⅱ(1年,後期,分担)

1.2 園芸療法課程担当科目

・ガイダンス講義(前期,分担)

・園芸療法のための医療・医学(通年,主任)

・対象理解とみどりの活用(前期,主任)

・園芸療法研究法(通年,主任)

・ガーデニング(通年,分担)

・園芸療法演習(通年,分担)

・園芸療法実習Ⅰ全寮制(通年,分担)

・園芸療法実習Ⅱ全寮制(通年,分担)

・園芸療法実習Ⅱ通学制(通年,分担)

・園芸療法実習Ⅲ全寮制(通年,分担)

・園芸療法実習Ⅲ通学制(通年,分担)

(園芸療法実習報告会)

・通学制園芸療法実習Ⅱ報告会.2024.6.9

・全寮制園芸療法実習Ⅱ報告会.2024.7.28

・全寮制/通学制園芸療法実習Ⅲ報告会.2025.1.13

1.3 その他の担当科目

・兵庫県立大学「緑景観マネジメント」(分担)

・花と緑のまちづくりガーデナー本科コース「園芸療法の入門」

・花と緑のまちづくりガーデナーマスターコース「園芸福祉を深める」

1.4 他学部大学出講

・関西女子短期大学非常勤講師「バイオセラピー」2024.7.3

・名張市立看護専門学校非常勤講師

「生活環境(園芸療法)」

名張市.2024.10.9-10

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等

(論文)

・剣持卓也・佐々木麻衣・庄田香澄. COVID-19 流行下における医療・福祉施設に付随する庭の

利活用の状況および庭の利用者に与えた影響. 景観園芸研究. 2025.3.

- ・豊田正博・菊川裕幸・劔持卓也・横田優子・森晴美. 高層マンションにおける室内植物の冬季生育環境—居住者の生活と室内植物の生育に適した光強度の違い—. 人間・植物関係学会雑誌. 2025.3.
- ・山里津子・劔持卓也. インクルーシブ保育を实践する保育園における集団園芸療法の試み. 日本園芸療法学会雑誌. 2024.6.
- ・山本まりこ・相羽真愛・中村颯希・本田恵梨奈・山内陽茉莉・大西哲平・劔持卓也・榊原安昭・須山雅仁・陳香純・リングホーフアー萌奈美. 医療秘書学科専門科目「バイオセラピー」での演習による学生の癒し体験とその効果についての検討. 関西女子短期大学紀要. 2024.12.

(報告書)

- ・豊田正博・劔持卓也. 図書館におけるネイチャーブレイクモニター調査 垂直式水耕栽培が高齢者施設利用者のフレイル予防に与える影響.2025.3.

(査読等)

- ・日本園芸療法学会査読 1 件

2.2 学会発表

(口頭発表)

- ・劔持卓也. 地域共生をコンセプトとして医療・福祉施設に造成した庭とその活用. 2024 年度日本造園学会全国大会. 名古屋市.
- ・射延菜穂美・金子みどり・劔持卓

也・豊田正博. 植物を介した関わりにより疼痛を忘れる時間を過ごすことができた緩和ケア病棟入院患者の一事例. 第 31 回日本ホスピス・在宅ケア研究会 全国大会 in 淡路島. 淡路市.

- ・大塚文恵・坂東かよ・豊田正博・劔持卓也. 認知症が進み再評価が必要となったデイサービス利用者に対する園芸療法. 人間・植物関係学会, 日本園芸療法学会 2024 年度合同大会. 神戸市.
- ・阿加井萌・豊田正博・劔持卓也. デイケア利用者や職員との交流による精神的安定と意欲の向上を目的とした 89 歳女性に対する園芸療法. 人間・植物関係学会, 日本園芸療法学会 2024 年度合同大会. 神戸市.

3. その他の研究

(外部資金の獲得)

- ・科研費 若手研究「高齢者福祉施設の庭を活用したケアリングコミュニティ形成プロセスの解明」(2024～2026 年度, 研究代表者).

(受託研究)

- ・豊田正博・劔持卓也. 学習塾等を対象とした鉢物類効用調査. 全国鉢物類振興プロジェクト協議会. 2024.6.1-2025.3.17.

4. 学内委員会などの活動

(兵庫県立大学)

- ・SDGs 推進委員会
- (淡路景観園芸学校)
- ・園芸療法課程プロジェクト会議

- ・入試委員会
- ・予算委員会
- ・研究倫理委員会
- ・図書委員会
- ・学校報・紀要編集委員会
- ・国際交流推進委員会

5. 社会活動

(講演・講師)

- ・兵庫県いなみ野学園主催 大学院講座「花と緑が生み出す新しいつながり～園芸療法・地域での活用について～」兵庫県いなみ野学園.加古川市.2024.10.1.
- ・国営明石海峡公園主催 令和6年度園芸療法講座「園芸療法士と作る野菜スタンプのアート絵画」国営明石海峡公園. 淡路市.2024.10.19.
- ・第 31 回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 淡路島 教育講演「残された日々のかたわらに植物が在ること」淡路夢舞台国際会議場.淡路市.2024.10.27
- ・大阪市建設局公園緑化部主催 大阪市グリーンコーディネーター育成研究会「心にやさしい緑づくり～地域に活かす園芸活動、園芸療法の効果～」長居公園.大阪市.2024.11.6.
- ・神戸市シルバーカレッジ主催 健康ライフコース「健康づくりに活かす植物・園芸の効果」神戸市シルバーカレッジ.神戸市.2025.1.30.
- ・兵庫県こころのケアセンター主催 令和6年度ヒューマンケアカレッジアートとこころのケア講座「花とみどりでこころを癒す園芸療法 ～予

防的利用から地域での活用まで
～」兵庫県こころのケアセンター。
神戸市.2025.2.15.

・神戸市シルバーカレッジ主催 総合芸術コース園芸専攻「健康づくりに活かす植物・園芸の効果」神戸市シルバーカレッジ.神戸市.2025.2.28.

・淡路景観園芸学校主催 ランドスケープの最新潮流セミナー One Health と園芸療法「園芸療法教育のこれから 園芸療法のさらなる社会活用に向けて」神戸国際会館.神戸市.2025.3.15.

・公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会主催 「花と緑のまちづくりセンター 令和6年度 園芸教室親子で楽しむ植物の魅力 ～園芸療法のお話とワークショップ～」明石公園.明石市.2025.3.20..

6. 学会活動など

(所属学会)

- ・人間・植物関係学会(2005～)
- ・日本園芸療法学会(2008～)
- ・日本芸術療法学会(2014～)
- ・日本認知症予防学会(2022～)
- ・日本造園学会(2023～)

(所属団体)

- ・NPO 法人園芸療法と歩む会
- ・NPO 法人日本園芸療法研修会(学会各種役職)
- ・日本園芸療法学会理事(2023～)
教育システム委員(2022～)
ホームページ委員(2024～)
- ・NPO 法人園芸療法と歩む会監事(2022～)
- ・人間・植物関係学会・園芸療法学

会合同大会実行委員会委員
(2024.1～2024.11)

◆森 晴美

土木業務技術員

1. 教育活動

1.1 園芸療法課程担当科目

- ・ガイダンス(通学制前期・分担)
- ・ガーデニング(全/通学制・通年・分担)
- ・対象理解とみどりの活用(通学制前期・分担)
- ・園芸療法演習(全/通共通・通年・分担)
- ・園芸療法実習Ⅰ(通学制通年・分担)
- ・園芸療法実習Ⅱ(全/通学制共通・通年・分担)
- ・園芸療法実習Ⅲ(通学制・通年・分担)

1.2 その他の担当教育科目

- ・生涯学習課程本科コース「園芸福祉に使える材料集めと小物づくり」

2. 学内委員会などの活動

- ・広報委員会

3. 社会活動

(講演などその他)

- ・神戸海星女子学院大学現代人間学部心理こども学科(神戸市灘区)非常勤講師
「幼児教育指導法」
「幼児教育学原理」
「演習Ⅲ」
「演習Ⅳ」
「卒業研究(集中)」

「保育内容の研究(言葉)」

「保育内容の研究(表現/造形表現)」

・神戸海星女子学院大学子育て広場 保護者対象草花を利用した癒し講座(ワックスサシェ作り)(神戸市灘区)

・社会福祉法人神戸明輪会魚崎デイサービス(重症心身障害者生活介護事業所)(神戸市東灘区)園芸療法的活動毎月実施

・社会福祉法人ぶどうの枝福祉会神戸市立ケアハウス松寿園(神戸市須磨区)園芸療法士定着促進お話し事業講師(2～3月)

4. 学会活動など

- ・一般社団法人 日本園芸療法学会(2022年～)
- ・公益社団法人 こども環境学会(2021年～)
- ・一般社団法人日本保育学会(2014年～)・幼年教育実践学会(2014年～)
- ・日本保育者養成教育学会(2017年～)

◆藤原 道郎

主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 教授)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・植生景観構造論(前期, 主任)
- ・緑環境景観マネジメント概論(通年: 主担)
- ・実務者会と技術者能力(通年: 主担)

・植生景観構造論(前期, 主任)	査読論文	T., Yamamoto S.(20241005)
・企業と行政の環境戦略(後期: 主担)	・趙星一・藤原道郎・大藪崇司・山本聡(2024) 海岸クロマツ林のギャップにおける天然更新クロマツと植栽クロマツの生育および海浜植物の分布。日本海岸林学会誌 23: 17-22	Possibility of woodland burial leading to conservation of local satoyama and landscape. The 14th Conference of International Consortium of Landscape and Ecological Engineering (ICLEE2024) (Kitakyushu, Japan)
・保全管理基礎演習(前期, 分担)	口頭発表・ポスター発表	
・樹木植栽管理演習(通年, 分担)	・藤原道郎(20240602) 放置竹林における竹稈の成長段階およびイノシシの影響。JALE2024(東北学院大学, 仙台市)	・Zhao X., Fujihara M. (20241005) Growth of naturally regenerated and planted of Pinus thunbergii and distribution of coastal plants in gaps of a Japanese black pine coastal forest. The 14th Conference of International Consortium of Landscape and Ecological Engineering (ICLEE2024) (Kitakyushu, Japan)
・里地里山の保全管理演習(通年, 分担)	・高橋慧・藤原道郎(20240602) 森林や里山を利用した樹木葬による里山保全の可能性－兵庫・大阪近郊の樹木葬の予備的調査－。JALE2024(東北学院大学, 仙台市)	・Lin, Oyabu T., Fujihara M., Yamamoto S. (20241005) The Current Status and Challenges of Taiwan's Landscaping Industry in Comparison with Japan. The 14th Conference of International Consortium of Landscape and Ecological Engineering (ICLEE2024) (Kitakyushu, Japan)
・緑環境景観マネジメント企画演習 I、II(分担)	・新見沙耶・原彩菜・藤原道郎(20240602) 淡路島における絶滅危惧種シロチドリ の保全－イラストを用いた看板の可能性－。JALE2024(東北学院大学, 仙台市)	・Fujihara M.(20240917) The stand-level influence of wild boars on an invasive bamboo forest. IAVS2024 (Funchal, Portuguese)
・反復型インターンシップ(通年, 分担)		・Niimi S., Hara A., Fujihara M., Oyabu T., Yamamoto S. (20241005) Conservation activities for Kentish Plovers on coast of Awaji Island using illustrations. The 14th Conference of International Consortium of Landscape and Ecological Engineering (ICLEE2024) (Kitakyushu, Japan)
・保全管理実践演習(通年, 分担)		・Takahashi K., Fujihara M., Oyabu
1.2 学部科目		
・ひょうご地域課題概論(西地区前期: 分担)		
・ひょうご地域課題概論(東地区前期: 分担)		
・地域課題フィールドワーク II(後期, 淡路地区主担)		
1.3 その他の担当		
・生涯学習花と緑のまちづくりガーデンナー・本科コース講師「日本の植生と地域性」2024.10. 3		
・生涯学習花と緑のまちづくりガーデンナー・マスターコース講師 2024.9.12-13., 2024.11.14-15		
・まちづくりガーデンナーテーマコース講師「特定外来植物ナルトサワギク 駆除して草木染め！」2024.10.14		
1.4 その他の学生指導・学内行事指導等(学内委員会活動)		
・運営会議委員		
・入試委員会委員		
・受託研究審査会審査員		
・研究倫理審査会委員		
・FD 委員会委員		
2. 主な業績		

3. その他の研究

(科研)

- ・モウソウチクの異なる成長段階への攪乱による外来種防除に関する景観生態学的研究(兵庫県立大学:代表)

4. 社会活動

新聞等報道掲載

- ・守れ島のシンボル「チドリ」(下) 環境どう保全? 毎日新聞. 20250324 毎日新聞淡路版
- ・絶滅危惧種の「チドリ」守れ. 兵庫・淡路島で住民らが保全活動 毎日新聞 20250322 毎日新聞 web 版
- ・百人一首でも詠まれた淡路島の「チドリ」、砂浜減少で絶滅の危機 読売新聞 20240807 読売新聞 web 版
- ・会えたシロチドリ 神戸で2羽撮影成功 読売新聞 20240612 読売新聞
- ・シロチドリの保全毎日新聞 20240600 毎日新聞

指導・研修

- ・淡路島ちどり隊 保護柵・保護エリア設置および指導.
- ・阿南市生物多様性ホットスポット 視察指導(淡路市)
- ・環境省(神戸自然保護官事務所)植物調査指導(環境省神戸自然保護官事務所)(委員会)
- ・兵庫県環境影響審査会委員(兵庫県)
- ・環境立島淡路島島民会議推進部会長(兵庫県淡路県民局)
- ・環境立島淡路島島民会議副会

長(兵庫県淡路県民局)

- ・淡路地域ビジョン委員会 専門委員, 兵庫県(兵庫県淡路県民局)
- ・淡路島生物多様性協議会委員(兵庫県淡路県民局)
- ・県立淡路島公園管理運営協議会委員(兵庫県淡路県民局)
- ・公園等の管理運営にかかる評価・検証委員会推進協議会委員(公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会)
- ・県立舞子公園管理運営推進協議会会長(公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会)
- ・県立コウノトリの郷公園運営懇話会委員(県立コウノトリの郷公園)
- ・慶野松原保存管理計画策定委員会委員(南あわじ市)
- ・淡路市環境審議会会長(淡路市)
- ・淡路市有機農業産地づくり協議会(淡路市)
- ・令和6年度環境省植生図の更新に向けた検討会委員(アジア航測株式会社)
- ・大阪府営箕面公園協議会座長(公園管理共同体メープルハーツ)(県立大学全学委員会)
- ・全学教育研究審議会委員
- ・全学自己評価委員会委員
- ・全学コンプライアンス推進会議委員
- ・全学入学試験協議会
- ・全学ダイバーシティ推進委員会委員
- ・県立大学地域創生人材育成プログラム(RREP)運営委員(県立大

学)

- ・県立大学地域創生人材育成プログラム(RREP)実務者会議委員(県立大学)
- (研究科委員会活動)
- ・研究科長
- ・自然・環境研究所次長(景観園芸系)
- ・研究倫理委員会委員長
- ・FD委員会委員長
- ・教育システム自己点検委員会委員
- ・入試委員会委員

5. 学会活動など

(学会役員等)

- ・日本景観生態学会 副会長
- ・日本海岸林学会 副会長, 評議員
- ・日本海岸林学会表彰委員
- ・第34回日本景観生態学会仙台大会実行委員
- ・Landscape and Ecological Engineering 編集委員
- ・HIKOBIA 編集委員(学術論文査読)
- 国際誌査読・責任編集7件
- ・Landscape and Ecological Engineering 誌査読
- ・Scientific Report 誌査読

◆ 大藪 崇司

主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 准教授)

1. 教育活動

1.1 研究科科目

- ・樹木植栽管理論(前期, 主担)
- ・樹木植栽管理演習(通年, 主担)

- ・保全管理基礎演習(前期, 分担)
- ・反復型インターンシップ(通年, 分担)
- ・緑環境景観マネジメント企画演習(後期, 分担)
- ・造園施工演習(通年, 主担)
- ・保全管理実践演習(通年, 分担)
- ・緑環境景観論(前期, 分担)
- (専門職大学院認証評価)
- ・環境・造園系専門職大学院認証評価受審担当

1.2 園芸療法課程担当科目

- ・園芸療法特論(前期, 分担)
- ## 1.3 その他の担当科目
- ・まちづくりガーデナー・本科コース「樹木の剪定管理」(2025.2)
 - ・まちづくりガーデナー・マスターコース「里山林の保全と管理」(2024.9、2024.11)

1.4 その他の担当教育科目

- (研究教育指導)
- ・造園技能士2級2名指導2名合格、造園技能士3級6名指導4名合格(2024.6-2024.8)
- ・服部 インターンシップ指導(グリーンホスピタルプロジェクト、国交省明石海峡公園)
- ・宇津木 インターンシップ指導(阪神園芸)
- ・林庭綺 台湾での都市緑地における樹木医学に基づくスタートアップ企業の試行, 保全管理実践演習

1.5 他大学での教育活動

- ・大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科「緑化施工演習」18名(2023.4-2024.3)

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等

- (論文)
- ・趙星一, 藤原道郎, 大藪崇司, 山本聡(2024) 海岸クロマツ林のギャップにおける天然更新クロマツと植栽クロマツの生育および海浜植物の分布, 海岸林学会誌 23(2), 17-22 (発表)
- ・札幌高志・岡田淳史・木村保・中瀬浩太・前田泰芳・大藪崇司(2024) 食品リサイクル堆肥の施用および吸水性汚泥改良材がピオラの成長と開花に及ぼす影響, 園芸学研究 23(別冊 2)
- ・ Takashi OYABU, John Bosco Mukundi Njoroge (2024) The actual management of Eucalyptus plantations by farmers in the coastal areas of Kenya, ICLEE2024, 175
- ・ Ting-chi LIN, Takashi OYABU, Satoshi YAMAMOTO, Michiro FUJIHARA (2024) The Current Status and Issues of the Landscaping Industry in Taiwan: A Comparative Study with Japan, ICLEE2024, 207
- ・ Kei TAKAHASHI, Michiro FUJIHARA, Takashi OYABU, Satoshi YAMAMOTO (2024) Possibility of woodland burial leading to conservation of local satoyama and landscape, ICLEE2024, 200
- ・ Saya Niimi, Ayana Hara, Michiro Fujihara, Takashi Oyabu, Satoshi

Yamamoto (2024) Conservation activities for Kentish Plovers on coast of Awaji Island using illustrations, ICLEE2024, 177

(報告書)

- ・大藪崇司(2025.3) 食品リサイクル堆肥高付加価値化に関する実験的研究, 63pp.
- ・大藪崇司(2025.2) 2023年度日本万国博覧会記念公園万博の森づくり共同研究報告書 万博記念公園自然文化園「きのこ」分野の調査, 53-64.
- ・大藪崇司, 他(2025.3) 京都市保存樹調査報告書, 京都樹木医会, 26pp.

3. その他の研究

(受託・寄付を受けた研究)

- ・食品リサイクル堆肥高付加価値化に関する実験的研究(2024.4~2025.3), 五洋建設株式会社, 1,500千円
- ・研究寄付金, 五洋建設株式会社, 500千円
- ・研究寄付金, 阪神園芸株式会社, 396千円
- ・万博記念公園自然文化園における生物多様性に配慮した森づくり(2024.5~2025.3) 大阪公立大学, 368千円

4. 委員会等の活動

(研究科)

- 認証評価対応
- 教育システム自己点検委員
- 産学連携推進委員(全学)

d. 自己評価委員会作業部会委員
(全学)

(園芸学校)

- a. 毒物劇物管理担当
- b. 情報システム委員会
- c. 予算委員会委員

5. 社会活動

(委員会)

- ・県民まちなみ緑化事業検討委員会委員((公財)兵庫県園芸・公園協会花と緑のまちづくりセンター)(2007.4～)
- ・花と緑の専門家,(公財)兵庫県園芸・公園協会花と緑のまちづくりセンター(2012.4～)
- ・加西市史跡整備検討委員会,加西市(2017.7～)
- ・兵庫県まちづくり審議会花緑検討小委員会委員,兵庫県(2019.3～)
- ・大阪府万博公園専門家共同研究会委員,大阪府(2019.4～)
- ・大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会 緑整備部会(2022.4～)
- ・紫金山公園ワークショップファシリテーター,吹田市(2023.4～2025.4)
- ・大阪府河川整備検審議会委員,大阪府(2024.11～2026.10)

(講演・シンポジウム・アドバイザー)

- ・京都市梅小路公園グリーンフェア春の自然観察会 講師(2024.5) 100人
- ・京都市梅小路公園グリーンフェア春の自然観察会 講師(2024.10) 100人

・明石市剪定講習会(2025.2)40人

6. 学会活動など

(所属学会)

- 日本緑化工学会(1998.3～)
- 日本造園学会(1998.10～)
- 環境情報科学学会(1999.4～)(各種役職)
- ・京都樹木医会理事(2010.9～)
- ・日本緑化工学会理事(2013.9～2018.8)
- ・日本造園学会 JABEE 委員会幹事(2013.9～)
- ・日本緑化工学会 総務部会(2018.9～)(査読等)
- ・日本緑化工学会誌査読2件

◆金原 淳一

課長補佐

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・樹木植栽管理演習(1年、通年、分担)
- ・造園施工演習(1年、通年、分担)
- ・里地里山の保安全管理演習(1年、通年、分担)
- ・植物管理技術演習(1年、通年、分担)
- ・生活空間デザイン演習(1年、前期、分担)
- ・ガーデンデザイン演習(1年、通年、分担)
- ・緑環境景観機能評価演習(2年、前期、分担)
- ・フィールド植物観察(1・2年、前期)

1.2 その他の担当教育科目

・まちづくりガーデナー本科コース(分担)

2. 学内委員会などの活動

(園芸学校)

- ・図書委員会
- ・フィールド会議

◆山本 聡

主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 教授)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・環境景観機能評価とSDGs(1年、後期,主任)
- ・反復型インターンシップ(1年,通年,分担)
- ・ガーデンデザイン演習(1年,通年,分担)
- ・緑環境景観機能評価演習(2年,前期,主任)
- ・保安全管理実践演習(2年,通年,主任)
- ・緑環境景観マネジメント企画演習II(1年,後期,分担)

1.2 その他の担当科目

- ・兵庫県立大学全学共通教育科目「緑景観マネジメント論」(分担)
- ・生涯学習コース,花と緑のまちづくりガーデナー・本科コース「景観デザインと植物の活かし方」
- ・生涯学習コース,花と緑のまちづくりガーデナー・マスターコース「緑地の環境保全とSDGs」,「里山の保全と管理」

1.3 その他の学生指導、学内行事指導等

(研究指導、進路指導)

- ・研究科学生指導 2名の学生を主担1名の学生を共同で指導(「歴史的な温泉地における景観資源の把握と評価」「植物園温室の経路空間における期待感を抱かせる要因」)
- ・研究生1名を受け入れ(出展指導)
- ・ひょうごまちなみガーデンショーin 明石出展指導(2024.9.22~29)
- ・淡路花祭り2024 高校生花とみどりのガーデン出展指導, (2024. 10.5~11.10)

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等

(論文)

- ・趙 星一, 藤原 道郎, 大藪 崇司, 山本 聡(2024) 海岸クロマツ林のギャップにおける天然更新クロマツと植栽クロマツの生育および海浜植物の分布, 日本海岸林学会誌 23(2) 1-6.

(口頭発表・ポスター発表)

- ・樋上啓子, 山本聡, 札埜高志(2024)アオノリュウゼツランの開花時期の形態の違いによる評価の違い. 人間・植物関係学会雑誌第24巻別冊 24 64-65
- ・山本聡, 光成麻美(2024)淡路島百景の選定約10年後の状況. 2024年度日本造園学会全国大会要旨集
- ・Niimi S., Hara A., Fujihara M., Oyabu T., Yamamoto S. Conservation activities for Kentish Plovers on coast of Awaji Island

using illustrations. The 14th Conference of International Consortium of Landscape and Ecological Engineering (ICLEE2024)

- ・Takahashi K., Fujihara M., Oyabu T., Yamamoto S.

Possibility of woodland burial leading to conservation of local satoyama and landscape

The 14th Conference of International Consortium of Landscape and Ecological Engineering (ICLEE2024)

- ・Lin TC, Oyabu T., Yamamoto S., Fujihara M. The Current Status and Issues of the Landscaping Industry in Taiwan: A Comparative Study with Japan

The 14th Conference of International Consortium of Landscape and Ecological Engineering (査読等)

- ・景観園芸研究査読者(2023.12~)
- ・日本造園学会ランドスケープ研究査読者(2024.5~)
- ・日本緑化工学会誌査読者(2025.2~)
- ・人間・植物関係学会論文集査読者(2025.3)

3. 学内委員会などの活動

(景観園芸学校)

- ・運営会議委員
- ・教育研究部長
- ・教務委員会委員
- ・情報システム部会委員

・将来計画会議委員

・淡路景観園芸学校フィールド会議委員

・ランドスケープの新潮流セミナー事務局

・園芸療法プロジェクト会議委員(研究科)

・教務委員会委員

・自己評価委員会委員

・FD委員会委員

・研究倫理委員会委員

・教育システム自己点検委員会委員(兵庫県立大学全学委員会)

・学術総合情報センター運営委員会委員

4. 社会活動

(委員会)

・高砂みなとまちづくり構想推進協議会委員(2019. 4.12~)高砂市

・SEEGES(社会・環境貢献緑地審査システム)審査員(2019.11~)都市緑化機構

・草津市立水生植物公園みずの森(公園緑地課)技術顧問(2019.5.1~)草津市

・大阪府立花の文化園指定管理者評価委員会委員(2023.4~)大阪府

・「2024 ガーデンコンペひょうご」写真部門審査委員長(2024.9.) (公財)兵庫県園芸・公園協会

・地域づくり活動応援事業に係る地域づくり活動支援会議委員(2024.5~2025.3)淡路県民局

(講演等その他)

・令和6年度淡路くうみ夢フォーラムパネルディスカッションコーディネーター(2025年3月4日)南あわじ

市

5. 学会活動等

(所属学会)

- ・日本造園学会 (1990.2～)
- ・日本都市計画学会 (1990.9～)
- ・農村計画学会 (1990.12～)
- ・日本緑化工学会 (2001.3～)
- ・環境情報科学センター (2003.2～)
- ・人間・植物関係学会 (2003.4～)
- (学会各種役職)
- ・日本造園学会関西支部運営委員 (2018.5～)
- ・日本緑化工学会理事 (2023.9～)
- ・日本緑化工学会編集委員会(論文部門)副委員長 (2023.9～2025.9)
- ・日本緑化工学会編集委員 (2023.9～)
- ・日本緑化工学会緑・健康研究部会委員 (2007.9～)
- ・人間・植物関係学会・園芸療法学会合同大会実行委員会委員 (2024.1～2024.11)
- ・日本造園学会関西支部大会運営委員会委員長 (2024.1～2025.1)

◆澤田 佳宏

主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観
マネジメント研究科 准教授)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・保全管理基礎演習(1年前期, 分担)
- ・里地里山の保全管理論(1年前期)
- ・里地里山の保全管理演習(1年前期・後期, 分担))

・反復型インターンシップ(1年前期・後期, 分担)

・緑環境景観マネジメント企画演習 (1年後期, 分担)

・保全管理実践演習(2年前期・後期, 分担)

1.2 その他の担当教育科目

・まちづくりガーデナー本科コース
「里地の草原再生と観察会」26期
24名(2024/6/5)

・まちづくりガーデナーマスターコース
「里山林の現状と管理方法～事前調査から管理計画まで～」9期
19名(2024/9/11-13)

・まちづくりガーデナーマスターコース
「里山林の現状と管理方法～間伐と年輪調査～」9期17名
(2024/11/13-15)

・兵庫県立大学東地区キャンパス:
緑景観マネジメント論(学部 1～4
年 20名・前期・分担. 2024/5/29,
6/1, 6/12)

1.3 その他の学生指導、学内行事指導等

(保全管理実践演習研究指導2名)
・淡路島における湧水湿地の立地・植生・人の関わりー絶滅危惧生態系の現状と課題ー(井上知美)*景観園芸賞受賞

・圃場整備による畦畔草原の植生変化と土壌環境との関係ー草原保全と圃場整備の両立を目指してー(畑田菜緒)

(課外活動指導)
・薪づくり、生ごみ堆肥づくり、野焼き等の地域活動協力、石の寝屋緑地におけるササ刈りボランティアなど

1.4 他大学での教育活動

・大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科「植生管理とビオトープ」(分担 5回)2-4年生 50名
(2024/4/19-7/19)

・大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科「生態系評価とビオトープ施工論」(分担 5回)3-4年生 49名(2024/4/19-7/19)

・大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科「キャリアデザイン 1」2年生 55名(分担 1回, 2024/7/5)

2. 主な業績

2.1 論文等

・武田義明・前迫ゆり・澤田佳宏
(2025/3)淡路島論鶴羽神社の社叢に対するニホンジカの影響. 社叢学研究 23, 38-41.

2.2 学会発表

(口頭発表)

・橋本佳延・澤田佳宏・松村俊和
(2025/3/18)西日本のイネ科草本の優占する草原を主たる生育環境とする草原生植物リストの試案. 第72回日本生態学会大会. 自由集会草原生植物の再定義とその現象メカニズム(群落談話会)(札幌コンベンションセンター, 札幌)

(ポスター発表)

・井上知美・澤田佳宏
(2024/10/19)淡路島における湧水湿地の分布・立地・人の関わり. 植生学会第29回大会(筑波大学, つくば))

・畑田菜緒・澤田佳宏
(2024/10/19)圃場整備による畦畔草原の植生変化と土壌の関係.

植生学会第 29 回大会(筑波大学, つくば)

・澤田佳宏・藤原道郎

(2024/10/19) 淡路島における

2018 年以降のナラ枯れの記録.

植生学会第 29 回大会(筑波大学, つくば)

3. その他の研究

(助成を受けた研究)

・棚田地帯での圃場整備に際して
実施可能な畦畔草原保全手法の
開発および標準化(研究代表者)

(2019/4-2025/3) 科研費基盤研究

(C)

4. 学内委員会等活動

(景観園芸学校・研究科)

・新展開推進会議

・入試委員会(入試運営)部会長

・環境保全委員会

・紀要・学校報委員会

・学生生活委員会

・図書委員会

(県立大学全学)

・環境保全委員会

5. 社会活動

(委員会)

・淡路市文化財保護審議会委員.
淡路市教育委員会(2023/4/1-)

・史跡舟木遺跡整備計画検討会委
員, 淡路市教育委員会
(2025/1-2026/3/31)

・あわじ環境未来島構想モデル事
業審査会委員長, 兵庫県淡路県
民局県民躍動室県民課
(2024/6/1-2025/3/31)

・令和6年度六甲山地域環境学習
運営委員会委員, 兵庫県神戸県
民センター県民躍動室県民課
(2024/4-)

・豊かなふるさとづくり推進委員会委
員, 兵庫県農林水産部農地整備
課(2024/4/1-2025/3/31)

・加古川流域懇談会委員, 国土交
通省近畿地方整備局河川部河川
計画課(2024/3- 2027/2/28)

・公共事業等審査会委員, 兵庫県
県土整備部技術企画課
(2024/4/1- 2026/3/31)

・赤穂海浜公園管理運営協議会委
員, 兵庫県西播磨県民局光都土
木事務所港湾課(2020/3/13-)

・高砂市環境審議会委員, 高砂市
生活環境部環境経済室環境政策
課(2024/8/1-2026/ 7/31)

・令和 6 年度淡路島公園・あわじ石
の寝屋緑地管理運営協議会委員,
同環境保全部会部会長.(公財)
兵庫県園芸・公園協会淡路島公
園・あわじ石の寝屋緑地管理事務
所(2024/4/1-2025/3/31)

・令和 6 年度 尼崎の森中央緑地
緑化技術検討会委員, 兵庫県阪
神南県民センター 尼崎港管理事
務所 尼崎 21 世紀プロジェクト推
進室(2024/4-2025/3)

・ひょうごの生物多様性保全プロジ
ェクト選定委員会委員, 兵庫県環
境部自然鳥獣共生課(2024/11/7
~2025/3/31)

・兵庫県立都市公園の整備・管理運
営基本計画改定業務公募型プロ
ポーザル選定委員会委員, 兵庫
県まちづくり部公園緑地課

(2024/11/7~2025/3/31)

・兵庫県立都市公園の整備・管理運
営基本計画改定委員会委員, 兵
庫県まちづくり部公園緑地課

(2025/2/6~2025/3/31)

(アドバイザー・その他)

・生物多様性アドバイザー, 兵庫県
農政環境部環境創造局自然環境
課(2013/9-)

・明石市教育委員会スーパーバイ
ザー, 明石市教育委員会あかし教
育研修センター
(2024/4/1-2025/3/31)

・酒米「山田錦」生産システムの日本
農業遺産申請書提出に係る学術
的意見書の執筆, 北播磨県民局
加東農林振興事務所農政振興課
内兵庫県山田錦主産地農業遺産
推進協議会(2024/6)

・ひょうご里山フェスタ 2024 ユース
サポーターアドバイザー, 兵庫県
農林水産部治山課森づくり普及班
(2024/7-2025/3/31)

・第 1 回南光コレクション記念フォト
コンテスト審査員, 淡路市立図書
館・淡路景観園芸学校
(2025/3/30. 淡路市立津名図書
館)

(講演・セミナー)

・ホテル講習会「ホテルと田んぼと絶
滅危惧種」主催: パソナ農援隊.
(2024/6/29. 陽燦燦と周辺の田
んぼ・ため池, 淡路市野島常盤)

・姫路市立生涯学習大学校 植物・
植生と文化コース 2 年「河川、池
沼、湿地の植生と文化」(2024/8
/21)「海岸の植生と文化」(9/4)
「二次草原(ススキ草原、シバ草原、

- ネザサ草原と文化」(9/18) 約 40 名(姫路市立生涯学習大学校, 姫路)
- ・千草竹原体験ツアー①モミの木と原木しいたけと塩むすびピクニック 観察会講師。補助;井上知美・畑田菜緒。主催:洲本市千草竹原町内会, 共催:ひょうご関係人口案内所さとまちガイドラボ(2024/9/28, 洲本市竹原)
 - ・アマフォレストの会・石の寝屋緑地視察ツアー「石の寝屋緑地・農地の生態系をとりこんだ都市緑地」(講演および現地観察)(2024/11/8. 淡路ハイウェイオアシス会議室およびあわじ石の寝屋緑地)
 - ・野草環境教育研究会総会「淡路島の低茎ネザサ型草原」(2024/11/23. JEC 日本研修センター江坂)
 - ・宝が池連続学習会:都市公園の自然共生サイトへの登録事例にまなぶ「兵庫県立あわじ石の寝屋緑地の自然共生サイト登録までの経緯・登録後の展開など」主催;(公財)京都市都市緑化協会「宝が池の森」保全再生協議会(2024/12/22.京都産業大学 15 号館 1 階 15102, 京都)(展示)
 - ・淡路花博 25 周年記念花みどりフェア, パネル展示「兵庫県立あわじ石の寝屋緑地・里の水辺でいきものさがし」淡路島の残したい自然」(2025/3/20-4/27. 淡路夢舞台連絡通路, 淡路)(幼保小中高大連携)
 - ・兵庫県立農業高校, 景観園芸学校見学案内(草原再生実験区およびエコ池での保全活動)。対象;造園科生徒約 40 名。(2024/6/5)
 - ・淡路市立学習小学校, 環境体験学習「校庭の樹木・葉っぱさがし, どんぐりのあかちゃん, やまもの実」対象:小学3年生46名。講師;澤田佳宏 補助;井上知美・圓山初美・油本陽子 担任;森教諭・中村教諭(2024/6/21 学習小学校校内,淡路)
 - ・淡路市立中田小学校, 環境体験学習「水路のいきもの」対象:小学3年生18名。講師;澤田佳宏 補助;井上知美, 長嶋龍斗(15 期生), 高木恵美, 田中かおる, 田中理央(ちどり隊)。担任;五十嵐教諭(2024/7/4 中田小学校周辺の水田・水路, 淡路)
 - ・兵庫県立洲本高校探求型クラス, 夏休み臨海実習「成ヶ島フィールドワーク(塩湿地の植生)」対象:1 年生探求類型生徒 17 名.教員 2 名(紀谷嘉良子先生ほか)。(2024/8/5 洲本市由良成ヶ島)
 - ・淡路市立浦小学校, 環境体験学習「浦川のいきもの」対象:小学校3年生34人。講師;澤田佳宏 補助;林庭綺・服部希実・圓山初美。担任;池田教諭・四方教諭(2024/9/20 浦小学校・浦川, 淡路)
 - ・淡路市立津名東小学校, 環境体験学習「ため池のいきもの・かいぼり」対象:小学校3年生28名。講師;澤田佳宏 補助;佐藤瑞桂・高橋慧・駒ヶ嶺光・新見紗矢, 担任;二宮教諭, 谷口教諭(2024/10/22 釜口・大田池,淡路)
 - ・淡路市立浦小学校, 環境学習「漂着物の観察, ヒメハマトビムシさがし」対象:小学校4年生53名。講師;澤田佳宏 補助;圓山初美・山田桜・畑田菜緒・ちどり隊, 担任;生田教諭(2024/10/4 久留麻海岸, 淡路)
 - ・淡路市立学習小学校, 環境体験学習「シイの実を食べる」対象:小学校3年生55名。講師;澤田佳宏 補助;井上知美・圓山初美・服部希実, 担任;中村教諭・岡村教諭(2024/11/26 学習小学校校内,淡路)
 - ・淡路市立学習小学校, 環境体験学習「ため池の鳥」対象:小学校3年生55名。講師;澤田佳宏・藤原道郎・金原淳一・尾田顕子・里地里山の保全管理演習履修者 担任;中村教諭・岡村教諭(2024/1/9 学習小学校と周辺のため池,淡路)
 - ・淡路市立浦小学校, 環境体験学習「七草がゆ」対象:小学校3年生33人。講師;澤田佳宏, 担任;池田教諭・四方教諭(2025/1/23 浦小学校校, 淡路)
 - ・淡路市立浦小学校, 環境体験学習「すなはまの植物、コウボウムギの筆でお習字」対象:小学校3年生33人。講師;澤田佳宏 補助;圓山初美・服部希実・小林時嘉・章こん・山田桜・中郷野々花。担任;池田教諭 (2025/3/7.浦小学校・久留麻海岸, 淡路)

- (上記以外の行政課題への貢献)
- ・加古川市公園緑地課, 日岡山公園の公園整備時の環境対応についてのヒアリング対応
 - ・環境省神戸自然保護管事務所, 瀬戸内海国立公園のうち淡路島内の海岸における植生調査のヒアリング対応
 - ・国土交通省姫路河川国道事務所, 加古川自然再生(わんど・たまり), 河口干潟に関するヒアリング対応(地域活動等への参加)
 - ・淡路市小田太田地区の墓地畦畔の植生管理(野焼き)に学生とともに参加(2025/3/26)
 - ・淡路市黒谷地区におけるモニタリングサイト1000里地植物調査に学生とともに参加
 - ・あわじ石の寝屋緑地いきものたんぼ調査に学生とともに参加
 - ・淡路市釜口大田池および洲本市五色町上塚長谷下池のかいぼりに学生とともに参加(2024/10/22,11/21)

6. 学会活動など

- (所属学会・研究会等)
- ・日本生態学会(1995-)
 - ・植生学会(1996-)
 - ・漂着物学会(2006-)
 - ・日本緑化工学会(2006-)
 - ・草原再生ネットワーク(2009-)
 - ・希少生物懇話会(2013-)
 - ・兵庫植物同好会(2016-)
 - ・関西自然保護機構(2024-)(各種役職)
 - ・植生学会運営委員(2020/4-)
 - ・植生学会企画委員会副委員長

- (2023/4-)
- ・社叢学会見学会案内(2024/6/23)

◆尾田 顕子

景観園芸専門員
兼緑環境景観専門員

1. 教育活動

- 1.1 園芸療法課程担当科目
- 1.2 その他の担当教育科目

2. 主な業績

- 1.1 研究科課程科目
 - ・ガイダンス講義(1年、前期、分担)
 - ・フィールド植物観察演習Ⅰ(1年、前期、分担)
 - ・フィールド植物観察演習Ⅱ(1年、後期、分担)
 - ・植物管理技術演習(1年、通年、分担)
 - ・里地里山の保全管理演習(1年、通年、分担)
 - ・樹木植栽管理演習(1年、通年、分担)
 - ・造園施工演習(1年、通年、分担)
 - ・ガーデンデザイン演習(1年、通年、分担)
- 1.2 園芸療法課程科目
 - ・ガイダンス講義(全寮制21期生・通学制12期生、前期、分担)
 - ・ガーデニング(全寮制21期生・通学制12期生、通年、主任)
- 1.3 その他の担当
 - ・まちづくりガーデナー本科コース(分担)
 - ・まちづくりガーデナーマスターコース(分担)
- 1.4 その他の学生指導・学内行事指導等
 - ・まちなみガーデンショー出展指導

- (研究科のみ)
- ・ペレニアルガーデン活動支援

2. 学内委員会などの活動

- (学内委員会)
- ・学生生活支援委員会
 - ・教務委員会

◆美濃 伸之

主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 教授)

1. 教育活動

- 1.1 研究科担当科目
 - ・緑環境景観マネジメント概論(修士1年、前期)
 - ・緑環境評価論(修士1年、前期)
 - ・緑環境評価演習(修士1年、前期)
 - ・緑環境景観マネジメント企画演習
 - ・施策マネジメント基礎演習(修士1年、後期)
 - ・実務社会と技術者能力(修士1年、通年)
 - ・反復型インターンシップ(修士1年、通年)
 - ・施策マネジメント実践演習(修士2年)
- 1.2 園芸療法課程担当科目
 - ・公園ユニバーサルデザイン
- 1.3 その他の担当科目
 - ・共通教育
 - ・緑景観マネジメント論(学部1年東地区・分担およびとりまとめ)
 - ・花と緑のまちづくり本科コース(バリアフリー)
 - ・花と緑のまちづくりマスターコース(バリアフリーおよびPC情報収集)
 - ・景観園芸専門講座・都市公園マネ

ジメント(事務局とりまとめ、官民連携、須磨海浜公園公園現地見学)

1.4 その他の学生指導・学内行事指導等

- ・大学院入試出題および採点
- ・大学院入試面接官、
- ・ウェブオープンキャンパス研究科説明担当
- ・学生面談(第1回・第2回)
- ・インターンシップ担当1名

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等

(論文)

美濃 伸之, 浅田 増美(2024)国営ひたち海浜公園において移動制限のある公園利用者が享受している人的支援の実態 ランドスケープ研究(オンライン論文集) 17 32-37

(依頼原稿)

・美濃伸之(2024)公園緑地におけるインクルーシブのあり方と今後の展望 公園緑地 85(2) 18-21(著書)

(総説)

(報告書)

(査読等)

・都市計画英文誌 Urban and Regional Planning Review 査読

・淡路景観園芸学校紀要査読

・環境情報科学査読

(他学部大学出講)

・千葉大学園芸学部(学部3年後期)

・国土交通省 国土交通大学校公園緑化研修講師(各省庁, 都道府県職員公園緑地実務者対象)

(展覧会)

(コンペ等審査委員)

(その他)

・新聞取材 産経新聞 障害があってもなくても一緒に、広がる「インクルーシブ遊具」公園バリアフリー化の一步先へ

3. その他の研究

(科研費)

・基盤研究C 障害者の公園利用を支える多様な主体間協力の成立要件とそれを促すプログラムの実践(2024~2028 研究代表者)(受託を受けた研究)

(国際交流)

(海外調査)

(発表会・シンポジウム)

・美濃伸之(2024)国営ひたち海浜公園における移動制限のある公園利用者への人的支援の実態 日本造園学会全国大会ポスター発表

・服部希実、西澤勇希、竹本佳美、中郷野々花、藤井芹奈、油本陽子、美濃伸之(2024)高齢者がアルファガーデンを楽しめる様々な楽しみ方の提案“もったいない”の解消 日本造園学会関西支部ポスター発表

・美濃伸之(2024)都市公園ユニバーサルデザインの現状と課題 環境省自然環境局自然環境整備課 UD勉強会(24.10.25:国営明石海峡公園)

・美濃伸之(2024)公園緑地とユニバーサルデザイン 足立区ユニバーサルデザイン講演会(24.11.24:足立区立花畑公園)

・美濃伸之(2025)ユニバーサルデ

ザイン教育:実践報告・造園・ランドスケープ分野 分野別ユニバーサルデザイン教育の現状と課題 日本福祉のまちづくり学会関西支部セミナー(25.01.17.オンライン)

4. 学内委員会などの活動

・全学入学試験協議会

(研究科)

・研究科長補佐

・入学試験委員会

・学術情報センター運営委員会

・自己評価委員会

・研究倫理委員会

・環境保全委員会

・教員採用選考委員会

・教育システム自己点検委員会

・専門職大学院教育課程連携協議会

(園芸学校)

・運営会議

・管理部長

・管理部(規定担当)

・入試委員会

・情報システム委員会

5. 社会活動

(委員会)

・緑の評価・認定制緑の評価・認定制度の「Well-beingの向上」に係る基準等の検討調査にかかるヒアリング(国土交通省)

・兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画改定委員会(兵庫県)

・芦屋市環境計画策定委員会(芦屋市)

・大阪・関西万博に係る交通事業者のバリアフリーソフト対策検討会(公

益財団法人 関西交通経済研究センター)

・芦屋市環境審議会委員(芦屋市)
・社会課題対応型都市公園機能向上促進事業にかかる有識者会議委員(国土交通省)

・長岡公園の再整備を考える有識者懇談会委員((株)村田製作所・長岡京市)
(講演等その他)

・日本福祉のまちづくり学会関西セミナー「都市公園におけるインクルーシブな遊び場づくりの現状と課題」コーディネータ(24.06.08)

・バリアフリー推進勉強会in関西コーディネータ(24.09.20 および25.02.14)

・日本造園学会関西支部大会セッション2「都市の持続的発展」座長(24.10.20)

・日本福祉のまちづくり学会関西支部・学生発表会コーディネータ(25.02.28)

6. 学会活動など

(所属学会)

- ・日本写真測量学会
- ・日本造園学会
- ・農村計画学会
- ・日本福祉のまちづくり学会
- ・CSIS(環境情報科学センター)
- ・日本都市計画学会
(学会各種役職)
- ・日本福祉のまちづくり学会 代議員
- ・日本福祉のまちづくり学会 関西支部副支部長兼幹事長

◆嶽山 洋志

主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 准教授)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・施策マネジメント基礎演習
- ・公園管理運営のソフト展開技術演習
- ・緑環境景観マネジメント企画演習
- ・反復型インターンシップ
- ・施策マネジメント実践演習

1.2 その他の担当科目

- ・花とみどりのまちづくり本科コース
- ・花とみどりのまちづくりマスターコース
- ・兵庫県立大学国際商経学部 非常勤講師
- ・関西学院大学建築学部 非常勤講師

1.3 学生指導、学内行事指導等

- ・空き地の花屋プロジェクト-神戸市兵庫区の密集市街地における狭小空き地の持続可能な管理活用法の提案-(駒ヶ嶺光)
- ・不登校経験のある生徒とつくるプレーパーク-赤穂海浜公園での実践-(長嶋龍斗)
- ・高知県四万十町における生姜穴の活用プロジェクト(山崎快彦)
- ・コミュニティスクール事業を活用した学校ビオトープの担い手づくりの可能性(渡瀬泰輝)

2. 主な業績

- #### 2.1 論文・著書・報告書等 (論文)

-査読あり-

・川尻優・嶽山洋志(2025)自閉症スペクトラム障害のある子とその親が公園で出会うトラブルや困難と自治体の支援. ランドスケープ研究 88(5).487-490.

-査読なし-

・山崎快彦・嶽山洋志(2024)高知県四万十町における生姜穴の環境特性とその活用方法の検討. 令和6年度日本造園学会関西支部大会研究・事例発表要旨集.23-24.

・駒ヶ嶺光・嶽山洋志(2024)神戸市の密集市街地における狭小空き地の持続的な活用法実践. 令和6年度日本造園学会関西支部大会研究・事例発表要旨集.34.

・嶽山洋志(2024)米国の「Schoolyard Park」事業にみる教育+環境+地域づくり拠点の創出方法. 令和6年度日本造園学会関西支部大会研究・事例発表要旨集.34

(口頭発表・ポスター発表)

・嶽山洋志(2024.5)米国の「Schoolyard Park」事業にみる教育+環境+地域づくり拠点の創出方法. 2024年度日本造園学会関西支部大会.ポスター発表.香川県..

3. その他の研究

(科研費・研究助成)

・基盤研究C「米国 Schoolyard Park にみる教育+環境+地域づくり拠点の創出手法」(2020~2024 研究代表者)

(受託研究)

・多井畑西地区交流広場計画策定

及び整備に関する調査研究(2024)神戸市都市局.研究代表者.

・県立都市公園におけるインクルーシブな遊び場の整備・運営に関する研究(2024)ひょうご震災記念 21世紀研究機構.研究代表者.

・海外のチルドレンズ・ガーデンの環境デザインを踏まえた県立都市公園における子ども向け体験エリアの整備および体験プログラムのあり方に関する研究(2024)ひょうご震災記念 21世紀研究機構.研究代表者.

(実践演習で獲得した外部資金)

・小さい空き地をつないで公園をつくるプロジェクト(2024)地域課題に取り組む NPO 等補助事業. 駒ヶ嶺光

4. 学内委員会などの活動

(研究科)

・広報委員会委員長:オープンキャンパス、HP およびメルマガ運営、三ノ宮センター街の大型モニターを通じた動画発信、Instagram や facebook の運営、明石ガーデンショーへの出展、県立大広報動画の制作、広報検討ワークショップ

・事業推進担当:アルファ祭の運営

・教学マネジメント委員会:内部質保証のためのデータ収集と資料作成

・予算委員会:研究費の配分調整

・図書委員会:図書の購入など

5. 社会活動

(委員会)

・淡路市都市計画マスタープラン策

定会議委員,淡路市(2024.10~)

・淡路市農村環境計画策定検討委員会委員,淡路市(2024.10~)

・南あわじ市空き家を活用した街の活性化『『世界一の食の島』を先導する食の街区』検討委員会委員,南あわじ市(2024.7~)

・姫路市都市計画審議会委員,姫路市(2024.4~)

・兵庫県景観審議会委員,兵庫県(2018.7~).

・淡路市環境審議会委員,淡路市(2014.3~).

・芦屋市都市景観審議会委員,芦屋市(2020.4~)

・甲山森林公園管理運営協議会座長,株式会社日比谷アメニス(2019.9~).

・明石市都市景観アドバイス会議座長,明石市都市整備部(2012.8~).

・淡路島公園管理運営協議会長,兵庫県園芸・公園協会(2021.4~).

・淡路地域ビジョン委員会専門委員,兵庫県ビジョン課(2012.4~).

・淡路市文化財保存活用地域計画検討会委員,淡路市(2020.7~).

・あわじ MIRAI こども会議委員長,兵庫県淡路県民局(2023.1~)

・福良港津波防災ステーション円卓会議委員,南あわじ市(2014.4~).

・淡路市フロンティアプロジェクト関係者会議メンバー,淡路市教育委員会(2012.5~).

・東日本大震災ひょうごまちづくり専門家バンク登録専門家,まちづくり技術センター(2012.4~).

・大教大附属天王寺中・高校ビオト

ープ改修会議委員,大教大附属天王寺中高支援連合会(2007.11~).

・地域空間再生検討チームメンバー,兵庫県企画県民部政策室(2016.6~).

・地域再生アドバイザー,兵庫県県民交流室(2014.9~).

・淡路島牛井委員会委員,淡路島観光協会(2010.7~)

(講演・イベント・展示・その他)

・「明石公園プレーパーク全3回」プレーリーダー. 兵庫県立大学大学院主催(2024.4~11).

・「インクルーシブ・プレーパーク in 赤穂海浜公園(全3回)」プレーリーダー. 兵庫県立大学大学院主催(2024.11~12).

・「大蔵海岸公園プレーパーク全1回」プレーリーダー. 明石市主催(2024.10).

・「多井畑プレーパーク(全4回)」プレーリーダー. 神戸市都市局・兵庫県立大学大学院主催(2024.6~2025.2).

・「昆虫博士になろう全4回」講師.森のようちえんまんまる生穂BASE 主催(2024.5~2025.1)

・「昆虫標本と竹工作で自然を学ぼう!」講師. オーエス・住友林業主催(2024.8)

・「多様な特性のある子どものための公園のあり方について」コーディネーター. 緑環境景観マネジメント研究科主催(2024.8)

・「インクルーシブな公園づくり」講師. 兵庫県都市公園整備促進協議会主催(2024.8)

・「昆虫博士になろう! ~夏休み

Special～」講師。森のようちえんま
んまる生穂 BASE 主催(2024.8)

- ・第6回ひょうご eco ユースフォーラム「将来につなぐ兵庫の自然の恵み～私たちができること～」全体コーディネーター。兵庫県環境政策課主催(2024.12)

(協定関係)

- ・南あわじ市の地域創生にかかる包括連携協定(2021.3～)南あわじ市、国立淡路青少年交流の家、兵庫県立淡路三原高等学校、兵庫県立淡路景観園芸学校
- ・兵庫北部地区における空地活用に関する連携協定(2024.7～)神戸市、独立行政法人都市再生機構、兵庫県立淡路景観園芸学校

6. 学会活動など

(所属学会)

- ・(社)日本造園学会(2000-)
- ・(社)日本都市計画学会(2001-)
- ・こども環境学会(2006-)
- ・日本環境教育学会(2012-)
- (学会各種役職)
- ・日本造園学会関西支部ランドスケープ遺産研究部会委員, 日本造園学会(2014.9～).
- ・日本造園学会パークマネジメント研究推進委員会委員(2016.5～)
- ・2023 年度日本造園学会関西支部研究・事例発表部会委員(2023.4～)
- ・こども環境学会論文集委員会委員(団体)
- ・兵庫総合学習支援研究会 代表
- ・阪神ビオトープフォーラム メンバー

・PN研究会 メンバー

◆平田 富士男

主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観
マネジメント研究科 教授)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・緑環境景観政策論(主任)
- ・緑環境景観政策演習(主任)
- ・施策マネジメント基礎演習(分担)
- ・緑環境景観企画マネジメント演習(分担)
- ・施策マネジメント実践演習(分担)

1.2 園芸療法課程担当科目

- ・人・緑・健康(分担)

1.3 その他の担当教育科目

- ・生涯学習コース, まちづくりリーダー本科コース前期「花と緑のまちづくり講座」全般の企画, 運営, 教育
- ・生涯学習コース, まちづくりリーダー本科コース後期「花と緑の地域づくり講座」全般の企画, 運営, 教育
- ・生涯学習コース, まちづくりリーダー・マスターコース全般の企画, 運営, 教育

1.4 その他の学生指導、学内行事指導等

- ・NP O 法人アルファグリーンネット(当校生涯学習コース修了生による花と緑のまちづくりのボランティア活動実践ネットワーク組織)の活動支援を行った。
- ・公務員試験受験希望者に対して、試験までの事前学習計画づくり、

計画にそった学習の指導を行うとともに、論文試験のための添削指導、模擬面接等の指導を行った。

1.5 他学部での講義

- ・環境人間学部「緑の都市づくり計画とデザイン」分担
- ・兵庫県立大学副専攻「地域創生人材育成プログラム」における「ひょうご地域課題概論」「フィールドワーク基礎技術演習 1」「フィールドワーク基礎技術演習 2」「地域プロジェクト実践論」「地域プロジェクト演習」分担

2. 主な業績

2.1 著書・論文・報告書等

(論文)

- ・札埜高志・平田富士男・加藤真司(2024) 都市公園内に設けられた水田における稲作経験のない市民による粗放的水稻栽培実現の可能性、人間・植物関係学会誌 24-1、1-8.
- ・平田富士男・塚田伸也・平松玲治・曾根直幸(2024) 都市公園リノベーションの計画技法はいかにあるべきか、ランドスケープ研究 88-3、32-35.(査読等)
- ・日本都市計画学会学術論文集
- ・日本造園学会研究論文集
- ・環境情報科学論文集
- ・建築学会計画系論文集

3. その他の研究

(外部資金の獲得)

- ・科研費 基盤研究(C)(一般)「管理運営の成果を活かしたリノベ計画

技術体系化のための関係業務実態分析とその構図化」(令和4年度～6年度)研究代表者

- ・科研費 基盤研究(C)(一般)「都市近郊水田の市民参画による保全活用のための不耕起湛水栽培法の展開方策」(令和5年度～7年度)研究分担者

4. 学内委員会などの活動

(景観園芸学校)

- ・運営会議委員

- ・教務委員長

(兵庫県立大学)

- ・兵庫県立大学 地域創造機構 地域連携教育研究センター運営委員
- ・兵庫県立大学 共通教育推進部会委員

5. 社会活動

(委員会)

(役員等)

- ・(一財)公園財団 研究顧問(2006.4.～)
- ・(一社)日本公園緑地協会 研究顧問(2008.4.～)
- ・(一財)大阪府公園協会 評議員(2010.10.～)
- ・(一財)都市農地活用支援センター 研究顧問(2017.1.～)
- ・公益社団法人兵庫県緑化推進協会 運営協議会委員(2012.7.～), (公財)兵庫県緑化推進協会
- ・NPO 法人こころの森、理事(2018.2.～)
- ・一般社団法人ひと・まち・もり、理事(2020.4.～)

(委員会委員等)

- ・兵庫県まちづくり政策審議会 花緑小委員会委員長(2024.7.～), 兵庫県
- ・公園管理運営士試験委員会 委員長(2005.9.～), (一財)公園財団・(一社)日本公園緑地協会
- ・都市公園コンクール審査委員会委員(2007.8.～), (一社)日本公園緑地協会
- ・川西市景観審議会 副会長(2013.6.～), 川西市
- ・兵庫県都市公園指定管理者候補者選定委員会委員長(2014.6.～), 兵庫県
- ・伊丹市環境審議会みどり環境部会委員(2015.3.～), 伊丹市
- ・全国花のまちづくりコンクール審査委員会 委員(2015.4.～), 花のまちづくりコンクール推進協議会(公益財団法人日本花の会 内)
- ・県民まちなみ緑化事業検討委員会 委員(2016.6.～), 兵庫県.
- ・(一社)日本公園緑地協会「北村賞」選考委員会 委員(2018.1.～)
- ・滋賀県希望ヶ丘文化公園活性化検討懇話会座長(2019.10.～)、滋賀県
- ・西宮市都市公園指定候補者選定委員会 委員長(2022.5.～2024.3.)
- ・西脇市まちづくり審議会 会長(2020.8.～)
- ・宇治市公園公社事業評価外部委員会 委員長(2022.6.～)
- ・北村賞選考委員会委員(2017.5.～)、(一社)日本公園緑地協会
- ・明石市緑の基本計画改定検討委

員会委員長(2023.9.～)、明石市

- ・国営備北丘陵公園管理運営ビジョン検討委員会委員長(2024.9.～)、国土交通省中国地方整備局
- ・国営讃岐まんのう公園管理運営管理運営ビジョン検討委員会委員長(2024.9.～)、国土交通省四国地方整備局
- ・常吉臨港緑地の魅力向上・管理運営事業者選定会議委員(2024.10.～2025.3.)、大阪港湾局
- ・姫路市公募対象公園施設設置等予定者選定委員会委員長(2024.12.～)、姫路市(講演等)
- ・政策・実務研修「令和時代の公園管理」講演「まちの資産となる公園を目指して」、(公財)全国市町村国際文化研修所(2024.5.16.)
- ・日本造園学会全国大会ミニフォーラム「都市公園リノベーションの計画技法の体系はいかにあるべきか」コーディネイター、(公社)日本造園学会(2024.6.16.)
- ・(一財)日本造園修景協会兵庫県支部講演会「リノベーション時代における造園家の仕事」、(一財)日本造園修景協会兵庫県支部(2024.7.20.)
- ・公園緑地総合講習会「生まれ変わる公園ー公園リノベーションの推進に向けてー」、(一社)日本公園緑地協会(2024.11.11.)
- ・NPO 法人アルファグリーンネット・阪神地区キャラバンでの講演「活動のアピールで活動の輪を広げましょう」、NPO 法人アルファグリーンネット(2024.11.18.)

- ・全国都市公園整備促進協議会意見交換会記念講演「公園リノベーションを「計画的に」進めていくために」、全国都市公園整備促進協議会(2025.1.31.)
(シンクタンク活動)
- ・宮城県石巻市南浜復興祈念公園指定管理者に対する公園の管理運営全般の指導・支援(年間を通じて)
- ・公園マネジメントに関する産官学の研究交流会「PN研究会」の主宰(年間を通じて)

6. 学会活動など

- (所属学会)
- ・日本造園学会(1992～)
 - ・日本都市計画学会(1995～)
 - ・環境情報科学センター(1999～)
- (学会各種役職)
- ・日本造園学会 学会賞選考委員(2014.8.～)
 - ・日本造園学会 学術委員(2021.8.～2023.6.)
 - ・環境情報科学センター企画委員(2015.4.～)

◆新保 奈穂美

主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 准教授)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・市民主体の緑環境マネジメント演習(1年, 前期)
- ・市民主体の緑環境マネジメント

- とSDGs(1年, 後期)
- ・施策マネジメント実践演習(2年, 通年)
- ・施策マネジメント基礎演習(1年, 前期)

1.2 その他の担当科目

- ・生涯学習コース, まちづくりガーデンナー本科コース「花と緑のまちづくり講座」全般の企画, 運営, 教育
- ・生涯学習コース, まちづくりガーデンナー・マスターコース全般の企画, 運営, 教育

1.3 学生指導, 学内行事指導等

- ・農を用いた子どもの居場所の特徴解明-兵庫県洲本市 TERRA 子舎自然農を対象に-(大塚理香子)

1.4 他学部・大学での講義

- ・環境人間学部「緑景観マネジメント論」分担
- ・筑波大学グローバル教育院「Literacy in Global Issues (Environment)」 「Seminars on Global Issues A-I」「Seminars on Global Issues A-II」分担
- ・同志社女子大学「生活と仕組」分担
- ・東大まちづくり大学院「再生型都市・建築論」分担
- ・東北大学大学院国際文化研究科「プロジェクトリスクマネジメント II」分担

2. 主な業績

- (論文)
- ・前田菜緒・太田尚孝・新保奈穂美(2024)熊本県の「緑の流域治水」

における雨庭整備の実態解明と今後の雨庭整備論—導入目的と主体間連携に着目して—。実践政策学, 10(1), 41-52.

- ・Shimpo, N. (2024) Community garden management for resilient cities: A case study in suburban Tokyo during the COVID-19 pandemic. Landscape and Urban Planning, 251, 105148.

(報告・寄稿)

- ・新保奈穂美(2024)都市の社会課題を解決する「農」。アグリバイオ8(11) 8-13.
- ・新保奈穂美(2024)民間企業が参入するコミュニティガーデンの可能性と運営課題 千葉県市原市におけるクロノスファームの事例から。都市計画報告集, 23(3), 429-431. (口頭発表)
- ・大塚啓太・新保奈穂美・坂本優紀・水内佑輔・高山範理・宮本麻子・小田龍聖・神宮翔真・八巻一成「自然への感情反応」による東京都民と森林レンタルサービス利用者の比較 都市住民における潜在的な森林空間利用者の特性探索。人間・環境学会 第31回大会, 2024.5.25.
- ・Shimpo, N. (2024) Embracing urban shrinkage: Leveraging vacant housing and land for resilient, inclusive communities amid demographic shifts. AESOP Annual Congress 2024, 2024.7.11.
- ・Shimpo, N. (2024) The possibility of building a small local food system through urban gardening

using vacant land in shrinking cities: A case study from Kobe, Japan. ECLAS Conference 2024, 2024.9.9.

・永井結季子・山鳥実咲・北梨緒乃・藤原颯太・太田尚孝・岸本慧大・新保奈穂美(2024)わが国におけるパークレットの設置概況と運営実態に関する調査～効果的で持続的なパークレット設置に必要な諸条件の一考察～. 2024 年度日本造園学会 関西支部大会, 2024.10.20.

・土肥真由香・太田尚孝・新保奈穂美(2024)ナイトタイムエコノミーの観点からみる都市公園の活用可能性とパークマネジメント～神戸市東遊園地と横浜市山下公園を対象に～. 2024 年度日本造園学会 関西支部大会, 2024.10.20.

(ポスター発表)

・小谷野真希・新保奈穂美(2024)市民が管理するコミュニティ農園の創出支援制度の現状と課題. 2024 年度日本造園学会 関西支部大会, 2024.10.20.

・大塚理香子・新保奈穂美(2024)農を用いた子どもの居場所の特徴解明—兵庫県洲本市 TERRA 子舎自然農を対象に—. 2024 年度日本造園学会 関西支部大会, 2024.10.20.

(査読等)

・ランドスケープ研究

・農村計画論文集

・Urban and Regional Planning Review

・Urban Forestry and Urban

Greening

・Cities & Health

・Cities

・Wellbeing, Space and Society

3. その他の研究

(外部資金の獲得)

・科研費 若手研究「社会福祉施設との連携を踏まえたコミュニティガーデンに関する空間計画論の構築」(2021～2024 年度, 研究代表者)

・一般財団法人第一生命財団 都市とくらしの分野 2023 年度研究助成 奨励研究「ウォークアブルシティの実現に向けたパークレットの設置・利用実態の解明—ベルリン市・ウィーン市の助成プログラムに注目して—」(2024.4～2025.3, 研究代表者)

・科研費 基盤研究(B)特設分野「人口減少下の大都市近郊における農的資源の評価」(2019～2024 年度, 研究分担者)

・科研費 基盤研究(B)「空き空間を活用した社会的孤立を解消・予防する「つながる場」の形成実態と展開可能性」(2023～2026 年度, 研究分担者)

・公益財団法人トヨタ財団 2024 研究助成プログラム「グリーン・ジェントリフィケーションによる緑地資源の公平性および住民の行動への影響: 東南アジア大都市に着目して」(2024.11～2026.10, 研究分担者)

4. 学内委員会などの活動

(景観園芸学校)

・運営会議委員

・新展開会議委員

・国際化推進主査

・学生生活支援委員

・紀要・学校報編集委員

5. 社会活動

(委員会)

・岩槻駅西口土地区画整理審議会委員(2017.10～), 埼玉県さいたま市

・さいたま市花とみどりのまちづくり審議会委員(2020.8～), 埼玉県さいたま市

・淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地管理運営協議会観光交流部会委員(2021.6～), 兵庫県淡路市

・尼崎市都市計画審議会住宅政策分科委員(2021.12～), 兵庫県尼崎市

・尼崎市都市計画審議会公園緑地分科委員(2022.1～), 兵庫県尼崎市

・神戸市公園緑地審議会委員(2022.1～), 兵庫県神戸市

・兵庫県まちづくり審議会 委員(2023.3～)

・兵庫県規制改革推進会議委員(2023.12～2024.3)

・埼玉県トラスト運動・基金のあり方検討委員会委員(2024.4～)

・埼玉県みどりの再生県民会議委員(2024.7～)

・兵庫県花緑検討小委員会委員(2024.5～)

(講演等)

・持続可能なまちづくりと農 —都市

型農園のすすめー. 大阪都市農業研究会, エルおおさか, 2024.4.20

- ・都市と農——日本と世界のトレンドを読む. 都市を学ぶ人のためのキーワード事典』レクチャーシリーズ, オンライン, 2024.5.8.
- ・Conflicts between place-making and spatial negotiation: Thinking from community gardens. 5th Japanese-American-German Frontiers of Science Symposium (JAGFoS), 京都ブライトンホテル, 2024.10.26.
- ・まちと農と私. Pub ツチ(三田市フラワータウン再生に向けた勉強会). 人と自然の博物館, 2024.11.13.
- ・緑でまちを変える!?. 大道公園デザインミーティング, 大道公園, 2024.11.14.
- ・日本と世界のアーバンファーマーミング. ふれあいマルシェ, 渋谷区ふれあい植物センター, 2024.12.1.
- ・都市における農的空間を通じた社会課題の解決. 慶應義塾大学 建築設計研究室 ゲスト講義, オンライン, 2025.1.7.
- ・コミュニティガーデンの力で社会格差に立ち向かうーシアトルとデトロイトからの示唆ー. AGN 東播磨キャラバン, 加古川市民交流ひろば, 2025.2.26.
- ・東京砂漠も緑の森に!?. アーバンファーマーミングの現在地. 「GREEN×EXPO 2027」ってなんだろう in 国営昭和記念公園 Vol.1 農のあるまちの未来に種をまこう, 国営昭和記念公園, 2025.3.23.

6. 学会活動など

(所属学会)

- ・日本造園学会
- ・日本都市計画学会
- ・農村計画学会

(学会各種役職)

- ・日本造園学会 学術委員会幹事, 関西支部運営委員会委員
- ・日本都市計画学会 学術委員会, 関西支部企画委員会委員
- ・農村計画学会 評議員

◆藤田 楓加

副主任

1. 教育活動

1.1 生涯学習課程担当科目

- ・まちづくりガーデナー本科コースの企画および実施
- ・まちづくりガーデナーマスターコースの企画および実施
- ・まちづくりガーデナーテーマコース(身近な材料で肥料と土づくり)の企画および実施

1.2 その他の学生指導、学内行事指導など

- ・まちづくりガーデナー受講生の課題解決活動、および成果発表にかかる指導
- ・まちづくりガーデナー受講生の演習発表会にかかる指導
- ・まちづくりガーデナー修士生への景観園芸の実践支援、相談。
- ・AHGC(Alpha Healing Garden Club)の活動支援
- ・フィールド倶楽部及びフォローアップ講座の企画および実施

2. 学内委員会などの活動

(研究科)

- ・広報委員会
- (園芸学校)
- ・紀要・学校報編集委員会
- ・管理部関連委員会(男女共同・フィールド管理)

3. 社会活動

(講演等その他)

- ・NPO法人アルファグリーンネット 淡路地区キャラバン講演(2024.6.21)
- ・NPO法人アルファグリーンネット アルファメイト研修会講師(2025.3.27)

◆蛭田 永規

景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科緑環境景観専門員)

1. 教育活動

1.1 生涯学習課程担当科目

- ・花と緑のまちづくりガーデナー・本科コースの企画及び実施
- ・花と緑のまちづくりガーデナー・マスターコースの企画及び実施

1.2 その他の学生指導、学内行事指導等

- ・まちづくりガーデナー受講生の課題解決活動及び成果発表に係る指導
- ・まちづくりガーデナー受講生の実践演習発表にかかる指導
- ・フィールド倶楽部及びフォローアップ講座の企画・実施
- ・AHGC(Alpha Healing garden

- Club)の活動支援
- ・AGNデモンストレーションガーデン(ひょうごまちなみガーデンショー)作製に係る指導
- ・キャンパス植物園の整備

2. 学内委員会などの活動

- (研究科)
- ・教務委員会
- (園芸学校)
- ・生涯学習委員会
- ・環境保全委員会
- ・フィールド会議

3. 社会活動

- (講演等その他)
- ・NPO法人アルファグリーンネット
アルファメイト研修会講師
(2024.10.29)
- ・兵庫県立森林大学校 施設見学案内(2024.12.10)
- ・NPO法人アルファグリーンネット
神戸キャラバン講演(2025.1.24)

◆沈悦

主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観
マネジメント研究科 教授)

1. 教育活動

- 1.1 大学院科目
- ・緑環境景観マネジメント概論(1年,前期,主任)
- ・景観計画デザイン論(1年,前期,主任)
- ・活用デザイン基礎演習(1年,前期,主任)
- ・生活空間デザイン演習(1年,前期,主任)

- ・景観活用デザイン演習(1年,後期,主任)
- ・緑環境景観マネジメント企画演習II(1年,後期,分担)
- ・実務社会と技術者能力(1年,後期,分担)
- ・反復型インターンシップ(1年,前・後期,分担)
- ・活用デザイン実践演習(2年,通年分担)

1.2 学部教育科目

- ・兵庫県立大学環境人間学部「緑の都市づくり計画と設計」講義(分担)

1.3 その他の担当教育科目

- ・花と緑のまちづくりマスターコース講師

1.5 学生指導・学内行事指導等 (実践型教育の実施、指導、発信)

- ・明石市石中崎公園及びその周辺のランドスケーププラン(院生6名、それぞれの計画を兵庫県明石市に提案+現地発表)
- ・公園空間におけるストレス緩和の調査とその重要拠点の提案(広州市越秀公園に提案,院生1名)
- ・現代社会における公園改修の提案ー中国長春市長春公園をモデルとしてー(長春市長春公園管理拠への提案,院生1名)

- ・AIを用いた景観表現の可能性(院生1名)
(その他の指導)
- ・留学生指導
- ・デッサン指導
- ・プレゼン指導
- ・学生コンペ指導

2. 学内委員会などの活動

- (学内委員会)
- ・ACC委員会(委員長)
- ・自己評価委員会(委員)
- ・運営委員会(委員)
- ・入試委員会(委員)
- ・FD委員会(委員)
- ・専門職大学院認証評価チームメンバー
- (県立大学学部特色化事業)
- ・研究科のPR活動

- 1) 桂林理工大学との交流(オンライン)
- 2) 深セン大学との交流(オンライン)
- 3) 北京林業大学との交流(オンライン)
- 4) 華南理工大学との交流(オンライン)

3. 主な業績

- 3.1 論文・作品・受託研究など(作品)
- ・沈悦(2024) [遠隔管理による庭づくり～A邸](#), ランドスケープ研究増刊, 作品選集 87(17) 143-144
(研究上の受賞)
- ・第二十一回深セン市優秀プロジェクト勘察設計一等賞(仙湖植物園苦苣苔園設計)
- ・第二十一回深セン市優秀プロジェクト勘察設計二等賞(2024成都世界園芸博覧会徳陽園設計)

4 社会活動

- (専門講座・講演)
- ・沈悦「地域遺産とランドスケープ」, 桂林理工大学観光及び風景園林学院特別講座(オンライン)

- ン).2024.10
- ・沈悦「景観計画Ⅱ」,深セン大学建築学院特別講座
(オンライン),2024.9
(アドバイザー)
 - ・中国海口市海外シンクタンクメンバー(2008～)
 - ・深セン市福田区街路景観緑化再整備に助言(オンライン),2024.9
 - ・中国徐州市国際花博跡地利用の助言Ⅱ(オンライン,2024.8
(その他)
 - ・人口減少に伴う都市空間の緑要素のあり方検討会委員(中国広東省勘察設計協会)
 - ・中国深セン大学粵港澳自然保護地研究センター顧問・名誉委員
 - ・北京林業大学風景園林学院兼任教授(非常勤2006～)
 - ・桂林理工大学兼任教授(非常勤,2019～)
 - ・日本造園学会研究論文集査読委員(2000～)
 - ・都市計画学会関西支部国際委員会委員(2004～)
 - ・中国風景園林学会規畫委員会委員
 - ・中国風景園林学会誌「中国園林」編集・刊行委員会委員
 - ・中国ランドスケープ専門誌「風景園林」編集・刊行委員会委員
 - ・中国深セン市土木建築学会生態委員会委員
 - ・中国広東省都市計画協会風景園林分会学術委員

◆竹田 直樹

主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観

マネジメント研究科 准教授)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・環境文化活用演習
- ・環境文化活用論
- ・活用デザイン実践演習

1.2 その他の担当教育科目

- ・環境芸術論

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等

(報告や論文など)

- ・竹田直樹(2024):アーティストが自律的に実現するこれまでとは原理が異なる新たなタイプのパブリックアートがストリートに現れた。それは民主主義と親密なものだった。環境芸術(31)74-84

- ・竹田直樹(2025):公共空間に設置された初期の裸体像に関する考察—女性裸体像をめぐる諸問題に着目した研究、景観園芸研究(25)31-51

(査読等)

- ・環境芸術学会

(展覧会)

- ・個展「深い森から展」ギャラリーマリー(神戸市)

3. 学内委員会などの活動

(園芸学校)

- ・環境委員会
- ・図書委員会
- ・学校報紀要委員会

4. 社会活動

(委員会)

- ・兵庫県開発審査会
- ・福崎町都市計画審議会

5. 学会活動など

(所属学会)

- ・環境芸術学会
- (学会各種役職)
- ・環境芸術学会理事

◆光成 麻美

景観園芸専門員

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・ガイダンス講義(1年前期、分担)
- ・活用デザイン基礎演習(1年前期、分担)
- ・生活空間デザイン演習(1年前期、分担)
- ・緑環境景観マネジメント概論(1年前期、分担)
- ・景観活用デザイン演習(1年後期、分担)
- ・地域資源・観光プロデュース(1年通年、分担)
- ・緑地活用論(2年前期、分担)
- ・活用デザイン実践演習(2年通年、分担)

1.2 園芸療法課程担当科目

- ・栽培演習(分担)

1.3 その他の担当科目

- ・まちづくりガーデナーマスターコース(分担)
- 「庭園デザイン演習」

1.4 その他の学生指導、学内行事指導等

- ・日本造園学会全国大会 U30 公開デザインコンペ作品指導

- ・2024年度グッドデザイン・ニューホープ賞、コンペ作品指導
- ・土木デザイン設計競技 景観開花。2024、コンペ作品指導
- ・ひょうごまちなみガーデンショー in 明石、出展作品指導
- ・淡路花祭 2024 秋、出展作品指導
- ・アルファ祭における学生相談、指導

2. 学内委員会などの活動

- (園芸学校)
- ・広報委員会

3. 学会活動など

- (所属学会)
- ・(社)日本造園学会(2016～)
- (所属団体)
- ・全国女性造園技術者の会(2019～)

4. 社会活動

- (委員会)
- ・淡路花博 25 周年記念 花みどりフェア 2025 企画委員会
- (その他)
- ・第6回ひょうごユース eco フォーラムファシリテーター

◆岩崎 哲也

主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 准教授)

1. 教育活動

- 1.1 研究科担当科目
- ・環境防災計画演習(1年後期)
- ・活用デザイン実践演習(2年, 分担)

- ・反復型インターンシップ(1年, 分担)
- ・ランドスケープエンジニアリング論(1年前期, 分担)
- ・緑環境景観マネジメント企画演習(1年後期, 分担)

1.2 その他の担当教育科目

- ・花と緑のまちづくり本科コース「まの緑と昆虫」(分担)
- ・花と緑のまちづくりマスターコース「樹木や昆虫の識別法と実践」(分担)
- ・花と緑のまちづくりテーマコース「花や実を見ずに50種から樹木を見分けるコツ」

1.3 その他の学生指導、学内行事指導等

- ・身近な野生植物の使い方を通じてモンゴルの生活への理解を深めるための展示について(M2:HAOLIGE)
- ・草刈り機のスマート化に関する調査研究(研究生:山下光二)

1.4 他学部大学出講

- ・緑景観マネジメント論(兵庫県立大学工学部1年前期, 分担)

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等

- (短報・査読有り)
- ・山下光二、岩崎哲也、奥野竜平(2025)草刈り機のスマート化に関する調査研究,景観園芸研究25号, pp1-11.
- ・岩崎哲也(2025)教材等利用のためにハゼノキから簡便に樫蠟を採取する方法の試行について,景観園芸研究25号, pp13-19.2.2

(査読無し)

- ・岩崎哲也(2024)巨樹・巨木林データベース「飛木稲荷神社のイチョウ」. 環境省 web サイト. https://kyoju.biodic.go.jp/?_action=gtcontents&command=column068

3. 学内委員会などの活動

- (景観園芸学校)
- ・将来計画会議事務局
- ・広報等委員会
- ・人権啓発委員会主査
- ・予算・共同研究推進委員会主査(研究科)
- ・入試運営委員会
- ・入試広報委員会(オープンキャンパス・学校説明)主査(兵庫県立大学全学委員会)
- ・人権啓発委員会

4. 社会活動

- (役員)
- ・全国巨樹・巨木林の会 理事(2017～)
- ・あわじ地域創生センター 代表(2020～)
- ・自然環境復元協会 理事(2020～)
- ・樹木医学会 評議員(2024～)
- ・(公財)日本生態系協会 評議員(2024～)
- (委員会、研究会委員等)
- ・緑化技術コンクール(旧名称:屋上・壁面緑化技術コンクール)審査会委員, (公財)都市緑化機構(2023～)
- ・樹木医事例集等改訂委員会委員, (一社)日本樹木医学会

- ・1級・2級ビオトープ管理士試験管理関連委員, (公財)日本生態系協会(2009～)
- ・環境教育委員会委員, NPO 法人自然環境復元協会(2020～)
- ・学術委員会委員、環境再生医(第4版)編集委員長, NPO 法人自然環境復元協会(2023～)
- ・ランドカバー・ガーデニング共同研究会地域性系統緑化部会部会員, (公財)都市緑化機構
- ・環境緑化技術共同研究会会員, 技術評価分科会, (公財)都市緑化機構
- ・日本樹木医学会技術部会オブザーバー, (一社)日本樹木医学会
- ・住友林業緑化(株)愛媛県新居浜市ビオトープアドバイザー
- ・畦畔管理スマート化研究協議会、畦畔管理スマート化計画策定オブザーバー

(講演等その他)

- ・ビオトープ管理士セミナー講師(対面開催 2024.6.30, 30名、webオンデマンド開催 2024.7～11), 施工部門, 日本生態系協会
- ・淡路市市民防災セミナー講師 ～ 阪神・淡路大震災30年を迎える今、改めて防災まちづくりを自分ごととして考えよう! 「北淡の公園についてー身近な小公園を考えるー」(2024.2.27), 北淡公民館, , 淡路市北淡事務所・北淡地区町内会, 約70名
- ・環境再生医中級初級資格者講座「都市部での生物多様性～小さな生きもの達から考える「いのちと環境」への向き合い方, web 配信

(2025.1.11～1.31), NPO 法人自然環境復元協会, 71名

- ・短評「ティーバッグを用いた土壌の有機物分解能力の簡易的な測定手法」について, 「生きもの技術ノート No.124」ランドスケープ研究 88巻4号. p.349.日本造園学会.

5. 学会活動など

(所属学会)

- ・日本造園学会(1988～)
- ・樹木医学会(1999～)
- ・環境情報科学センター(2002～)
(学会各種役職)
- ・造園 CPD 推進委員会、企画会議委員(2019～)日本造園学会
- ・造園 CPD プログラム認定委員会幹事(2019～2021)日本造園学会
- ・生態工学推進委員会(2024～)日本造園学会

VI 資 料



1 令和6年度 マスコミ等掲載(取材)状況

掲載日 (放映日)	掲載新聞名等	内 容(テーマ)
4/9(火)	日経グローバル	官民協力で耕す都市型農園「ニコタマ」に住民交流の畑 (新保先生コメント)
4/18(木)	神戸新聞	「どんざ」の魅力知って (修了生岡本佳奈さん活動紹介)
4月号	神戸新聞読者クラブ 奥さま手帳	兵庫県立淡路景観園芸学校 アルファガーデン (施設紹介)
5/22(水)	Kiss PRESS	インクルーシブプレーパーク開催(明石公園・イベント紹介)
5/28(火)	日経BP	公園内にコミュニティ農園(新保先生コメント)
6月号	広報南あわじ	包括連携協定の紹介(淡路景観園芸学校、南あわじ市、県立淡路三原高等学校、国立淡路青少年交流の家での取組み)
6/12(水)	読売新聞淡路版	会えたシロチドリ 神戸で2羽撮影成功(藤原先生コメント)
7/2(火)	神戸新聞NEXT	公園に農園、人の輪育で誰でも可能な「エディブルパーク」、神戸市で開園続々 (新保先生コメント)
7/10(水)	神戸新聞	食でつながる都市の農園「エディブルパーク」神戸に続々 (新保先生コメント)
7/26(金)	神戸新聞神戸版	島の地域課題で意見交換 景観園芸学校で知事と住民(躍動カフェ)
8/7(水)	読売新聞神戸明石版	チドリの鳴く砂浜守れ(修了生 原彩菜さん活動紹介)
8/20(火)	神戸新聞神戸版	淡河の自然を学び魅力体感 昆虫標本や雑貨作り挑戦 (嶽山先生イベント紹介)
8/18(日)	ラジオ関西 谷五郎の笑って暮らそう こちら兵庫県立大学です	地域の自然景観の探索と保全(山本先生)
9/20(金)	神戸新聞 神戸版	住宅密集地に植物で彩り 花壇などモデルガーデン(空地プロジェクト活動・15期生駒ヶ嶺さん)
9/23(月祝)	神戸新聞 「からだ」面	園芸療法 心穏やかに、終末期にも効果(剣持先生)
10/17(木)	読売新聞 地域面	地域の恵み実らす人々 都市部に芽吹く農空間 (新保先生)
10/25(金)	NHK総合テレビ リブラブ ひょうご	淡路花博会場紹介(宿根草ガーデン、ミニガーデン等)
11/1(金)	KOBEジャーナル	神戸ピーポー 「駒ヶ嶺光」さん 町の空き地を変える人
11/5(火)	産経新聞 社会面	誰でも一緒に遊べる公園に 特性問わぬインクルーシブ遊具(美濃先生コメント)
11月号 隔月刊	グリーン情報	花葉サマーセミナー2024 講演紹介(豊田先生) 「植物・園芸の効用とオフィス・図書館・高齢者施設における活用」
11/14(木)	中国新聞 暮らし面	植物に癒されるネイチャーブレイク(豊田先生)
11/22(木)	日経BP 新・公民連携最前線	まちなかの空きスペースを農園に多様な、関わりしる”が魅力(新保先生)
12/12(木)	日経BP 新・公民連携最前線	空き地をコミュニティ農園と広場空間に 「みんなのうえんPARK湊川」(3者協定・駒ヶ嶺さん活動)
12/13(金)	徳島新聞 総合面	園芸療法じわり拡大 リハビリ・心の安定に効果(剣持先生)
12/26(木) ~31(火)	四万十ケーブルテレビ	シウガを保存する壕の活用策を探る研究(研究科2年山崎快彦さん)
1/8(水)	日経電子版	水害の北朝鮮、復興で農村一変、現場と衛星画像で分析 (新保先生コメント)
1/8(水)	神戸ジャーナル	須磨区・多井畑で「自然体験」イベント「プレーパーク」開催 (嶽山先生イベント告知)
1/18(土)	日本農業新聞	「阪神・淡路大震災30年 あの日をつなぐ」 JA園芸療法 前を向く心の一助に
3/22(土)	毎日新聞WEB	絶滅危惧種の「チドリ」守れ 兵庫・淡路島で住民らが保全活動
3/23(日)	毎日新聞	守れ島のシンボル「チドリ」(上) 淡路島で共存を ~絶滅の危機~
3/24(月)	毎日新聞	守れ島のシンボル「チドリ」(下) 環境どう保全? ~産卵場に看板を~

2 情報発信

多目的ホールなど学校施設を活用し、園芸療法課程や研究科の学生による課題発表や実践発表を実施するとともに、受験生を対象としたオープンキャンパスは Web・対面併せて合計 16 回実施した。

◇オープンキャンパス

期間：4月22日～3月21日



学校の魅力・情報発信については、例年参加している「ひょうごまちなみガーデンショー」等に加え、神戸・三宮センター街で広報動画を放映するなど、さまざまな機会を捉えて本校の周知・PRに取り組んだ。

◇ひょうごまちなみガーデンショー in 明石

期間：9月22日～29日



◇地下鉄県庁前駅 広報ショーウィンドー「ひょうご情報ステーション」出展



◇神戸・三宮センター街で放映したPR動画の冒頭部



3 淡路景観園芸学校の来訪者概要

本校は、1999年4月の開校以来、全国初の“景観園芸”という新しい分野の教育・研究機関として活動を続けており、自然と調和したまちづくりの専門家を育成する校内の庭園を1年中開放している。学生たちの実習の場でもある園内は四季折々の花木をはじめ、日本庭園やロックガーデンなどさまざまな見どころがあることから、県内外の高等学校、花とみどりの活動を行っている団体等多くの方が訪れている。

そうした中、生涯学習コースの修了生が組織したNPO法人アルファグリーンネット（AGN）の会員が中心となり、本校を訪れる方々を案内するボランティアガイド（アルファメイト）を結成し、案内活動を行っている

前年に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、様々な制限が緩和されたにもかかわらず、団体客の来校件数は回復に及ばず、一団体当たりの人数も小規模なものが目立つ傾向にある。このため、年間の来訪者数は2年続けて減少した。

【主な視察団体】

- ・高槻景観園芸クラブ
- ・六甲案内人の会
- ・姫路市老人大学
- ・養父市商工会女性部
- ・県立農業高等学校
- ・西宮市立大社中学校環境ボランティア
- ・NPO 法人環境ユーステイングてんま
- ・阿古谷まちづくり協議会
- ・森林セラピー同好会（韓国）
- ・神戸新聞文化センター春季公開講座
- ・市場地区現代セミナー
- ・鴨子ヶ原スローライフ倶楽部
- ・河西地区民生・児童委員会
- ・近畿土地改良技術連盟
- ・加古川ハーブの会
- ・鳥飼上さわやかサロン
- ・猪名川町役場
- ・池田市民生委員児童委員協議会
- ・主馬野園芸
- ・大阪府高齢者大学

【2024年度の来訪者数（月別）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1,215	1,272	1,126	978	620	1,176	1,105
11月	12月	1月	2月	3月	合計	
1,060	602	508	686	1,110	11,458名	

兵庫県立淡路景観園芸学校
学校報 ALPHA 2024

編集 学校報編集委員会
竹田 直樹（委員長）
小椋 菜美・金原 淳一
劔持 卓也・澤田 佳宏
藤田 楓加
（50音順）
陰山 裕志

発行人 柴田 昌三

発行所 兵庫県立淡路景観園芸学校
兵庫県淡路市野島常盤 954-2
TEL. 0799-82-3131

